

愛知県強度行動障害児者実態調査 報告書

令和8年3月

愛知県

目次

I 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
II 調査結果	5
1. ご本人の状況	5
2. 生活の場と家族の状況	18
3. 強度行動障害の状態	26
4. 利用している福祉サービスや日中活動の場	46
5. 医療・関係機関との連携状況	58
6. 困りごとや必要な支援	70
III 地域分布図	76
IV 総括	84
(参考資料)	
ライフステージ別の困りごとや不安、ほしい支援やサービス (一部抜粋)	89
調査票	108

I 調査概要

1. 調査目的

愛知県内（名古屋市を除く）在住の強度行動障害の状態にある児者とその家族の支援ニーズを把握する。地域における課題を整理し、市町村・関係機関と併せてどのように体制整備を行うかの基礎資料とする。

2. 調査方法

(1) 調査対象

強度行動障害の状態にある児者 4,400名

以下の基準に基づき、市町村に対象者の把握と人数の報告を依頼した。

(基準内容)

1. 基準日：令和7（2025）年4月1日現在
2. 障害福祉サービス等を利用している者
（居宅・通所・入所系サービスや障害児通所支援など）
3. 以下の加算のいずれかを算定している者のうち、行動関連項目 10 点以上の者
（18 歳以上）、強度行動障害判定基準表 20 点以上の児（18 歳未満）
 - ◇ 重度障害者支援加算
 - ◇ 強度行動障害児支援加算
 - ◇ 個別サポート加算
 - ◇ 関係機関連携加算
 - ◇ 事業所間連携加算

(2) 調査方法

- 調査票の配布：名古屋市を除く 53 市町村へ調査票を郵送し、市町村から対象者へ調査票を配布。
- 調査票の回収：郵送またはウェブ回答

(3) 調査実施期間

令和7年9月1日～9月30日

(4) 調査項目

- 1 ご本人の状況
- 2 生活の場と家族の状況
- 3 強度行動障害の状態
- 4 利用している福祉サービスや日中活動の場
- 5 医療・関係機関との連携状況
- 6 困りごとや必要な支援

(5) 調査項目配布・回収状況

- 配布数 4,400 件のうち、回収数は 2,537 件（回収率 57.7%）となった。
- 回収方法別では、紙（郵送）による回答が 85.7%、ウェブが 14.3%となった。

表 圏域別配布・回収状況

圏域	圏域別人口 (令和7年 4月1日時点)	配布数	回収数				% (回収率)
			18歳未満	18歳以上	年齢未記入	合計	
尾張中部	168,463	112	19	28	0	47	42.0%
海部	318,059	308	12	177	2	191	62.0%
尾張東部	474,168	305	10	141	2	153	50.2%
尾張西部	502,391	473	7	225	2	234	49.5%
尾張北部	720,176	602	9	287	4	300	49.8%
知多半島	615,822	616	32	334	2	368	59.7%
西三河北部	476,445	575	3	310	1	314	54.6%
西三河南部東	421,802	315	0	159	1	160	50.8%
西三河南部西	695,717	367	18	203	1	222	60.5%
東三河北部	48,096	53	13	25	0	38	71.7%
東三河南部	677,835	674	15	400	3	418	62.0%
その他			0	47	1	48	
回答なし			0	39	5	44	
合計	5,118,974	4,400	138	2,375	24	2,537	57.7%

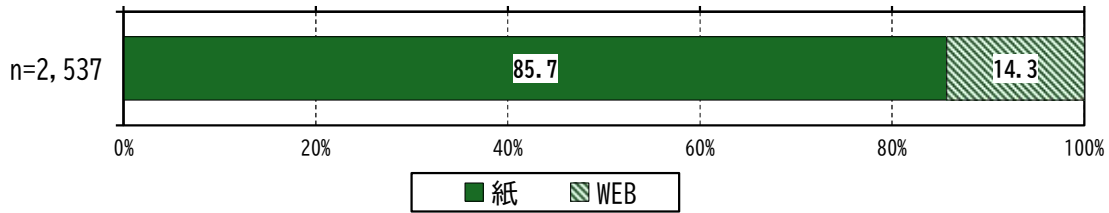
(圏域別市町村一覽)



尾張中部	清須市
	北名古屋市
	豊山町
海部	津島市
	愛西市
	弥富市
	あま市
	大治町
	蟹江町
	飛鳥村
尾張東部	瀬戸市
	尾張旭市
	豊明市
	日進市
	長久手市
尾張西部	一宮市
	稲沢市
尾張北部	春日井市
	犬山市
	江南市
	小牧市
	岩倉市
	大口町
扶桑町	

知多半島	半田市
	常滑市
	東海市
	大府市
	知多市
	阿久比町
	東浦町
	南知多町
	美浜町
武豊町	
西三河北部	豊田市
	みよし市
西三河南部東	岡崎市
	幸田町
西三河南部西	碧南市
	刈谷市
	安城市
	西尾市
東三河北部	知立市
	高浜市
	新城市
	設楽町
東三河南部	東栄町
	豊根村
	豊橋市
	豊川市
	蒲郡市
	田原市

図表 回収方法別回収票の割合



(6) 報告書の見方

- 図中の構成比 (%) は、複数回答、単数回答ともに、少数点第 2 位を四捨五入しているため、図中の構成比 (%) を合計しても、必ずしも 100.0%にならない。
- 図表中の表、グラフ等の見出しおよび文章中の選択肢の表現を、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがある。
- クロス集計表では、表側の「無回答」は省略している。このため、全体の n 値と表側の項目の n 値を合計しても一致しない場合がある。
- 年代別や圏域別等のクロス集計図表では、各項目内の回答割合について、割合が高い順に 3 色で色分けしている。
- 年代別のクロス集計表では、特に断りのない限り、令和 7 年 4 月 1 日現在の対象者の年齢 (問 4) を表側とし、図表名に記載した項目を表頭として集計している。

図表 圏域別強度行動障害児者数 (推計)

※ 18 歳以上・行動関連項目 10 点以上の者

※ 18 歳未満・強度行動障害判定基準表 20 点以上の児



II 調査結果

1. ご本人の状況

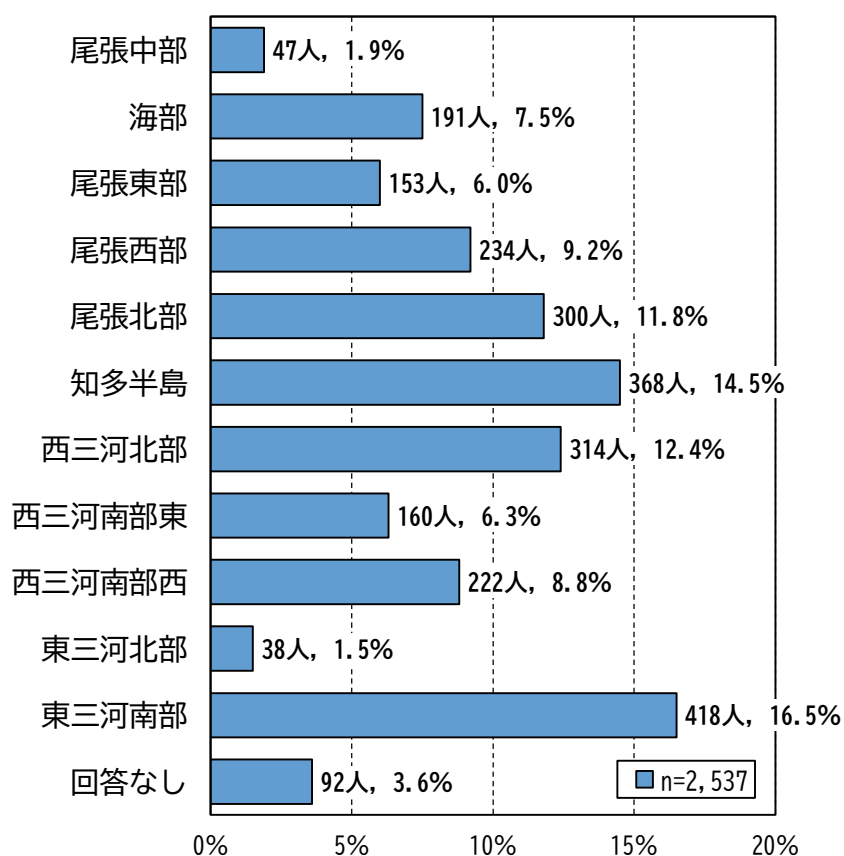
(1) 居住地

問1

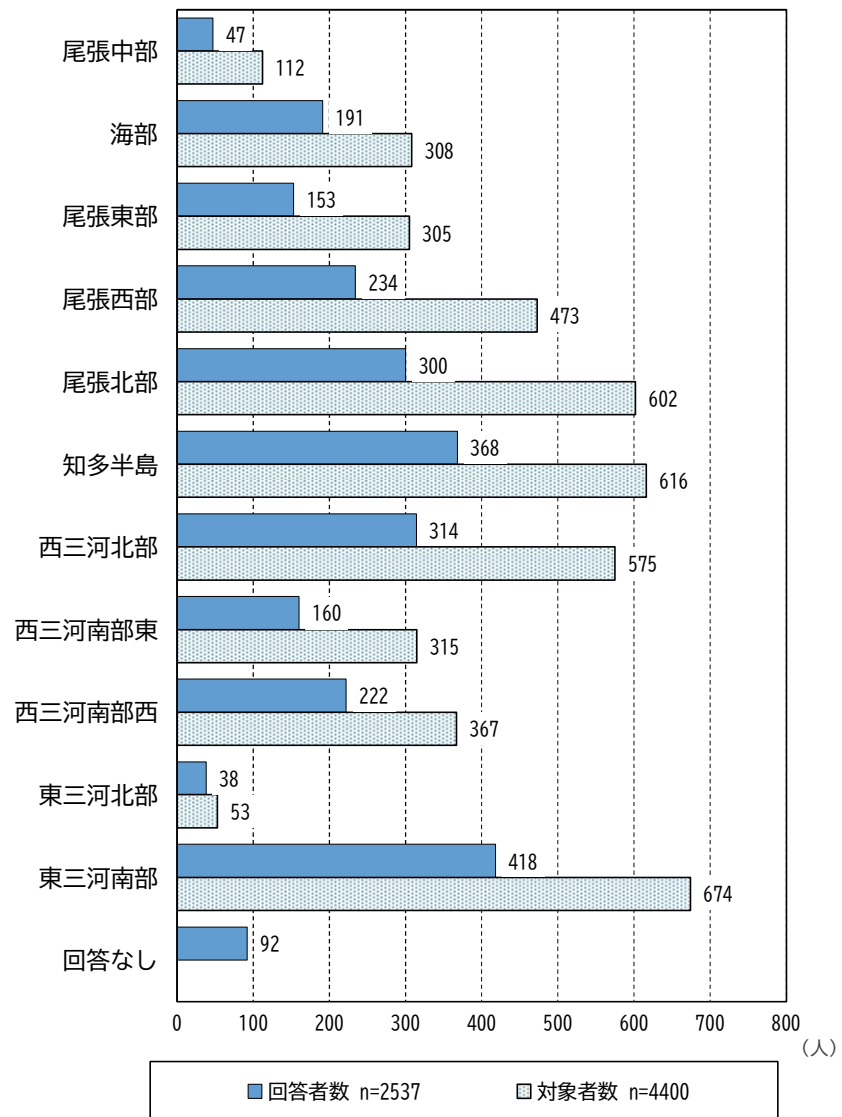
ご本人がお住まいの市町村を教えてください。
(あてはまるもの1つだけに○)

東三河南部（16.5%）、知多半島（14.5%）で割合が高い。一方、尾張中部（1.9%）や東三河北部（1.5%）は割合が低い。

図表 居住地



図表 居住地の回答者数と対象者数の比較



(2) 回答者

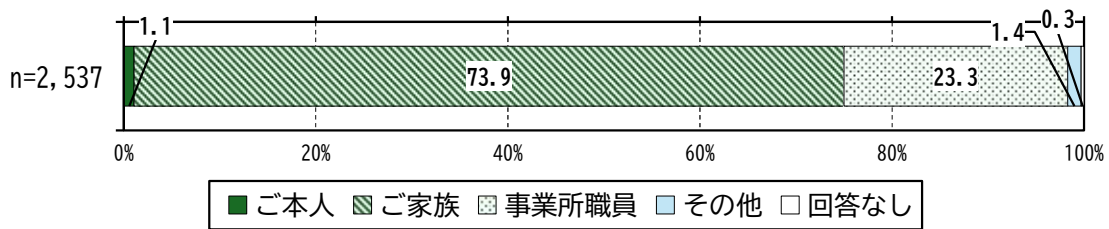
問2

このアンケートに回答しているのはどなたですか。
(あてはまるもの1つだけに○)

アンケートの回答者は、「ご家族」が大半を占め73.9%、「事業所職員」が23.3%となっている。「ご本人」も1.1%ある。

なお、「その他」の具体的な回答では、「成年後見人」、「相談員」などが挙げられた。

図表 回答者の種別



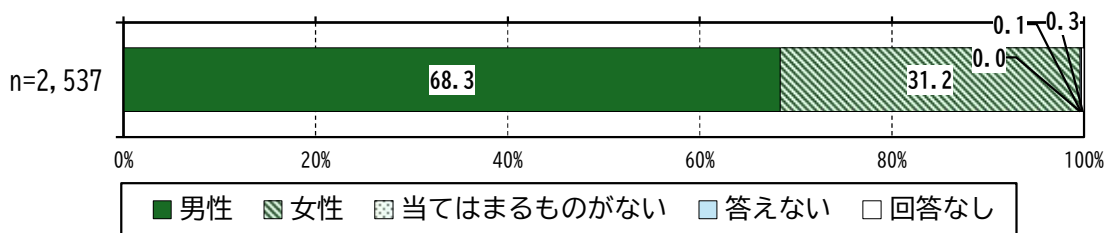
(3) 性別

問3

ご本人の性別を教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

ご本人の性別は、「男性」が68.3%、「女性」が31.2%となっている。

図表 ご本人の性別



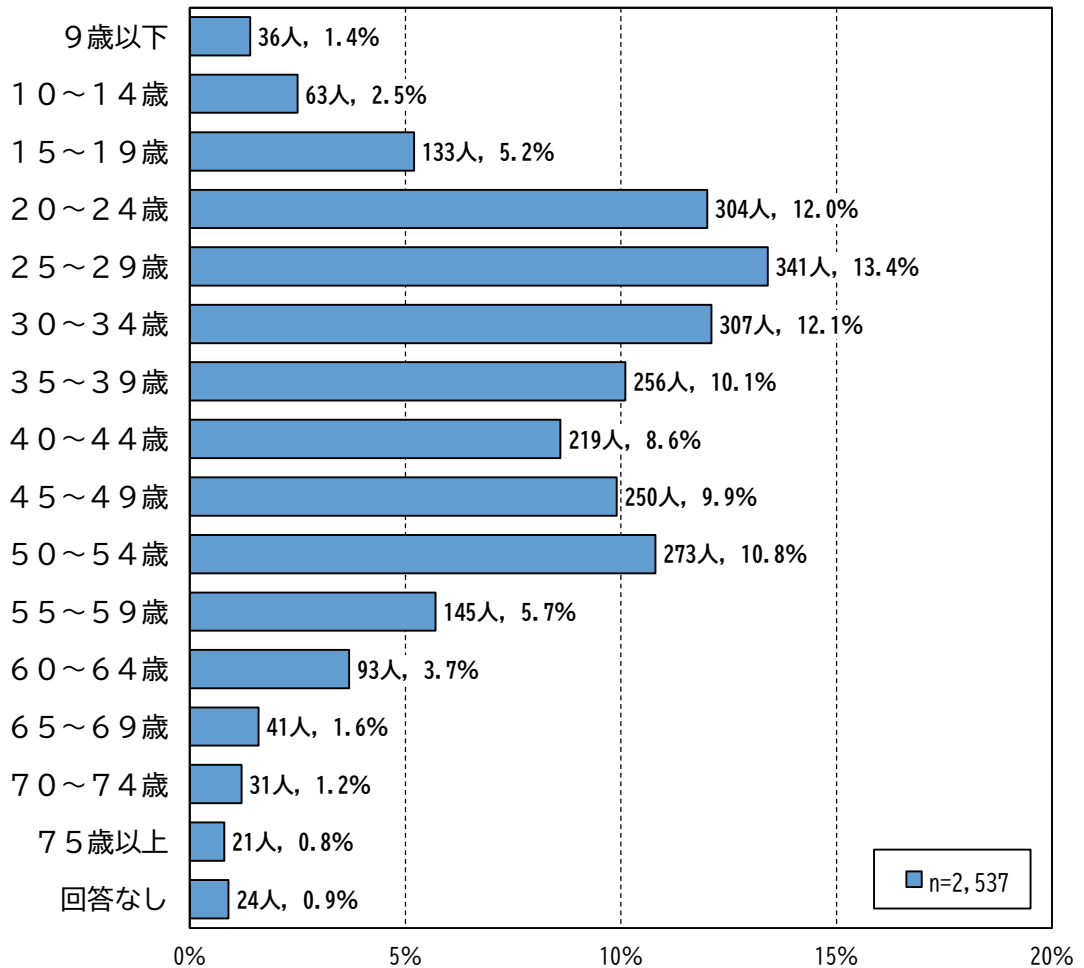
(4) 年齢

問4 ご本人の年齢（令和7年4月1日現在）を教えてください。（数字を記入）

ご本人の年齢については、「20～24歳」「25～29歳」「30～34歳」「35～39歳」「50～54歳」が10%台と比率が高くなっている。

「9歳以下」と「10～14歳」をあわせた15歳未満は、3.9%である。

図表 ご本人の年齢



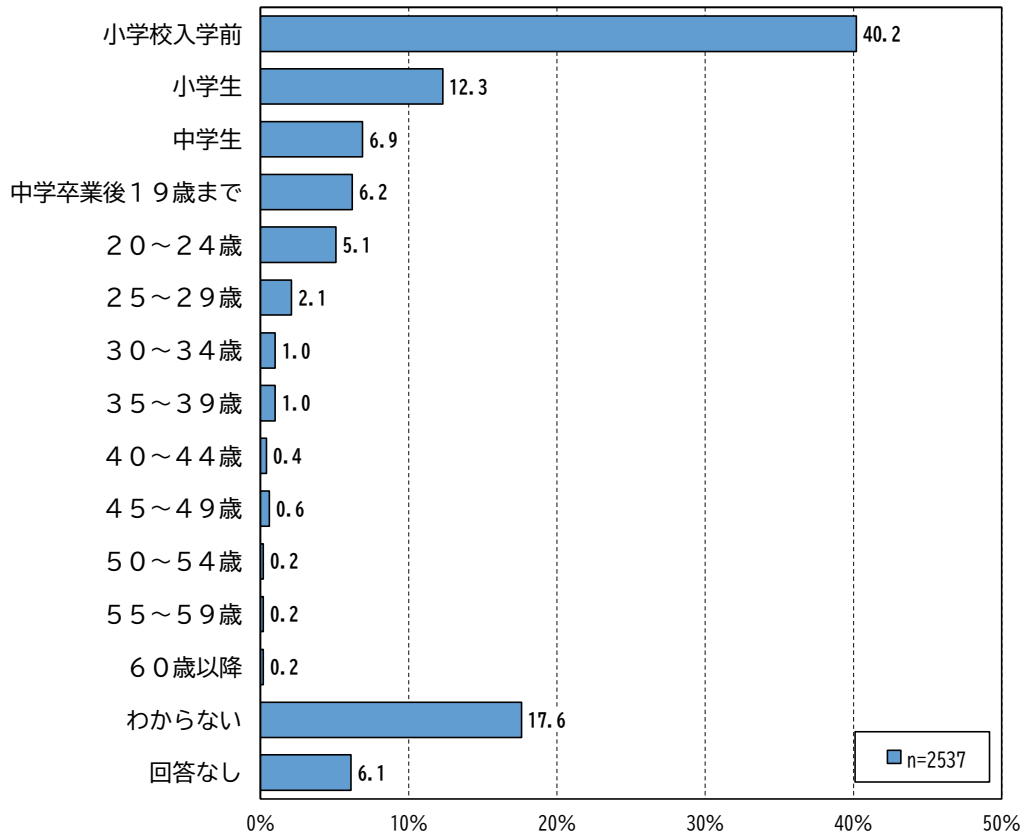
(5) 強度行動障害の症状が出始めた時期

問5

強度行動障害の症状が出始めたのはいつ頃からですか。
(あてはまるもの1つだけに○)

強度行動障害の症状が出始めた時期は、「小学校入学前」が40.2%、「小学生」が12.3%となっており、早期の始まりがうかがえる。他方で、「わからない」も17.6%ある。

図表 強度行動障害の症状が出始めた時期



【年代別】

表 強度行動障害の症状が出始めた時期（年代別）

	n=	小学校入学前	小学生	中学生	中学卒業後 19歳まで	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳
全体	2,537	1,020	311	174	157	129	54	25	26
%		40.2	12.3	6.9	6.2	5.1	2.1	1.0	1.0
0～9歳	36	24	10	-	-	-	-	-	-
%		66.7	27.8	-	-	-	-	-	-
10～19歳	196	82	53	25	17	-	-	-	-
%		41.8	27.0	12.8	8.7	-	-	-	-
20～29歳	645	292	103	66	61	44	12	-	-
%		45.3	16.0	10.2	9.5	6.8	1.9	-	-
30～39歳	563	254	67	39	41	32	20	10	7
%		45.1	11.9	6.9	7.3	5.7	3.6	1.8	1.2
40～49歳	469	178	43	23	15	30	9	9	15
%		38.0	9.2	4.9	3.2	6.4	1.9	1.9	3.2
50～59歳	418	136	27	16	19	18	11	5	2
%		32.5	6.5	3.8	4.5	4.3	2.6	1.2	0.5
60歳以上	186	47	7	5	4	4	2	1	1
%		25.3	3.8	2.7	2.2	2.2	1.1	0.5	0.5

	n=	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60歳以降	わからない	回答なし
全体	2,537	10	15	6	4	4	446	156
%		0.4	0.6	0.2	0.2	0.2	17.6	6.1
0～9歳	36	-	-	-	-	-	1	1
%		-	-	-	-	-	2.8	2.8
10～19歳	196	-	-	-	-	-	16	3
%		-	-	-	-	-	8.2	1.5
20～29歳	645	-	-	-	-	-	42	25
%		-	-	-	-	-	6.5	3.9
30～39歳	563	-	-	-	-	-	62	31
%		-	-	-	-	-	11.0	5.5
40～49歳	469	5	2	-	-	-	108	32
%		1.1	0.4	-	-	-	23.0	6.8
50～59歳	418	3	12	6	1	-	123	39
%		0.7	2.9	1.4	0.2	-	29.4	9.3
60歳以上	186	2	-	-	2	4	87	20
%		1.1	-	-	1.1	2.2	46.8	10.8

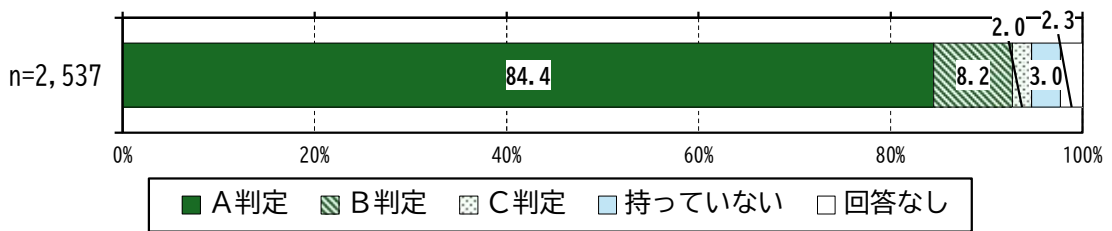
(6) 各種の手帳の等級、障害支援区分

問6 ご本人が持っている各種の手帳の等級、障害支援区分などを教えてください。

① 療育手帳 (あてはまるもの1つだけに○)

療育手帳は、「A判定」が84.4%、「B判定」が8.2%、「C判定」が2.0%で、「A判定」「B判定」「C判定」をあわせた療育手帳の所持率は94.6%となっている。

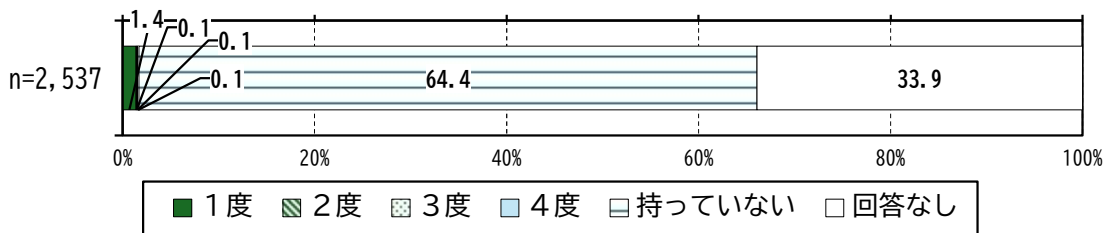
図表 療育手帳



② 愛護手帳 (あてはまるもの1つだけに○)

愛護手帳を所持している人は、「1度」が1.4%、「2度」「3度」「4度」がいずれも0.1%となっている。

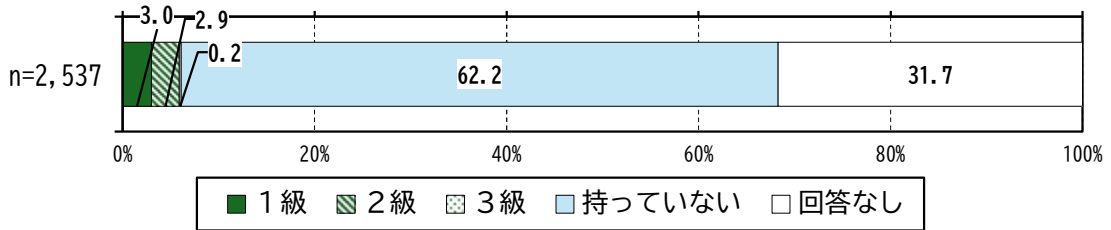
図表 愛護手帳



③ 精神障害者保健福祉手帳（あてはまるもの1つだけに○）

精神障害者保健福祉手帳を所持している人は、「1級」が3.0%、「2級」が2.9%、「3級」が0.2%となっている。

図表 精神障害者保健福祉手帳



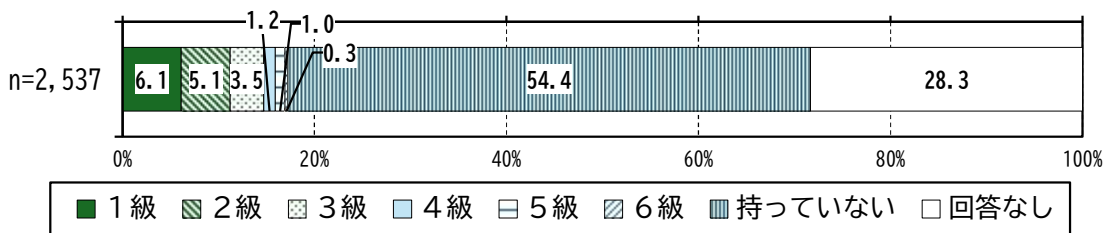
④ 身体障害者手帳（あてはまるもの1つだけに○）

身体障害者手帳は、「1級」が6.1%、「2級」が5.1%、「3級」が3.5%となっている。他方、「持っていない」が54.4%となっている。

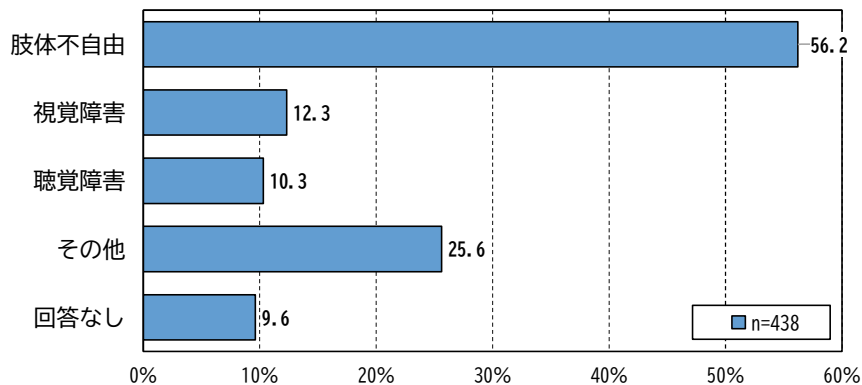
障害部位については、「肢体不自由」56.2%、「視覚障害」12.3%、「聴覚障害」10.3%、「その他」25.6%となっている。

なお、障害部位について、「その他」の具体的な回答では、「体幹機能障害」、「言語障害」「心臓疾患」などが挙げられた。

図表 身体障害者手帳



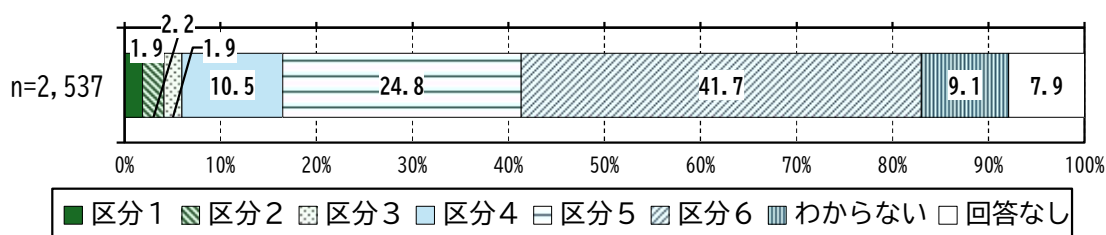
図表 身体障害者手帳所持者の障害部位



⑤ 障害支援区分（あてはまるもの1つだけに○）

障害支援区分については、支援の度合いが最も重い「区分6」の比率が最も高く41.7%、続いて、「区分5」24.8%、「区分4」10.5%と、高区分者が大半を占める。他方で、支援の度合いが軽い区分1～3も、それぞれ2%程度ある。

図表 障害支援区分



(参考)

【各種手帳の等級および障害支援区分の組み合わせによる対象者の類型】

主な制度上の組み合わせ	件	割合 (%)
療育手帳:A 判定	2,142	84.4%
療育手帳:なし	77	3.0%
障害支援区分:5・6	1,689	66.6%
精神障害者保健福祉手帳:あり	154	6.1%
身体障害者手帳:あり	438	17.3%
療育手帳:A 判定 障害支援区分:5・6	1,536	60.5%
療育手帳:A 判定 精神障害者保健福祉手帳:あり	47	1.9%
療育手帳:A 判定 身体障害者手帳:あり	393	15.5%
療育手帳:A 判定 精神障害者保健福祉手帳:あり 身体障害者手帳:あり	12	0.5%
精神障害者保健福祉手帳:あり 身体障害者手帳:あり	25	1.0%
療育手帳:A 判定 精神障害者保健福祉手帳:あり 身体障害者手帳:あり 障害支援区分:5・6	6	0.2%

(7) コミュニケーション・説明に対する理解

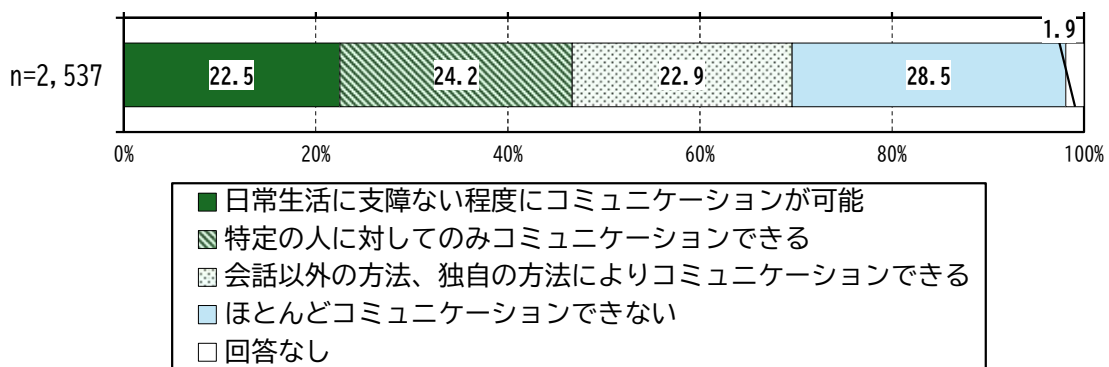
問7 ご本人とのコミュニケーション、説明に対する理解について教えてください。

① コミュニケーション（意思の疎通）の状況（最も近いもの1つだけに○）

ご本人とのコミュニケーションの状況については、「ほとんどコミュニケーションできない」が28.5%で最も高く、次いで「特定の人に対してのみコミュニケーションできる」(24.2%)、「会話以外の方法、独自の方法によりコミュニケーションできる」(22.9%)、「日常生活に支障のない程度にコミュニケーションが可能」(22.5%)となっている。

いずれの選択肢も2割台で分布しており、回答は4類型に分かれていることから、コミュニケーションの状況には幅があることが示されている。

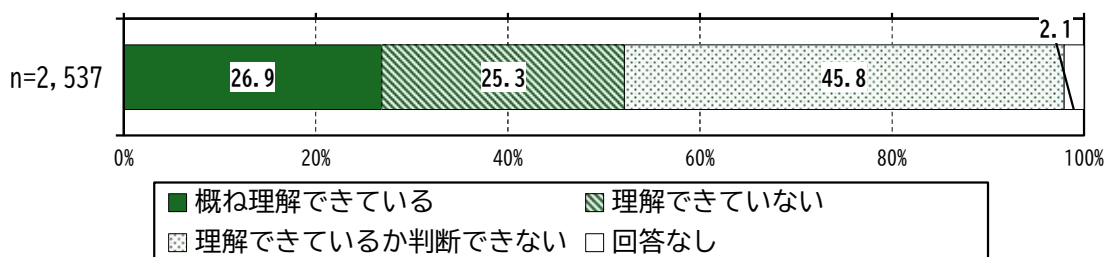
図表 ご本人とのコミュニケーションの状況



② 説明に対する理解の状況（最も近いもの1つだけに○）

ご本人の説明に対する理解の状況については、「概ね理解できている」は26.9%にとどまり、「理解できていない」が25.3%、「理解できているか判断できない」が45.8%となっている。

図表 説明に対する理解の状況



(8) あてはまる症状や状況

問8

ご本人に、次にあてはまる症状や状況はありますか。(あてはまるものすべてに○)

ご本人の症状や状況については、「自閉症」が 59.2%、「知的障害」が 55.3%、「てんかん」が 28.0%となっている。

図表 ご本人にあてはまる症状や状況

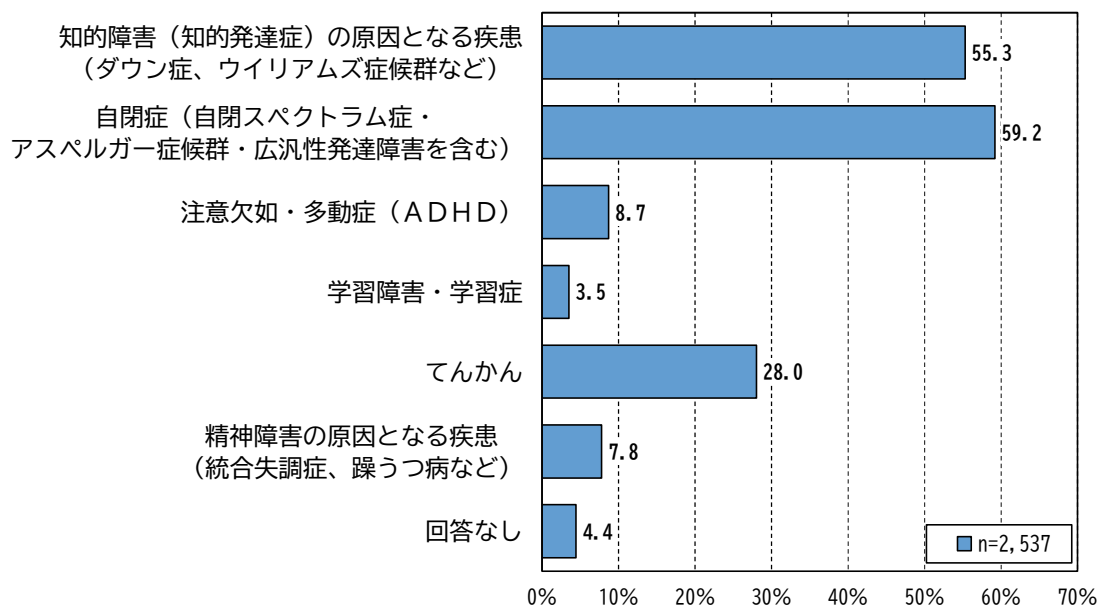


表 ご本人にあてはまる症状や状況

	n=	知的障害 (知的発達症)の原因となる疾患 (ダウン症、ウィリアムズ症候群など)	自閉症 (自閉スペクトラム症・アスペルガー症候群・広汎性発達障害を含む)	注意欠如・多動症 (ADHD)	学習障害・学習症	てんかん	精神障害の原因となる疾患 (統合失調症、躁うつ病など)	回答なし
全体	2,537	1,402	1,502	220	90	710	199	112
%		55.3	59.2	8.7	3.5	28.0	7.8	4.4
知的障害 (知的発達症)の原因となる疾患 (ダウン症、ウィリアムズ症候群など)	1,402	1,402	672	116	52	424	98	-
%		100	47.9	8.3	3.7	30.2	7.0	-
自閉症 (自閉スペクトラム症・アスペルガー症候群・広汎性発達障害を含む)	1,502	672	1,502	166	61	385	64	-
%		44.7	100.0	11.1	4.1	25.6	4.3	-
注意欠如・多動症 (ADHD)	220	116	166	220	59	70	19	-
%		52.7	75.5	100.0	26.8	31.8	8.6	-
学習障害・学習症	90	52	61	59	90	35	14	-
%		57.8	67.8	65.6	100.0	38.9	15.6	-
てんかん	710	424	385	70	35	710	46	-
%		59.7	54.2	9.9	4.9	100.0	6.5	-
精神障害の原因となる疾患 (統合失調症、躁うつ病など)	199	98	64	19	14	46	199	-
%		49.2	32.2	9.5	7.0	23.1	100.0	-

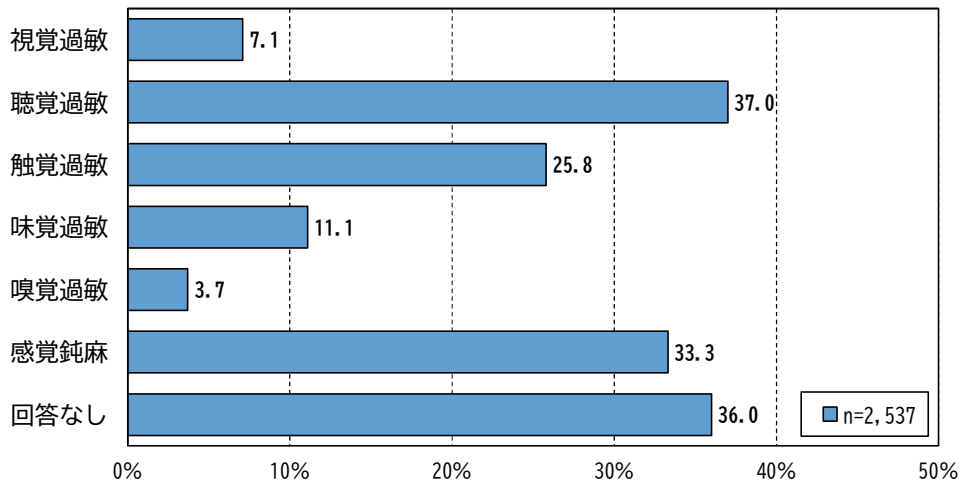
(9) 感覚過敏や感覚鈍麻

問9

ご本人に、感覚過敏や感覚鈍麻などがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

感覚過敏や感覚鈍麻については、「聴覚過敏」37.0%、「感覚鈍麻」33.3%、「触覚過敏」25.8%、「味覚過敏」11.1%、「視覚過敏」7.1%、「嗅覚過敏」3.7%、「回答なし」36.0%となっている。

図表 感覚過敏や感覚鈍麻



(10) 通学していた学校等

問 10

ご本人が通学していた学校などを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

ご本人が通学していた学校等は、幼児期では、「幼稚園 (12.1%)」および「保育所、認定こども園 (28.8%)」があわせて 40.9%、「児童発達支援 (通所施設含む)」が 38.0% となっている。

小学校・小学部では、「通常学級」が 8.4%、「支援学級」が 26.6%、「特別支援学校小学部」が 55.9%となっている。

中学校・中学部では、「通常学級」が 4.7%、「支援学級」が 12.2%、「特別支援学校中学部」が 66.2%となっている。

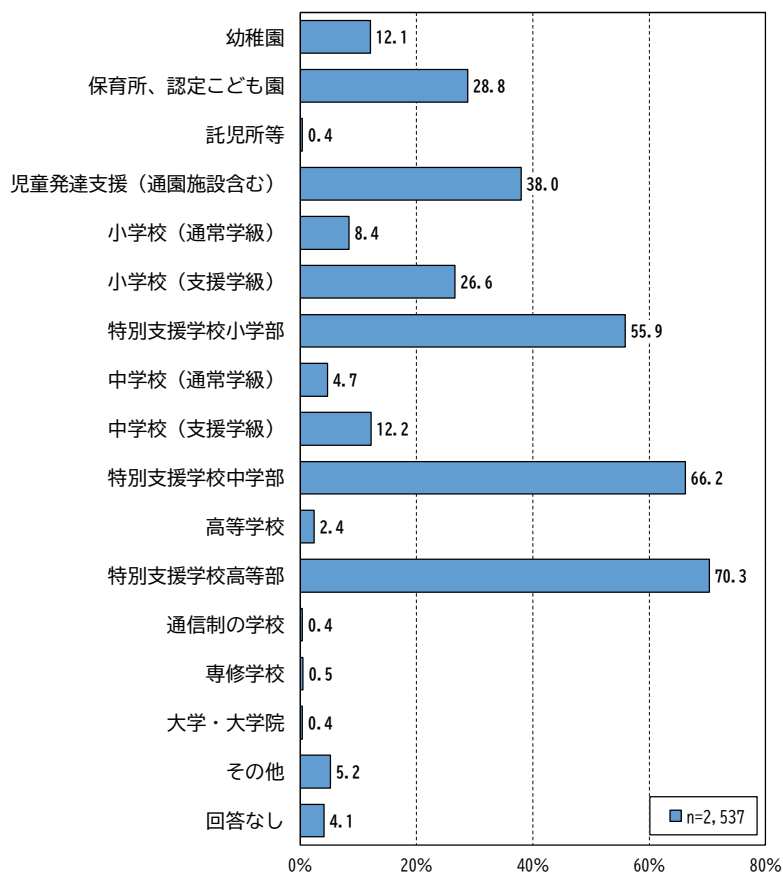
高等学校・高等部では、「高等学校」が 2.4%、「特別支援学校高等部」が 70.3%となっている。

幼児期、小学校・小学部、中学校・中学部、高等学校・高等部のステージ別にみると、就学段階が進むにつれて、通常学級や支援学級での在籍割合は低下し、特別支援学校の在籍割合が高まる傾向がみられる。

また、「大学・大学院」や「専修学校」はいずれもごく少数にとどまっている。

なお、「その他」の具体的な回答では、「養護学校」「コロニー」「未就学」などが挙げられた。

図表 通学していた学校等



2. 生活の場と家族の状況

(11) 主な生活の場

問 11

ご本人の現在の主な生活の場を教えてください。(最も近いもの1つだけに○)

※入院期間が3ヶ月未満の方は入院前の主な生活の場を回答してください。

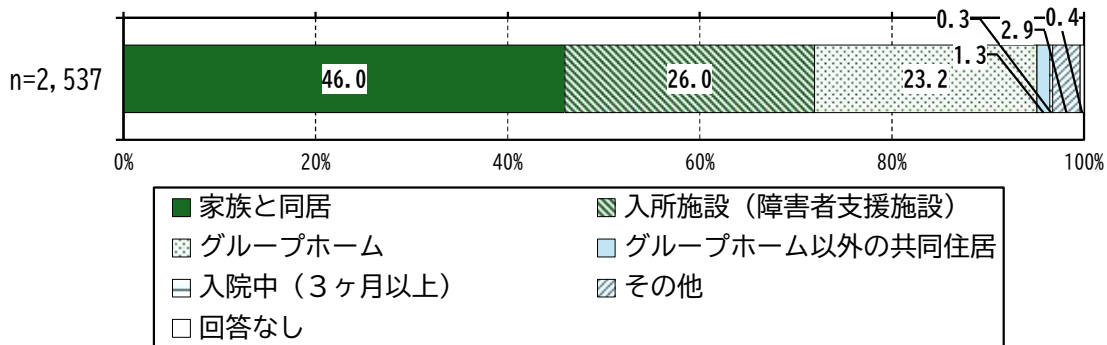
ご本人の現在の主な生活の場は、「家族と同居」が46.0%で最も高く、「入所施設（障害者支援施設）」が26.0%、「グループホーム」が23.2%となっている。

わずかだが、「グループホーム以外の共同住居」が1.3%、「入院中（3ヶ月以上）」0.3%もある。

年代別では、年齢が上がるにつれて「家族と同居」から「入所施設（障害者支援施設）」や「グループホーム」へと、生活の場が段階的に移行する傾向がみられる。

なお、「その他」の具体的な回答では、「一人暮らし」「有料老人ホーム」などが挙げられた。

図表 主な生活の場



【年代別】

表 主な生活の場 (年代別)

	n=	家族と同居	入所施設 (障害者支援施設)	グループ ホーム	グループ ホーム以外 の共同住居	入院中 (3ヶ月以 上)	その他	回答なし
全体	2,537	1,167	659	588	32	8	73	10
%		46.0	26.0	23.2	1.3	0.3	2.9	0.4
0～9歳	36	36	-	-	-	-	-	-
%		100.0	-	-	-	-	-	-
10～19歳	196	175	6	14	-	-	1	-
%		89.3	3.1	7.1	-	-	0.5	-
20～29歳	645	458	41	120	13	4	9	-
%		71.0	6.4	18.6	2.0	0.6	1.4	-
30～39歳	563	293	78	159	9	3	20	1
%		52.0	13.9	28.2	1.6	0.5	3.6	0.2
40～49歳	469	133	168	141	7	1	16	3
%		28.4	35.8	30.1	1.5	0.2	3.4	0.6
50～59歳	418	56	230	105	1	-	21	5
%		13.4	55.0	25.1	0.2	-	5.0	1.2
60歳以上	186	12	127	40	2	-	5	-
%		6.5	68.3	21.5	1.1	-	2.7	-

(12) 同居家族の状況

問 12 同居している方の続柄と人数（ご本人も含む）を教えてください。

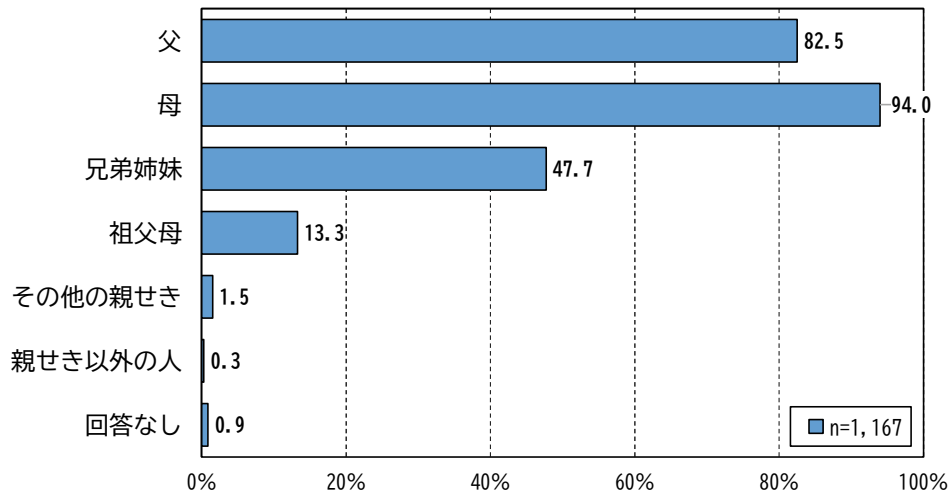
① 同居している方のご本人との続柄（あてはまるものすべてに○）

同居している方のご本人との続柄は、「母」が 94.0%、「父」が 82.5%、「兄弟姉妹」が 47.7%となっている。

年齢別にみると、若年層では父母との同居割合が高い一方、「60歳以上」では、父母との同居割合が低下し、兄弟姉妹やその他の親戚との同居割合が相対的に高まる傾向がみられる。

なお、「その他の親せき」の具体的な回答では、「叔父・叔母」「甥・姪」などが挙げられた。

図表 同居している方の続柄



【年代別】

表 同居している方の続柄（年代別）

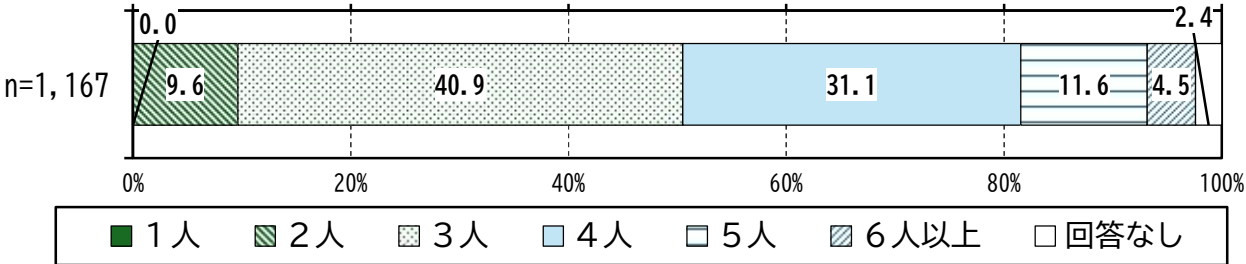
	n=	父	母	兄弟姉妹	祖父母	その他の親せき	親せき以外の人	回答なし
全体	1,167	963	1,097	557	155	18	4	11
%		82.5	94.0	47.7	13.3	1.5	0.3	0.9
0～9歳	36	33	36	28	5	1	-	-
%		91.7	100.0	77.8	13.9	2.8	-	-
10～19歳	175	154	171	128	22	2	-	1
%		88.0	97.7	73.1	12.6	1.1	-	0.6
20～29歳	458	395	448	213	82	3	-	1
%		86.2	97.8	46.5	17.9	0.7	-	0.2
30～39歳	293	250	275	107	40	4	1	4
%		85.3	93.9	36.5	13.7	1.4	0.3	1.4
40～49歳	133	98	118	54	3	4	1	2
%		73.7	88.7	40.6	2.3	3.0	0.8	1.5
50～59歳	56	28	43	18	2	2	2	3
%		50.0	76.8	32.1	3.6	3.6	3.6	5.4
60歳以上	12	2	2	8	1	2	-	-
%		16.7	16.7	66.7	8.3	16.7	-	-

② 同居している人数（ご本人も含む）（数字を記入）

同居している人数は、「3人」世帯が最も高く 40.9%で、「4人」世帯が 31.1%、「5人」世帯が 11.6%となっている。

なお、最高値は9人、平均値は3.6人となっている。

図表 同居している人数



(13) 主に支援している方

問 13

同居家族のうち、主に（一番長く）ご本人の身の回りの支援をしている方について教えてください。

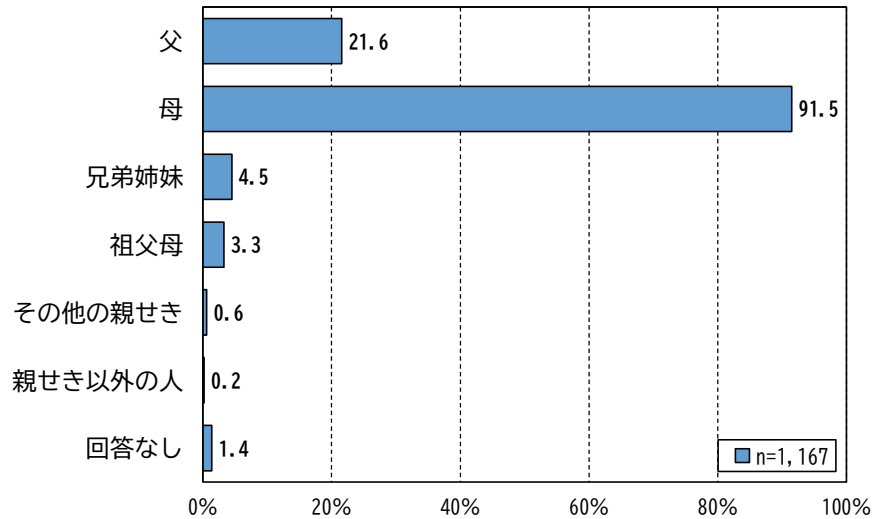
① 主に支援している方のご本人との続柄（あてはまるものすべてに○）

同居家族のうち、主に（一番長く）ご本人の身の回りの支援をしている方は、「母」が91.5%となっており最も高くなっている。続いて「父」21.6%、「兄弟姉妹」4.5%、「祖父母」3.3%となっている。

全年齢層を通じて主に支援しているのは「母」が中心であるが、年齢が上がるにつれて、兄弟姉妹が主な支援者となる割合が高まる傾向がみられる。

なお、「その他の親せき」の具体的な回答では、「叔母」「姪」などが挙げられた。

図表 主に支援している方のご本人との続柄



【年代別】

表 主に支援している方のご本人との続柄（年代別）

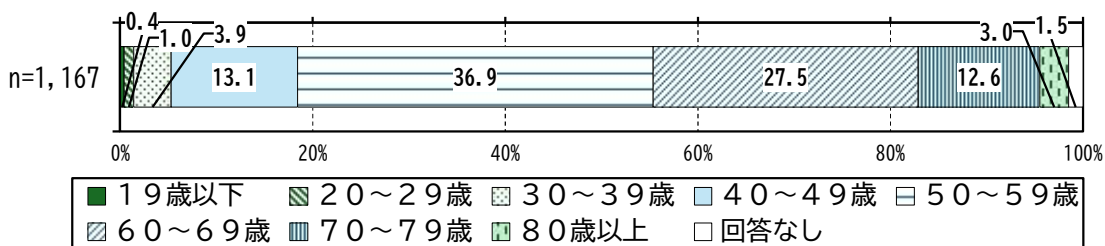
	n=	父	母	兄弟姉妹	祖父母	その他の親せき	親せき以外の人	回答なし
全体	1,167	252	1,068	52	39	7	2	16
%		21.6	91.5	4.5	3.3	0.6	0.2	1.4
0～9歳	36	8	35	-	3	-	-	-
%		22.2	97.2	-	8.3	-	-	-
10～19歳	175	26	168	4	4	1	-	2
%		14.9	96.0	2.3	2.3	0.6	-	1.1
20～29歳	458	90	430	6	18	2	-	3
%		19.7	93.9	1.3	3.9	0.4	-	0.7
30～39歳	293	72	271	9	13	-	-	5
%		24.6	92.5	3.1	4.4	-	-	1.7
40～49歳	133	43	117	15	-	2	1	2
%		32.3	88.0	11.3	-	1.5	0.8	1.5
50～59歳	56	11	41	9	-	1	1	4
%		19.6	73.2	16.1	-	1.8	1.8	7.1
60歳以上	12	1	2	8	1	1	-	-
%		8.3	16.7	66.7	8.3	8.3	-	-

② 主に支援している方の年齢（令和7年4月1日現在）（あてはまるもの1つだけに○）

主に支援している方の年齢は、「50～59歳」が36.9%で最も高く、続いて、「60～69歳」が27.5%となっており、50歳代・60歳代をあわせて64.4%となっている。

ご本人の年齢が上がるにつれて、高齢の家族が高齢の本人を支える状況が進んでいることがうかがえる。

図表 主に支援している方の年齢



【年代別】

表 主に支援している方の年齢（年代別）

	n=	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	回答なし
全体	1,167	5	12	46	153	431	321	147	35	17
%		0.4	1.0	3.9	13.1	36.9	27.5	12.6	3.0	1.5
0～9歳	36	-	1	13	20	1	1	-	-	-
%		-	2.8	36.1	55.6	2.8	2.8	-	-	-
10～19歳	175	5	1	17	79	70	1	-	-	2
%		2.9	0.6	9.7	45.1	40.0	0.6	-	-	1.1
20～29歳	458	-	10	1	45	299	89	3	6	5
%		-	2.2	0.2	9.8	65.3	19.4	0.7	1.3	1.1
30～39歳	293	-	-	13	1	50	184	31	10	4
%		-	-	4.4	0.3	17.1	62.8	10.6	3.4	1.4
40～49歳	133	-	-	2	7	1	35	80	6	2
%		-	-	1.5	5.3	0.8	26.3	60.2	4.5	1.5
50～59歳	56	-	-	-	1	8	2	30	11	4
%		-	-	-	1.8	14.3	3.6	53.6	19.6	7.1
60歳以上	12	-	-	-	-	2	6	3	1	-
%		-	-	-	-	16.7	50.0	25.0	8.3	-

※表側：対象者の年齢（令和7年4月1日現在）、表頭：支援者の年齢（令和7年4月1日現在）

(14) 主に支援している方以外の同居家族の協力

問 14

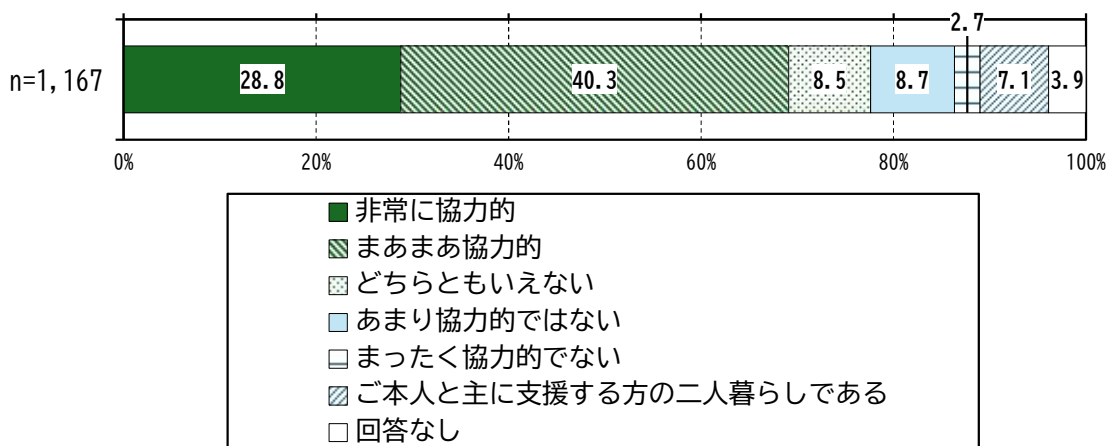
他の同居家族は、ご本人の支援に対して協力的ですか。(最も近いもの1つだけに○)

主に支援している方以外の同居家族の協力については、「非常に協力的」28.8%と「まあまあ協力的」40.3%をあわせて7割程度が“協力的”と回答している。

他方で、「あまり協力的ではない」8.7%、「まったく協力的ではない」2.7%をあわせて1割程度が“協力的ではない”と回答している。

「ご本人と主に支援する方の二人暮らしである」は7.1%となっている。

図表 主に支援している方以外の同居家族の協力



(15) ご本人以外で介護や見守り等の支援が必要な同居家族

問 15

ご本人の他に、介護や見守り等の支援が必要な同居家族はいますか。
(あてはまるもの1つだけに○)

ご本人の他に、介護や見守り等の支援が必要な同居家族がいるかについては、「いない」が76.8%、「いる」が21.6%となっている。

人数については、「1人」が75.8%、「2人」が15.9%となっている。

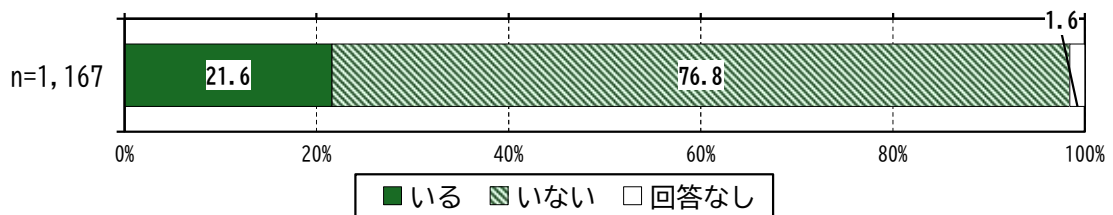
続柄については、「ご本人の兄弟姉妹」が36.1%と最も高く、「ご本人の祖父または祖母」が34.5%、「ご本人の父または母」が31.7%となっている。

年齢別にみると、支援が必要な同居家族の人数は、いずれの年代においても「1人」が最も多い。一方で、「2人」と回答する割合は全年代で見られ、特に40歳代で最も高くなっている。また、「3人」と回答したケースは20歳代から50歳代の各年代で確認されており、一部の世帯では複数の家族に対する支援が同時に必要となっている状況がうかがえる。

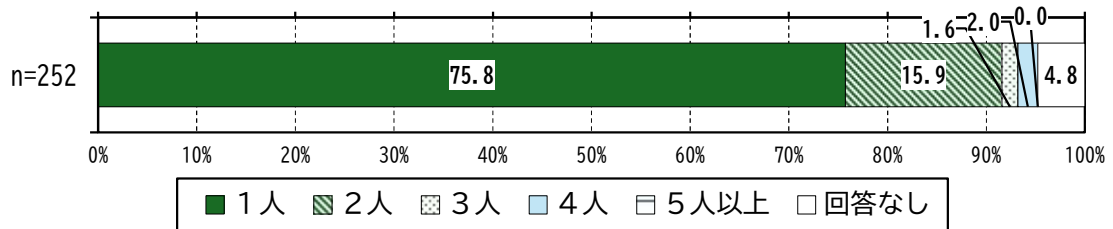
あわせて支援が必要な家族の続柄をみると、若年層では兄弟姉妹や祖父母が多い一方、40歳代以降では「ご本人の父母」の割合が高くなっている。

なお、「その他の親せき」の具体的な回答では、「甥・姪」などが挙げられた。

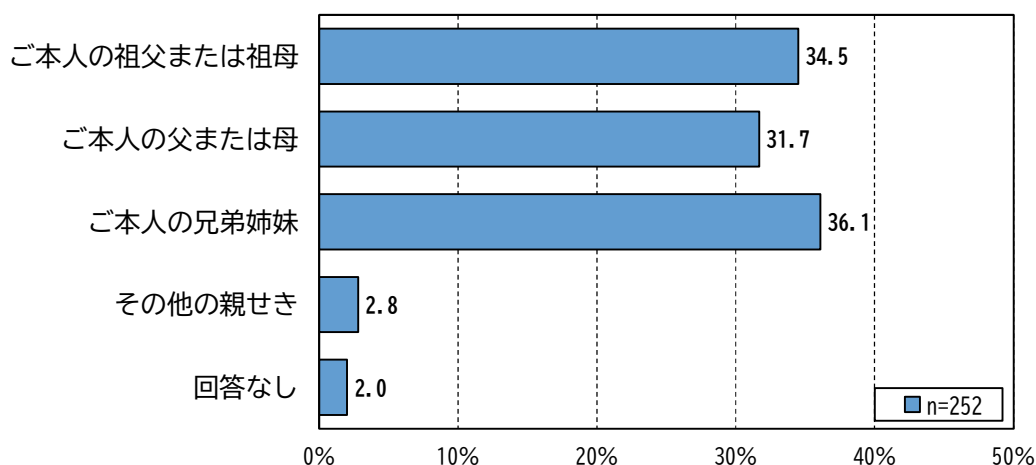
図表 ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の有無



図表 ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の人数



図表 ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の続柄



【年代別】

表 ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の人数（年代別）

	n=	1人	2人	3人	4人	5人以上	回答なし
全体	252	191	40	4	5	-	12
%		75.8	15.9	1.6	2.0	-	4.8
0～9歳	9	7	2	-	-	-	-
%		77.8	22.2	-	-	-	-
10～19歳	39	34	4	-	-	-	1
%		87.2	10.3	-	-	-	2.6
20～29歳	99	74	17	1	2	-	5
%		74.7	17.2	1.0	2.0	-	5.1
30～39歳	56	46	6	1	2	-	1
%		82.1	10.7	1.8	3.6	-	1.8
40～49歳	31	18	9	1	-	-	3
%		58.1	29.0	3.2	-	-	9.7
50～59歳	12	8	1	1	1	-	1
%		66.7	8.3	8.3	8.3	-	8.3
60歳以上	5	3	1	-	-	-	1
%		60.0	20.0	-	-	-	20.0

表 ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の続柄（年代別）

	n=	ご本人の祖父または祖母	ご本人の父または母	ご本人の兄弟姉妹	その他の親せき	回答なし
全体	252	87	80	91	7	5
%		34.5	31.7	36.1	2.8	2.0
0～9歳	9	3	2	5	-	-
%		33.3	22.2	55.6	-	-
10～19歳	39	8	4	26	-	1
%		20.5	10.3	66.7	-	2.6
20～29歳	99	44	27	36	1	-
%		44.4	27.3	36.4	1.0	-
30～39歳	56	28	18	13	1	1
%		50.0	32.1	23.2	1.8	1.8
40～49歳	31	2	23	5	3	1
%		6.5	74.2	16.1	9.7	3.2
50～59歳	12	2	6	3	-	1
%		16.7	50.0	25.0	-	8.3
60歳以上	5	-	-	3	2	-
%		-	-	60.0	40.0	-

3. 強度行動障害の状態

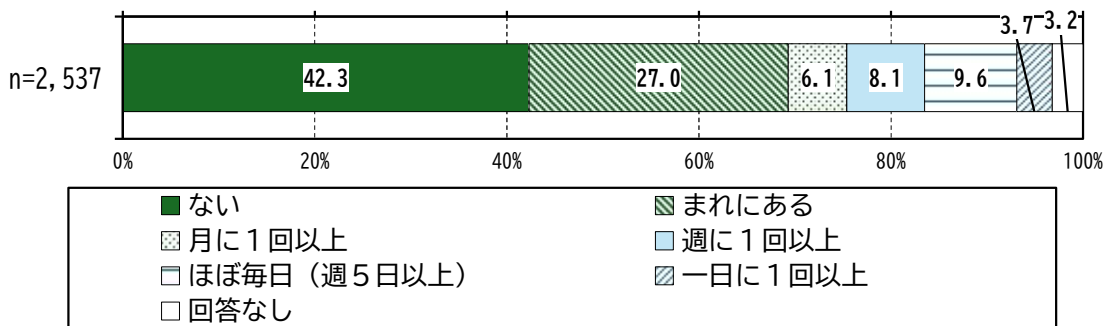
(16) 強度行動障害の内容と頻度

問 16 適切な支援や対応がなされないときに起きる、強度行動障害の内容と頻度を教えてください。(それぞれの項目について、最も近いもの1つだけに○)

① 自らを傷つける行為、激しい自傷行為
 (肉が見えたり、頭部が変形に至るほど叩く、爪をはぐ、抜毛、頭突き、打撲、骨折など)

自らを傷つける行為、激しい自傷行為の頻度については、「ない」42.3%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は33.1%、「週に1回以上」「ほぼ毎日(週5日以上)」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、21.4%となっている。

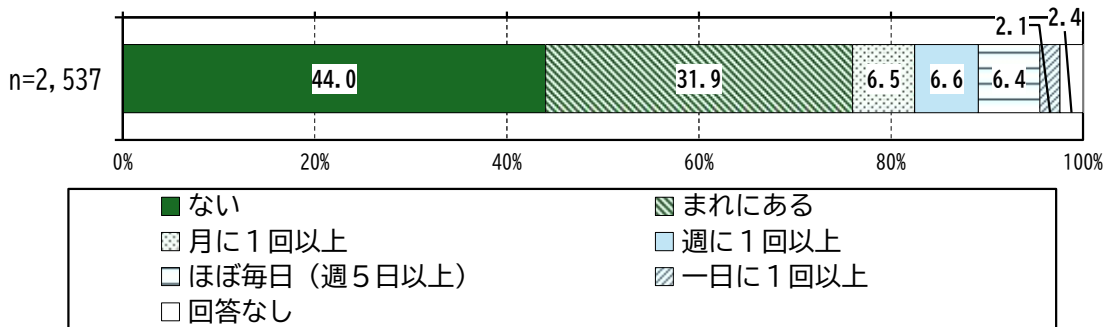
図表 自らを傷つける行為、激しい自傷行為の頻度



② 他人を傷つける行為、激しい他害行為

他人を傷つける行為、激しい他害行為の頻度については、「ない」44.0%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は38.4%、「週に1回以上」「ほぼ毎日(週5日以上)」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、15.1%となっている。

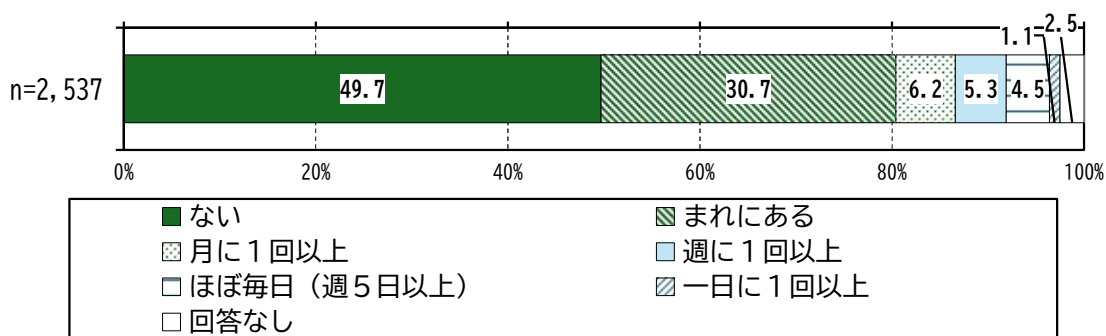
図表 他人を傷つける行為、激しい他害行為の頻度



③ 激しいもの壊し、破壊的行動

激しいもの壊し、破壊的行動の頻度については、「ない」49.7%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は36.9%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、10.9%となっている。

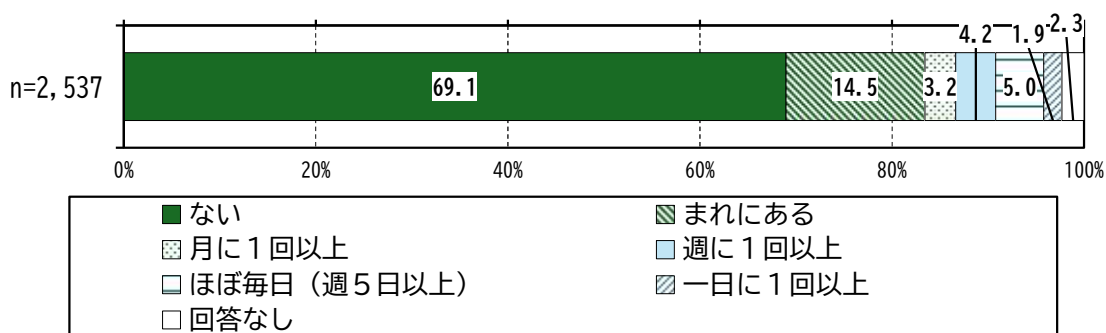
図表 激しいもの壊し、破壊的行動の頻度



④ 排泄に関する著しい問題

排泄に関する著しい問題の頻度については、「ない」69.1%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は17.7%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、11.1%となっている。

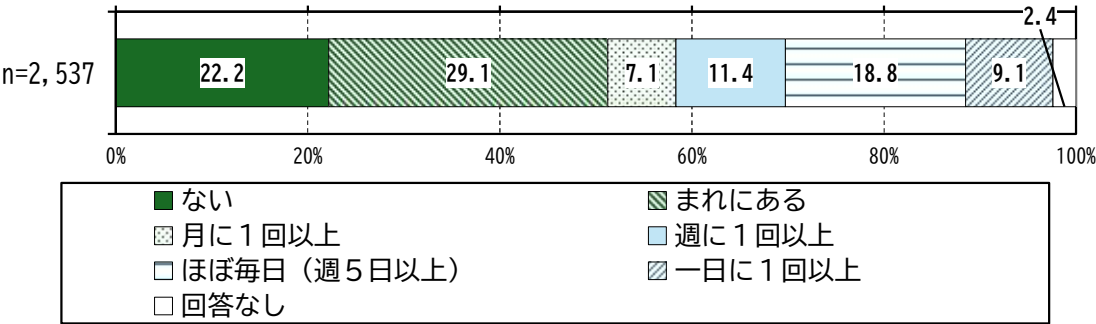
図表 排泄に関する著しい問題



⑤ 大声・奇声をだす、騒音を出す、通常とちがう声を上げるなど、著しい騒がしさ

大声・奇声をだすなどの著しい騒がしさの頻度については、「ない」22.2%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は36.2%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、39.3%となっている。

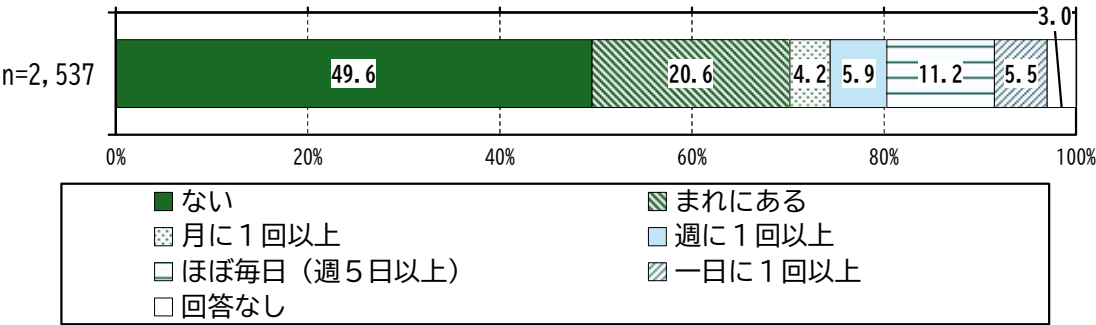
図表 大声・奇声をだすなどの著しい騒がしさの頻度



⑥ 不適切な対人行動、不潔な行動（抱きつく、服を脱ぐ、唾吐きなど）

不適切な対人行動、不潔な行動の頻度については、「ない」49.6%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は24.8%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、22.6%となっている。

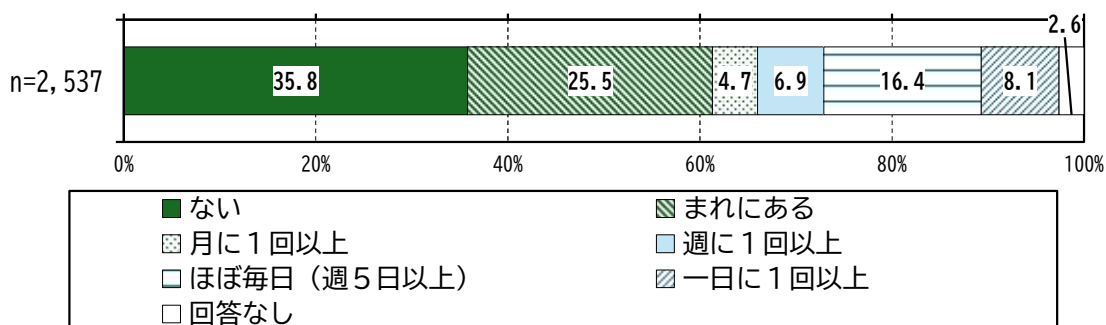
図表 不適切な対人行動、不潔な行動の頻度



⑦ 激しいこだわり（強く指示してもどうしても服を脱ぐ、外出を拒みとおす、何百メートルも離れた場所に戻り取りに行くなどの行為で止めても止めきれないもの）

激しいこだわりの頻度については、「ない」35.8%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は30.2%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、31.4%となっている。

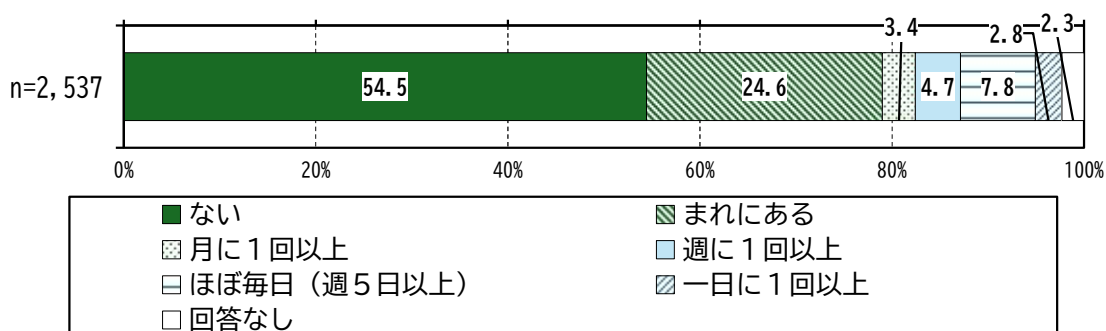
図表 激しいこだわりの頻度



⑧ 著しい多動、突発的な行動（身体・生命の危険につながる飛び出しをする、目を離すと一時も座れず走り回る、ベランダの上など高く危険なところに上る、など）

著しい多動、突発的な行動の頻度については、「ない」54.5%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は28.0%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、15.3%となっている。

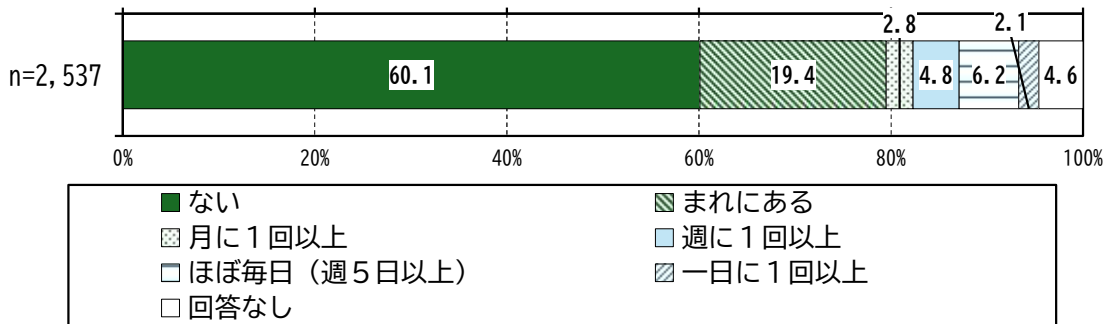
図表 著しい多動、突発的な行動の頻度



⑨ 行動停止

行動停止の頻度については、「ない」60.1%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は22.2%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、13.1%となっている。

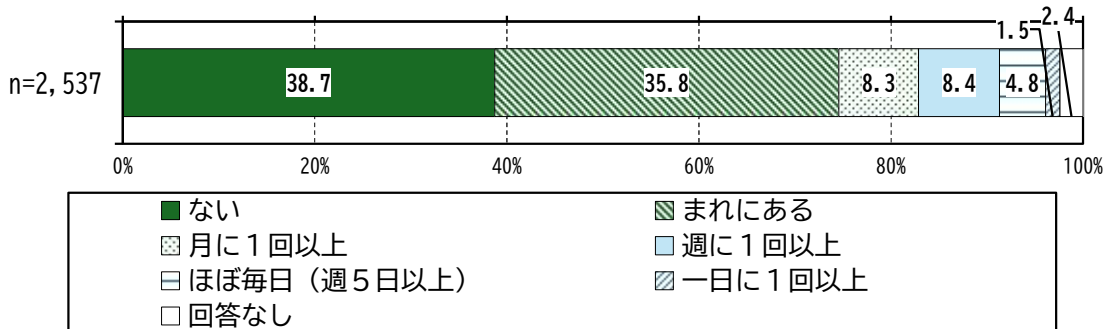
図表 行動停止の頻度



⑩ 落ち着かせるのが困難なほどの興奮、パニック（一度パニックが出ると、周囲が止めても体力的に収められず、付きあっていられない状態を呈する）

落ち着かせるのが困難なほどの興奮、パニックの頻度については、「ない」38.7%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は44.1%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、14.7%となっている。

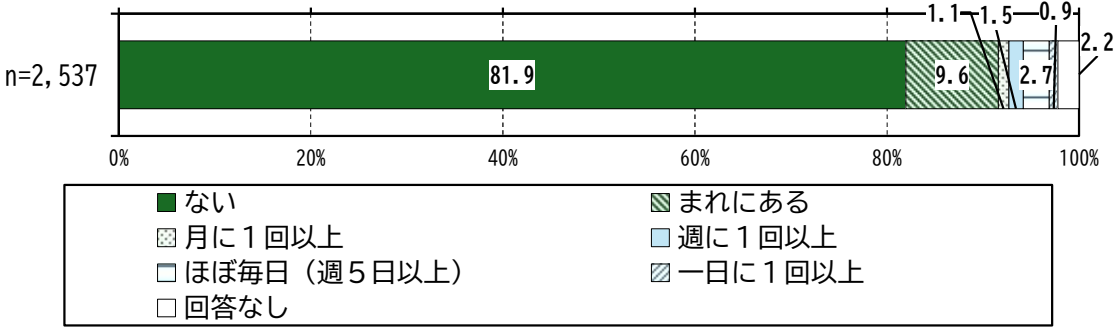
図表 落ち着かせるのが困難なほどの興奮、パニックの頻度



① 異食行動（便や釘、石など体に異常をきたすことのある異食）

異食行動の頻度については、「ない」81.9%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は10.7%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、5.1%となっている。

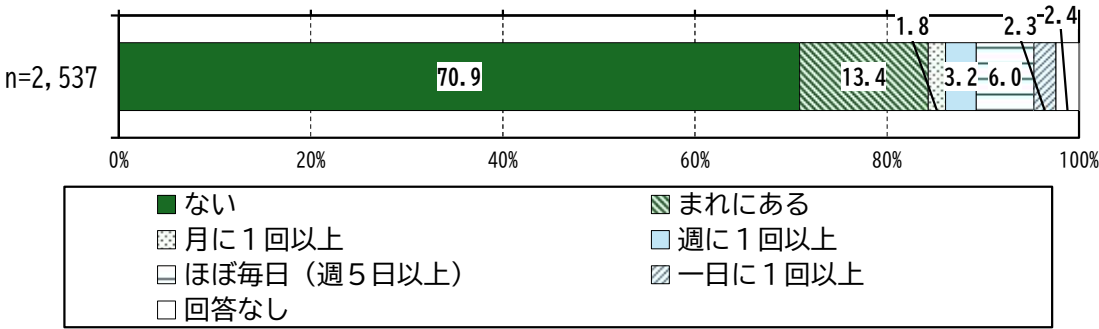
図表 異食行動の頻度



② 身体に異常をきたすほどの偏食・拒食・過食、反すう等の食事に関する行動

偏食・拒食・過食、反すう等の食事に関する行動の頻度については、「ない」70.9%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は15.2%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、11.5%となっている。

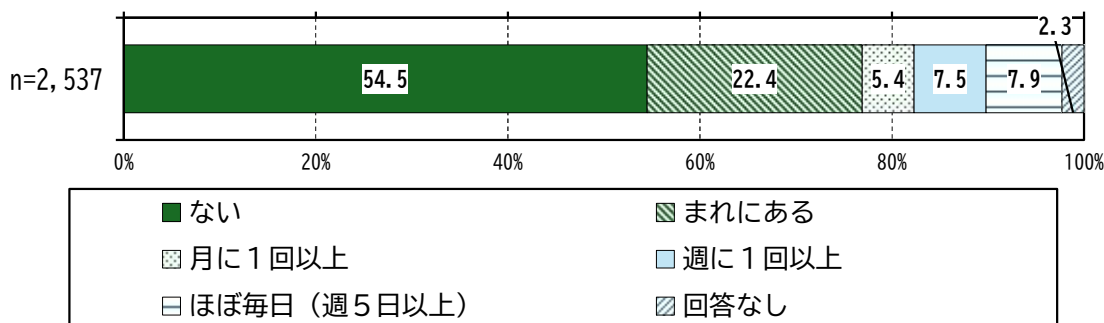
図表 偏食・拒食・過食、反すう等の食事に関する行動の頻度



⑬ 睡眠の大きな乱れ（昼夜が逆転してしまっている、ベッドにいられずに人や物に危害を加えるなど）

睡眠の大きな乱れの頻度については、「ない」54.5%に対し、「まれにある」「月に1回以上」をあわせた“まれにある”は27.8%、「週に1回以上」「ほぼ毎日（週5日以上）」「1日に1回以上」をあわせた“週に1回以上ある”は、17.7%となっている。

図表 睡眠の大きな乱れの頻度

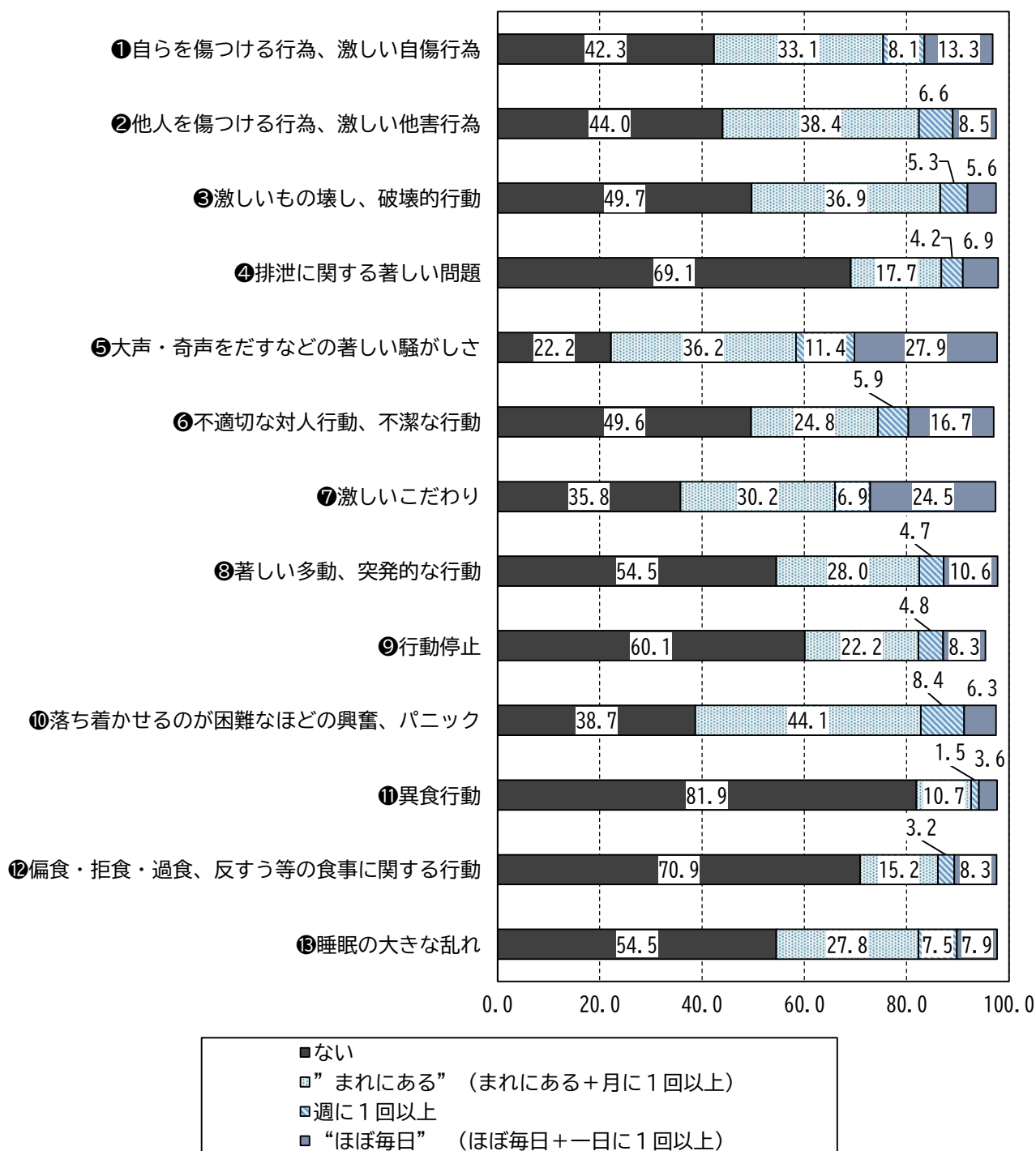


(参考)

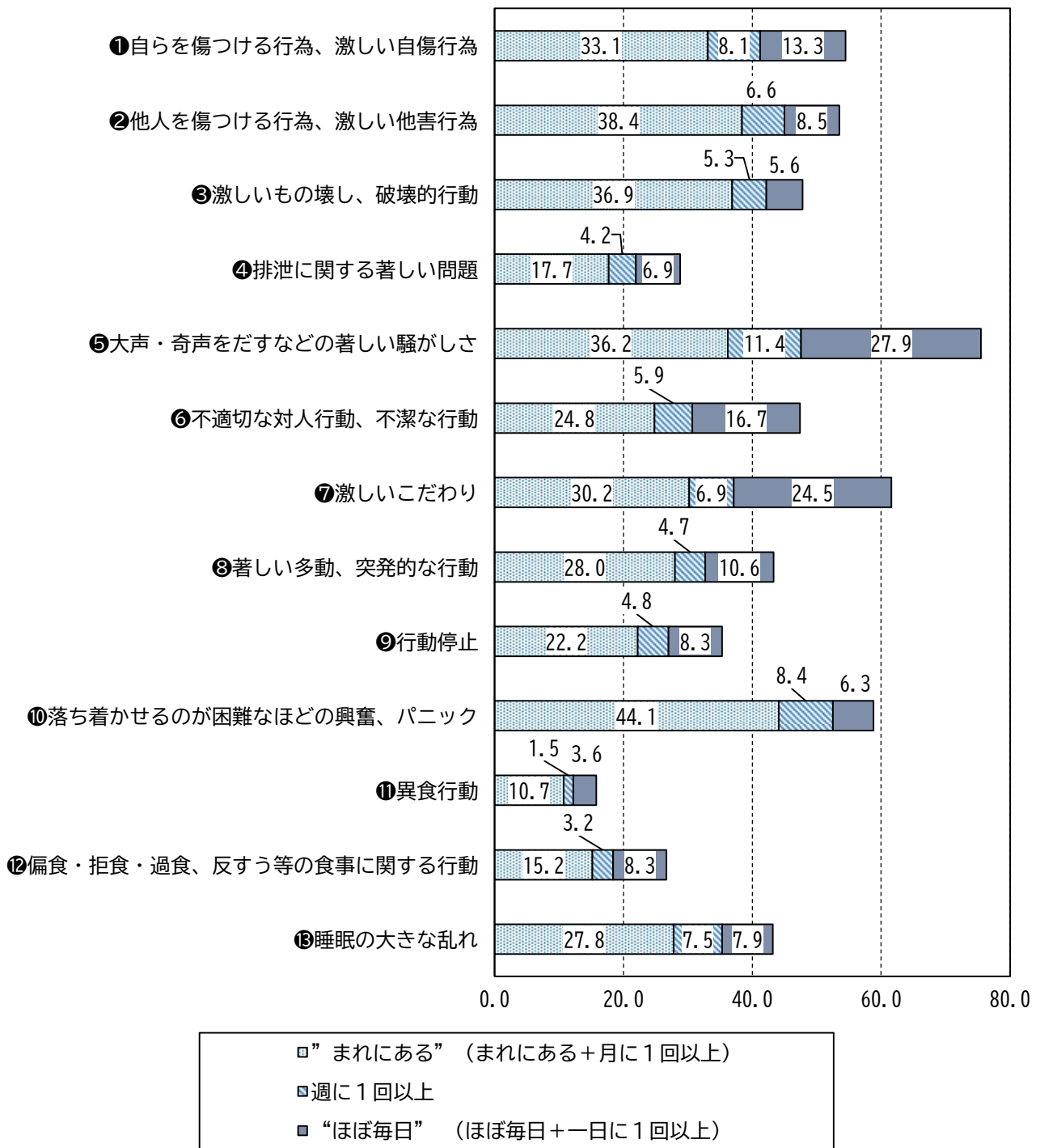
全体を通じて、“週に1回以上”では、「⑤大声・奇声をだすなどの著しい騒がしさ」が最も高く39.3%、続いて「⑦激しいこだわり」が31.4%、「⑥不適切な対人行動、不潔な行動」が22.6%となっている。他方で、その他の行動も、「⑪異食行動」を除いて、おおむね1割～2割程度が“週に1回以上”となっている。

	ない	”まれにある” (まれにある+月に1回以上)	週に1回以上	“ほぼ毎日” (ほぼ毎日+1日に1回以上)	回答なし
①自らを傷つける行為、激しい自傷行為	42.3%	33.1%	8.1%	13.3%	3.2%
②他人を傷つける行為、激しい他害行為	44.0%	38.4%	6.6%	8.5%	2.4%
③激しいもの壊し、破壊的行動	49.7%	36.9%	5.3%	5.6%	2.5%
④排泄に関する著しい問題	69.1%	17.7%	4.2%	6.9%	2.3%
⑤大声・奇声をだすなどの著しい騒がしさ	22.2%	36.2%	11.4%	27.9%	2.4%
⑥不適切な対人行動、不潔な行動	49.6%	24.8%	5.9%	16.7%	3.0%
⑦激しいこだわり	35.8%	30.2%	6.9%	24.5%	2.6%
⑧著しい多動、突発的な行動	54.5%	28.0%	4.7%	10.6%	2.3%
⑨行動停止	60.1%	22.2%	4.8%	8.3%	4.6%
⑩落ち着かせるのが困難なほどの興奮、パニック	38.7%	44.1%	8.4%	6.3%	2.4%
⑪異食行動	81.9%	10.7%	1.5%	3.6%	2.2%
⑫偏食・拒食・過食、反すう等の食事に関する行動	70.9%	15.2%	3.2%	8.3%	2.4%
⑬睡眠の大きな乱れ	54.5%	27.8%	7.5%	7.9%	2.3%

図表 強度行動障害の内容と頻度一覧 (①~⑬) (「ない」を含む)



図表 強度行動障害の内容と頻度一覧 (①~⑬) (「ない」を除く)



(17) 状況が悪化するときに激しくなる行動

問 17

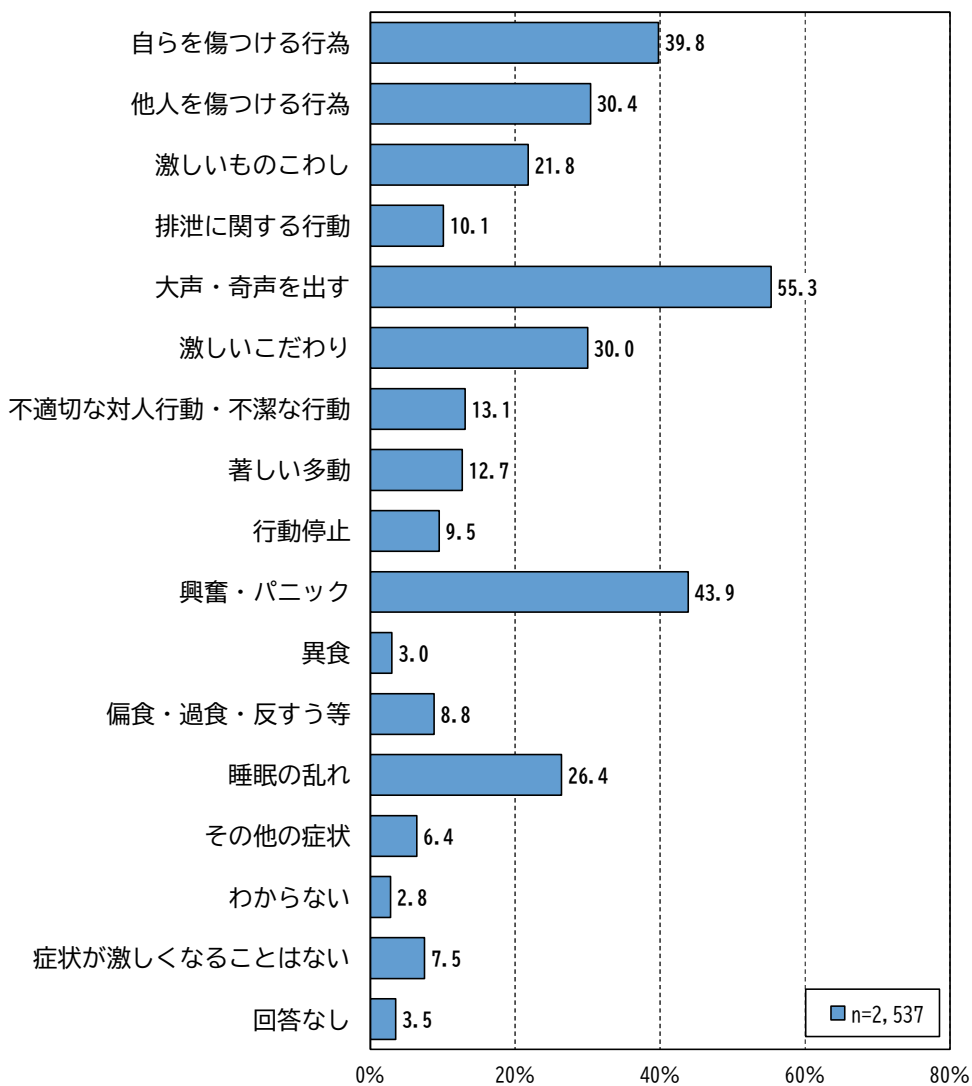
ご本人の状況が悪化したとき、どのような症状がより激しくなりましたか。
(あてはまるものすべてに○)

ご本人の状況が悪化するときに激しくなる行動は、「大声・奇声を出す」が最も高く55.3%、続いて、「興奮・パニック」43.9%、「自らを傷つける行為」39.8%、「他人を傷つける行為」30.4%、「激しいこだわり」30.0%となっている。

年代別では、「大声・奇声を出す」は全年代で、「興奮・パニック」は10歳代～30歳代で、「自らを傷つける行為」は10歳代～40歳代で4割を超えている。

なお、「その他の症状」の具体的な回答では、「嘔吐」「水分の多飲」「脱走・徘徊」「大声で泣く」などが挙げられた。

図表 状況が悪化するときに激しくなる行動



【年代別】

表 状況が悪化するときに激しくなる行動（年代別）

	n=	自らを傷つける行為	他人を傷つける行為	激しいものこわし	排泄に関する行動	大声・奇声を出す	激しいこだわり	不適切な対人行動・不潔な行動	著しい多動
全体	2,537	1,009	772	553	256	1,403	761	333	321
%		39.8	30.4	21.8	10.1	55.3	30.0	13.1	12.7
0～9歳	36	12	15	9	1	23	8	4	7
%		33.3	41.7	25.0	2.8	63.9	22.2	11.1	19.4
10～19歳	196	99	85	64	27	124	74	42	45
%		50.5	43.4	32.7	13.8	63.3	37.8	21.4	23.0
20～29歳	645	306	250	192	93	389	218	101	109
%		47.4	38.8	29.8	14.4	60.3	33.8	15.7	16.9
30～39歳	563	228	156	125	57	313	175	62	72
%		40.5	27.7	22.2	10.1	55.6	31.1	11.0	12.8
40～49歳	469	191	120	76	32	247	130	59	49
%		40.7	25.6	16.2	6.8	52.7	27.7	12.6	10.4
50～59歳	418	115	85	57	25	198	104	40	26
%		27.5	20.3	13.6	6.0	47.4	24.9	9.6	6.2
60歳以上	186	50	56	27	17	99	49	24	11
%		26.9	30.1	14.5	9.1	53.2	26.3	12.9	5.9

	n=	行動停止	興奮・パニック	異食	偏食・過食・反すう等	睡眠の乱れ	その他の症状	わからない	症状が激しくなることはない	回答なし
全体	2,537	241	1,113	75	224	670	162	71	191	90
%		9.5	43.9	3.0	8.8	26.4	6.4	2.8	7.5	3.5
0～9歳	36	2	10	-	4	4	1	2	5	2
%		5.6	27.8	-	11.1	11.1	2.8	5.6	13.9	5.6
10～19歳	196	17	107	11	17	54	7	2	16	3
%		8.7	54.6	5.6	8.7	27.6	3.6	1.0	8.2	1.5
20～29歳	645	73	372	21	82	227	49	8	28	11
%		11.3	57.7	3.3	12.7	35.2	7.6	1.2	4.3	1.7
30～39歳	563	61	268	12	46	181	39	15	37	12
%		10.8	47.6	2.1	8.2	32.1	6.9	2.7	6.6	2.1
40～49歳	469	33	166	12	35	88	18	10	43	23
%		7.0	35.4	2.6	7.5	18.8	3.8	2.1	9.2	4.9
50～59歳	418	34	129	12	27	82	31	25	44	27
%		8.1	30.9	2.9	6.5	19.6	7.4	6.0	10.5	6.5
60歳以上	186	20	52	6	10	27	16	9	16	9
%		10.8	28.0	3.2	5.4	14.5	8.6	4.8	8.6	4.8

(18) 行動の落ち着き方

問 18

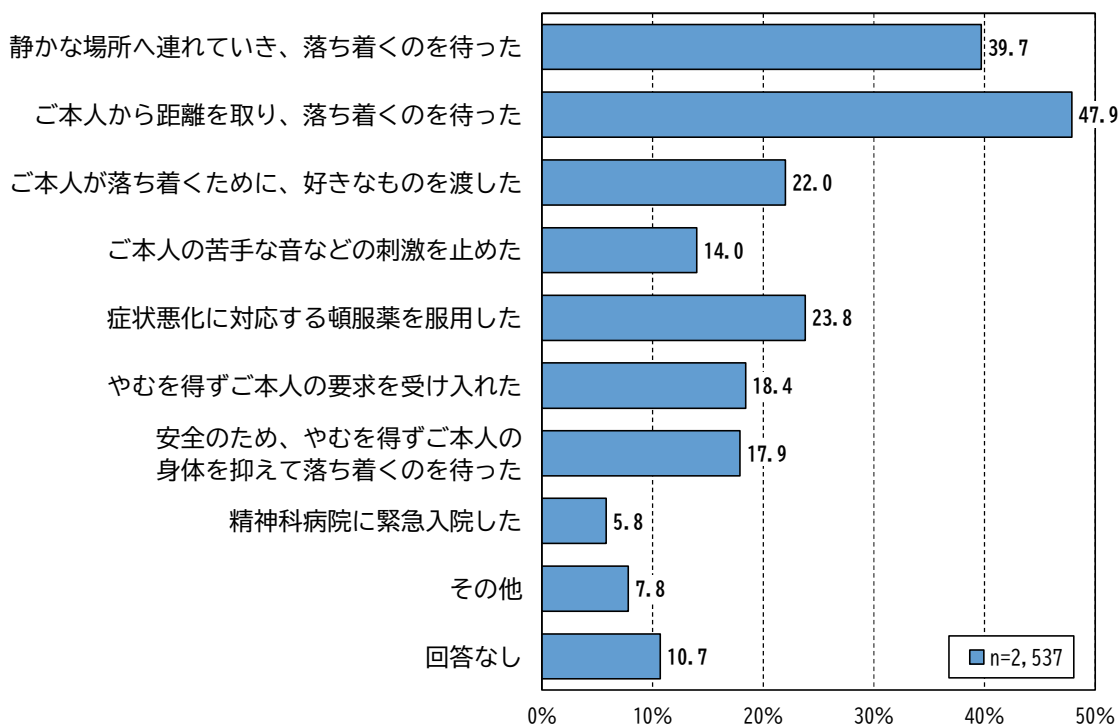
状況が悪化して激しくなった症状は、どのようにして落ち着きましたか。(あてはまるものすべてに○)

ご本人の状況が悪化するときに激しくなる行動の落ち着き方は、「ご本人から距離を取り、落ち着くのを待った」が最も高く 47.9%、続いて、「静かな場所へ連れていき、落ち着くのを待った」39.7%、「症状悪化に対応する頓服薬を服用した」23.8%、「ご本人が落ち着くために、好きなものを渡した」22.0%、「やむを得ずご本人の要求を受け入れた」18.4%となっている。

年代別では、10歳代、20歳代、30歳代では、頓服薬や身体抑制等の対応が一定割合で見られる。

なお、「その他」の具体的な回答では、「本人が好きなことをさせてあげた」「ゆっくり声をかけ続けた」「理由を傾聴した」「抱きしめてあげた」「マッサージした」「時間が経つのを待つ」「近くでただ見守るしかなかった」などが挙げられた。

図表 状況が悪化するときに激しくなる行動の落ち着き方



【年代別】

表 状況が悪化するときに激しくなる行動の落ち着き方（年代別）

	n=	静かな場所へ連れていき、落ち着くのを待った	ご本人から距離を取り、落ち着くのを待った	ご本人が落ち着くために、好きなものを渡した	ご本人の苦手な音などの刺激を止めた	症状悪化に対応する頓服薬を服用した	やむを得ずご本人の要求を受け入れた	安全のため、やむを得ずご本人の身体を抑えて落ち着くのを待った	精神科病院に緊急入院した	その他	回答なし
全体	2,537	1,006	1,216	559	354	605	467	453	147	199	271
%		39.7	47.9	22.0	14.0	23.8	18.4	17.9	5.8	7.8	10.7
0～9歳	36	15	17	18	7	1	8	6	1	3	6
%		41.7	47.2	50.0	19.4	2.8	22.2	16.7	2.8	8.3	16.7
10～19歳	196	86	110	59	34	43	36	45	10	11	18
%		43.9	56.1	30.1	17.3	21.9	18.4	23.0	5.1	5.6	9.2
20～29歳	645	263	378	167	118	228	165	183	47	53	31
%		40.8	58.6	25.9	18.3	35.3	25.6	28.4	7.3	8.2	4.8
30～39歳	563	203	279	112	79	147	104	107	42	46	37
%		36.1	49.6	19.9	14.0	26.1	18.5	19.0	7.5	8.2	6.6
40～49歳	469	186	176	106	58	97	77	64	13	38	65
%		39.7	37.5	22.6	12.4	20.7	16.4	13.6	2.8	8.1	13.9
50～59歳	418	162	164	66	35	60	50	35	25	33	78
%		38.8	39.2	15.8	8.4	14.4	12.0	8.4	6.0	7.9	18.7
60歳以上	186	85	80	27	21	25	25	12	9	14	30
%		45.7	43.0	14.5	11.3	13.4	13.4	6.5	4.8	7.5	16.1

【ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の有無（問15）別】

	n=	静かな場所へ連れていき、落ち着くのを待った	ご本人から距離を取り、落ち着くのを待った	ご本人が落ち着くために、好きなものを渡した	ご本人の苦手な音などの刺激を止めた	症状悪化に対応する頓服薬を服用した	やむを得ずご本人の要求を受け入れた	安全のため、やむを得ずご本人の身体を抑えて落ち着くのを待った	精神科病院に緊急入院した	その他	回答なし
全体	1,167	405	616	297	182	299	254	264	47	102	105
%		34.7	52.8	25.4	15.6	25.6	21.8	22.6	4.0	8.7	9.0
いる	252	90	136	71	37	58	52	54	13	23	20
%		35.7	54.0	28.2	14.7	23.0	20.6	21.4	5.2	9.1	7.9
いない	896	310	472	223	143	240	198	207	33	78	81
%		34.6	52.7	24.9	16.0	26.8	22.1	23.1	3.7	8.7	9.0

【ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の年齢別（問15-1）別】

	n=	静かな場所へ連れていき、落ち着くのを待った	ご本人から距離を取り、落ち着くのを待った	ご本人が落ち着くために、好きなものを渡した	ご本人の苦手な音などの刺激を止めた	症状悪化に対応する頓服薬を服用した	やむを得ずご本人の要求を受け入れた	安全のため、やむを得ずご本人の身体を抑えて落ち着くのを待った	精神科病院に緊急入院した	その他	回答なし
全体	252	87	131	68	34	56	49	51	12	22	20
%		34.5	52.0	27.0	13.5	22.2	19.4	20.2	4.8	8.7	7.9
1人	191	71	101	56	26	43	38	42	9	16	16
%		37.2	52.9	29.3	13.6	22.5	19.9	22.0	4.7	8.4	8.4
2人	40	15	24	10	6	11	9	7	2	4	4
%		37.5	60.0	25.0	15.0	27.5	22.5	17.5	5.0	10.0	10.0
3人	4	1	3	2	2	1	2	1	1	1	-
%		25.0	75.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	-
4人	5	-	3	-	-	1	-	1	-	1	-
%		-	60.0	-	-	20.0	-	20.0	-	20.0	-

【現在、ご本人が普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場（問20）別】

	n=	静かな場所へ連れていき、落ち着くの待った	ご本人から距離を取り、落ち着くの待った	ご本人が落ち着くために、好きなものを渡した	ご本人の苦手な音などの刺激を止めた	症状悪化に対応する頓服薬を服用した	やむを得ずご本人の要求を受け入れた	安全のため、やむを得ずご本人の身体を抑えて落ち着くの待った	精神科病院に緊急入院した	その他	回答なし
全体	2,537	1,006	1,216	559	354	605	467	453	147	199	271
%		39.7	47.9	22.0	14.0	23.8	18.4	17.9	5.8	7.8	10.7
児童発達支援	18	10	7	6	2	5	2	4	-	1	3
%		55.6	38.9	33.3	11.1	27.8	11.1	22.2	-	5.6	16.7
放課後等デイサービス	147	69	80	54	25	24	26	37	3	9	15
%		46.9	54.4	36.7	17.0	16.3	17.7	25.2	2.0	6.1	10.2
居宅訪問型児童発達支援	2	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-
%		100.0	100.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-
保育所等訪問支援	3	3	2	-	-	1	-	1	1	-	-
%		100.0	66.7	-	-	33.3	-	33.3	33.3	-	-
短期入所	432	163	250	113	77	132	116	126	23	46	20
%		37.7	57.9	26.2	17.8	30.6	26.9	29.2	5.3	10.6	4.6
居宅介護	172	64	84	55	39	48	36	40	9	16	13
%		37.2	48.8	32.0	22.7	27.9	20.9	23.3	5.2	9.3	7.6
重度訪問介護	24	11	11	10	5	6	8	4	2	2	2
%		45.8	45.8	41.7	20.8	25.0	33.3	16.7	8.3	8.3	8.3
行動援護	243	97	146	73	57	82	59	60	17	24	8
%		39.9	60.1	30.0	23.5	33.7	24.3	24.7	7.0	9.9	3.3
生活介護	1,534	624	815	365	250	391	315	315	76	123	106
%		40.7	53.1	23.8	16.3	25.5	20.5	20.5	5.0	8.0	6.9
重度障害者等包括支援	36	9	15	4	6	9	5	8	2	4	5
%		25.0	41.7	11.1	16.7	25.0	13.9	22.2	5.6	11.1	13.9
自立訓練	19	10	9	6	4	9	5	3	3	1	3
%		52.6	47.4	31.6	21.1	47.4	26.3	15.8	15.8	5.3	15.8
就労移行支援	20	6	8	-	1	5	2	1	1	4	3
%		30.0	40.0	-	5.0	25.0	10.0	5.0	5.0	20.0	15.0
就労継続支援（A型）	32	10	11	4	4	6	5	3	1	3	9
%		31.3	34.4	12.5	12.5	18.8	15.6	9.4	3.1	9.4	28.1
就労継続支援（B型）	215	75	97	31	23	58	38	28	22	19	26
%		34.9	45.1	14.4	10.7	27.0	17.7	13.0	10.2	8.8	12.1
日中一時支援	451	181	238	116	73	126	97	123	17	42	35
%		40.1	52.8	25.7	16.2	27.9	21.5	27.3	3.8	9.3	7.8
移動支援	383	159	216	88	69	92	87	78	19	28	33
%		41.5	56.4	23.0	18.0	24.0	22.7	20.4	5.0	7.3	8.6
地域活動支援センター	104	34	52	21	15	24	17	17	6	11	10
%		32.7	50.0	20.2	14.4	23.1	16.3	16.3	5.8	10.6	9.6
グループホーム	607	249	294	106	87	155	99	99	50	43	63
%		41.0	48.4	17.5	14.3	25.5	16.3	16.3	8.2	7.1	10.4
障害児入所施設	37	10	10	9	4	7	7	3	3	3	8
%		27.0	27.0	24.3	10.8	18.9	18.9	8.1	8.1	8.1	21.6
入所施設（障害者支援施設）	624	303	252	140	64	125	93	72	37	42	73
%		48.6	40.4	22.4	10.3	20.0	14.9	11.5	5.9	6.7	11.7
療養介護	5	2	-	3	2	1	-	2	-	-	1
%		40.0	-	60.0	40.0	20.0	-	40.0	-	-	20.0
就労先	7	3	3	1	2	3	2	1	-	-	-
%		42.9	42.9	14.3	28.6	42.9	28.6	14.3	-	-	-
幼稚園、保育所等	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
%		50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
通常学級（学校）	4	1	1	1	-	1	-	1	-	-	2
%		25.0	25.0	25.0	-	25.0	-	25.0	-	-	50.0
支援学級	16	10	10	5	3	2	4	5	-	2	2
%		62.5	62.5	31.3	18.8	12.5	25.0	31.3	-	12.5	12.5
特別支援学校	98	52	51	42	18	19	21	22	2	5	9
%		53.1	52.0	42.9	18.4	19.4	21.4	22.4	2.0	5.1	9.2
その他	61	20	30	10	7	22	10	9	8	9	6
%		32.8	49.2	16.4	11.5	36.1	16.4	14.8	13.1	14.8	9.8
利用等はしていない	18	6	8	3	3	5	1	-	4	1	1
%		33.3	44.4	16.7	16.7	27.8	5.6	-	22.2	5.6	5.6

(19) ピーク時期、落ち着いた時期の状況・年齢

問 19

ご本人の行動問題の症状や状態のピーク頃の状況を教えてください。

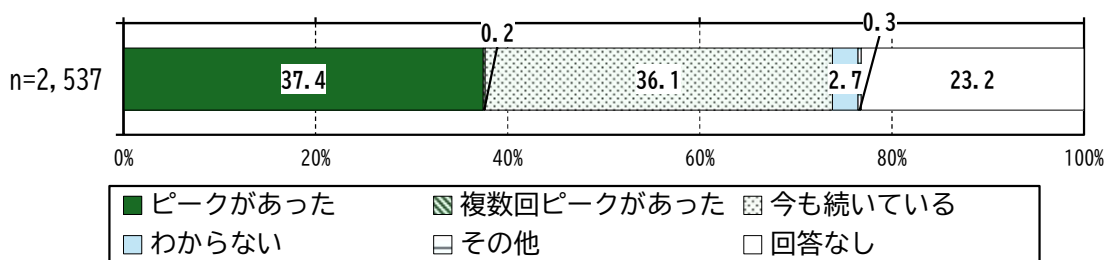
① 行動問題の症状や状態のピークの状況について

行動問題の症状や状態のピークの状況については、「ピークがあった」が37.4%、「今も続いている」が36.1%となっている。

「ピーク」があったと回答した人(955件)のうち、ピークの年齢については、「15～19歳」が34.6%と最も高く、続いて「20～24歳」17.8%、「10～14歳」17.0%、「25～29歳」13.2%、「5～9歳」10.1%となっている。

行動問題の症状や状態のピークの年齢をみると、10歳未満が14.5%、10歳代が51.6%、20歳代が31.0%、30歳代が12.9%、40歳代が5.8%、50歳代が2.4%、60歳代以上が0.8%となっており、10歳代が半数を占める。

図表 行動問題の症状や状態のピークの状況

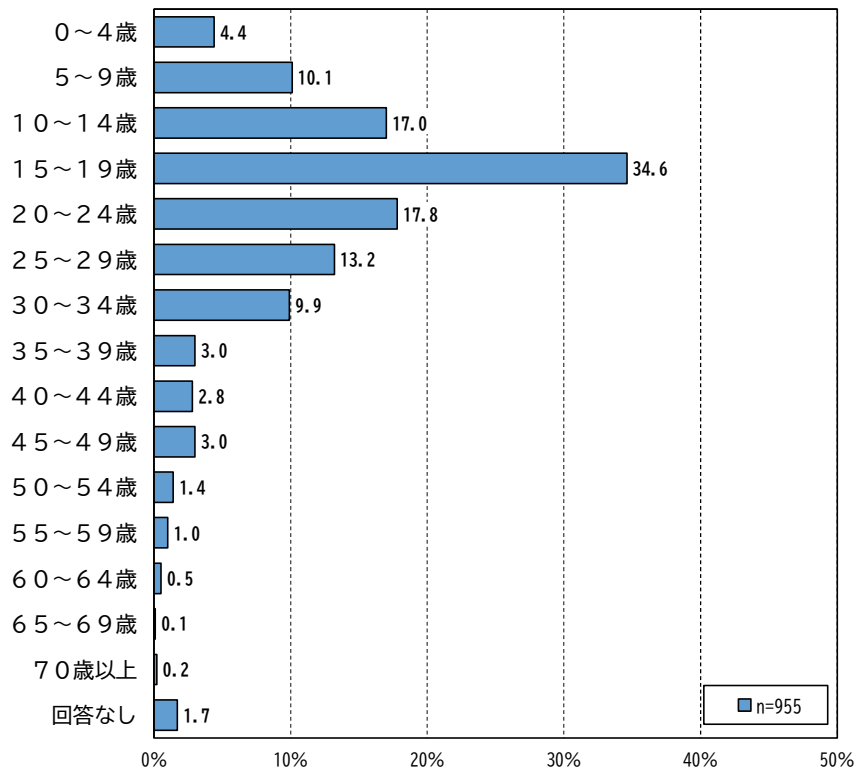


(※補足)

本設問では、行動問題の症状や状態が最も強かった時期(ピーク)について把握することを目的に、「ピーク時の年齢」を数字で回答する形式とした。しかし、実際の回答をみると、複数の年齢を記入する回答や「明確なピークはなく、現在も続いている」との記述などが多くみられ、行動問題のピークが単一の時期に特定しにくい実態がうかがえた。

このため、本分析では自由記述等も含めた回答内容をもとに、「図表 行動問題の症状や状態のピークの状況」のように行動問題の症状や状態のピークの現れ方に着目しピークの状況を整理した。

図表 行動問題の症状や状態のピークの年齢



【年代別】

表 行動問題の症状や状態のピークの状況（年代別）

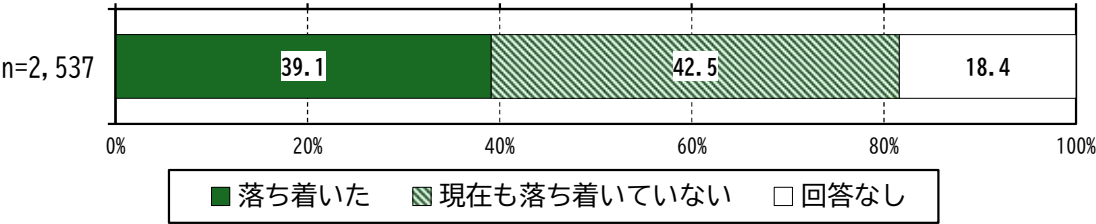
	n=	ピークがあった	複数回ピークがあった	今も続いている	わからない	その他	回答なし
全体	2,537	949	6	917	69	8	588
%		37.4	0.2	36.1	2.7	0.3	23.2
0～9歳	36	12	-	19	-	-	5
%		33.3	-	52.8	-	-	13.9
10～19歳	196	61	-	114	2	-	19
%		31.1	-	58.2	1.0	-	9.7
20～29歳	645	253	2	307	9	3	71
%		39.2	0.3	47.6	1.4	0.5	11.0
30～39歳	563	242	4	211	9	3	94
%		43.0	0.7	37.5	1.6	0.5	16.7
40～49歳	469	184	-	123	19	1	142
%		39.2	-	26.2	4.1	0.2	30.3
50～59歳	418	141	-	98	19	-	160
%		33.7	-	23.4	4.5	-	38.3
60歳以上	186	50	-	41	11	-	84
%		26.9	-	22.0	5.9	-	45.2

② ピークの頃の症状や状態は落ち着きましたか。(最も近いもの1つだけに○)

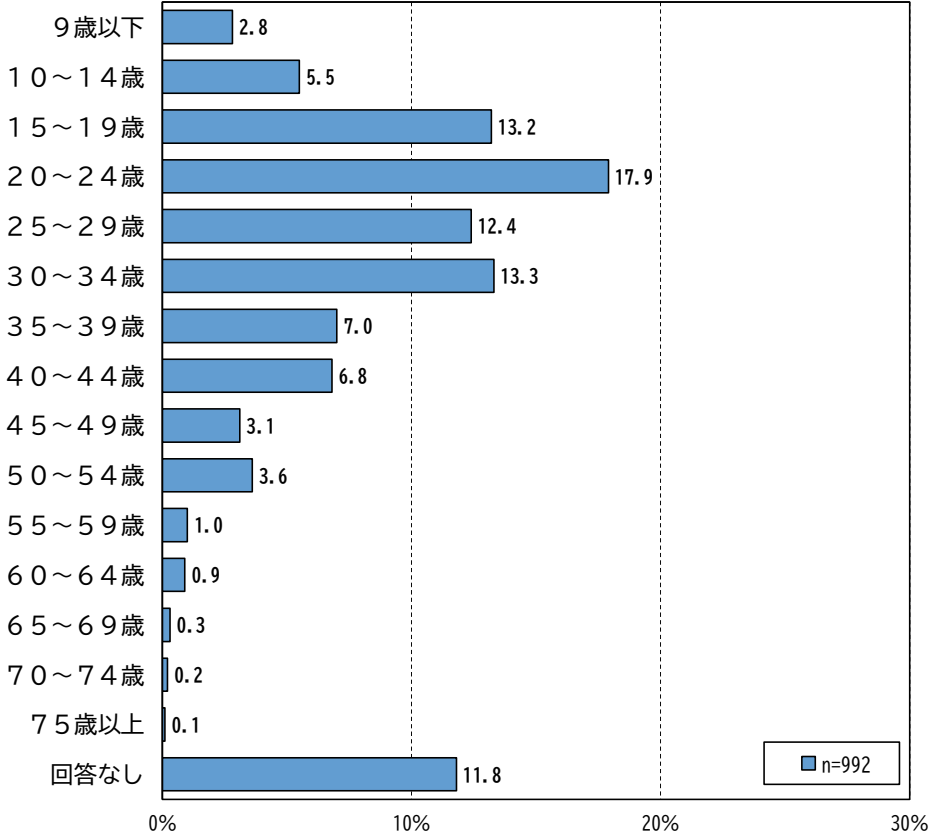
ピークの頃の症状や状態が落ち着いたかについては、「落ち着いた」が39.1%、「現在も落ち着いていない」が42.5%となっている。

「落ち着いた」と回答した人(992件)のうち、落ち着いた年齢については、「20~24歳」が17.9%と最も高く、続いて「30~34歳」13.3%、「15~19歳」13.2%、「25~29歳」12.4%となっている。

図表 ピークの頃の症状や状態が落ち着いたか



図表 ピークの頃の症状や状態が落ち着いた年齢



【年代別】

表 ピークの頃の症状や状態が落ち着いた年齢（年代別）

	n=	9歳以下	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
全体	992	28	55	131	178	123	132	69	67
%		2.8	5.5	13.2	17.9	12.4	13.3	7.0	6.8
0～9歳	12	11	-	-	-	-	-	-	-
%		91.7	-	-	-	-	-	-	-
10～19歳	60	3	23	33	-	-	-	-	-
%		5.0	38.3	55.0	-	-	-	-	-
20～29歳	258	4	16	61	110	48	-	-	-
%		1.6	6.2	23.6	42.6	18.6	-	-	-
30～39歳	245	3	7	18	32	58	80	23	-
%		1.2	2.9	7.3	13.1	23.7	32.7	9.4	-
40～49歳	194	5	7	7	14	13	33	37	42
%		2.6	3.6	3.6	7.2	6.7	17.0	19.1	21.6
50～59歳	157	1	1	10	16	4	15	8	23
%		0.6	0.6	6.4	10.2	2.5	9.6	5.1	14.6
60歳以上	60	1	1	2	3	-	4	-	1
%		1.7	1.7	3.3	5.0	-	6.7	-	1.7

	n=	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	回答なし
全体	992	31	36	10	9	3	2	1	117
%		3.1	3.6	1.0	0.9	0.3	0.2	0.1	11.8
0～9歳	12	-	-	-	-	-	-	-	1
%		-	-	-	-	-	-	-	8.3
10～19歳	60	-	-	-	-	-	-	-	1
%		-	-	-	-	-	-	-	1.7
20～29歳	258	-	-	-	-	-	-	-	19
%		-	-	-	-	-	-	-	7.4
30～39歳	245	-	-	-	-	-	-	-	24
%		-	-	-	-	-	-	-	9.8
40～49歳	194	12	-	-	-	-	-	-	24
%		6.2	-	-	-	-	-	-	12.4
50～59歳	157	17	27	4	-	-	-	-	31
%		10.8	17.2	2.5	-	-	-	-	19.7
60歳以上	60	1	9	6	9	3	2	1	17
%		1.7	15.0	10.0	15.0	5.0	3.3	1.7	28.3

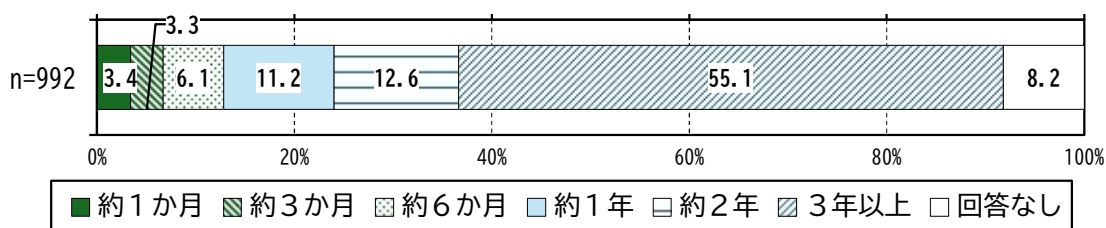
※表側：対象者の年齢（令和7年4月1日現在）、表頭：ピークの頃の症状や状態が落ち着いた年齢

③軽快したとすれば、この調査に回答する現在までどのくらいの期間、落ち着いた状態が続いていますか。(最も近いもの1つだけに○)
 ※「1. 落ち着いた」を選んだ方のみ回答してください。

ピークの頃の症状や状態が「落ち着いた」と回答した人(992件)のうち、落ち着いた状態が続いている期間については、「3年以上」が最も高く55.1%、続いて、「約2年」12.6%、「約1年」11.2%、「約6か月」6.1%となっている。

年代別では、若年層では落ち着いた状態が続いている期間が比較的短い回答が多い一方、20代以降では「3年以上」と回答した割合が高くなっている。

図表 落ち着いた状態が続いている期間



【年代別】

表 落ち着いた状態が続いている期間 (年代別)

	n=	約1か月	約3か月	約6か月	約1年	約2年	3年以上	回答なし
全体	992	34	33	61	111	125	547	81
%		3.4	3.3	6.1	11.2	12.6	55.1	8.2
0~9歳	12	-	-	4	5	2	-	1
%		-	-	33.3	41.7	16.7	-	8.3
10~19歳	60	2	4	12	13	12	14	3
%		3.3	6.7	20.0	21.7	20.0	23.3	5.0
20~29歳	258	11	12	15	40	42	123	15
%		4.3	4.7	5.8	15.5	16.3	47.7	5.8
30~39歳	245	9	8	12	24	38	136	18
%		3.7	3.3	4.9	9.8	15.5	55.5	7.3
40~49歳	194	7	2	9	9	14	136	17
%		3.6	1.0	4.6	4.6	7.2	70.1	8.8
50~59歳	157	4	6	4	12	12	102	17
%		2.5	3.8	2.5	7.6	7.6	65.0	10.8
60歳以上	60	1	1	4	7	4	35	8
%		1.7	1.7	6.7	11.7	6.7	58.3	13.3

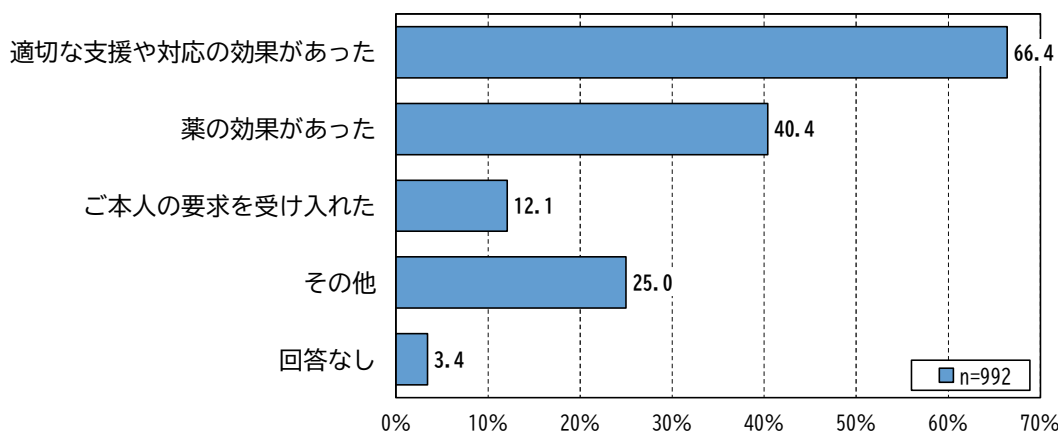
④落ち着いた状態になった理由として考えられることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※「1. 落ち着いた」を選んだ方のみ回答してください。

ピークの頃の症状や状態が「落ち着いた」と回答した人(992件)のうち、落ち着いた状態になった理由については、「適切な支援や対応の効果があつた」が最も高く66.4%、続いて、「薬の効果があつた」が40.4%、「ご本人の要求を受け入れた」12.1%となっている。

なお、「その他」の具体的な回答では、「生活環境を変えた」「生活環境に慣れた」「年齢の変化」「本人の発達・成長」などが挙げられた。

図表 落ち着いた状態になった理由



【年代別】

表 落ち着いた状態になった理由 (年代別)

	n=	適切な支援 や対応の効 果があつた	薬の効果が あつた	ご本人の要 求を受け入 れた	その他	回答なし
全体	992	659	401	120	248	34
%		66.4	40.4	12.1	25.0	3.4
0~9歳	12	9	2	2	9	-
%		75.0	16.7	16.7	75.0	-
10~19歳	60	45	22	11	18	-
%		75.0	36.7	18.3	30.0	-
20~29歳	258	173	115	35	60	7
%		67.1	44.6	13.6	23.3	2.7
30~39歳	245	170	101	26	58	4
%		69.4	41.2	10.6	23.7	1.6
40~49歳	194	128	81	26	45	6
%		66.0	41.8	13.4	23.2	3.1
50~59歳	157	99	61	15	38	9
%		63.1	38.9	9.6	24.2	5.7
60歳以上	60	32	16	5	20	7
%		53.3	26.7	8.3	33.3	11.7

4. 利用している福祉サービスや日中活動の場

(20) 普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場

問 20

現在、ご本人が普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

現在、ご本人が利用している障害福祉サービスや日中活動の場については、「生活介護」が最も高く 60.5%となっている。

続いて、「入所施設（障害者支援施設）」24.6%、「グループホーム」23.9%と入所施設が並んでいる。

他にも、「日中一時支援」17.8%、「短期入所」17.0%、「移動支援」15.1%、「行動援護」9.6%、「就労継続支援（B型）」8.5%、「居宅介護」6.8%、「放課後等デイサービス」5.8%などの割合も高くなっている。

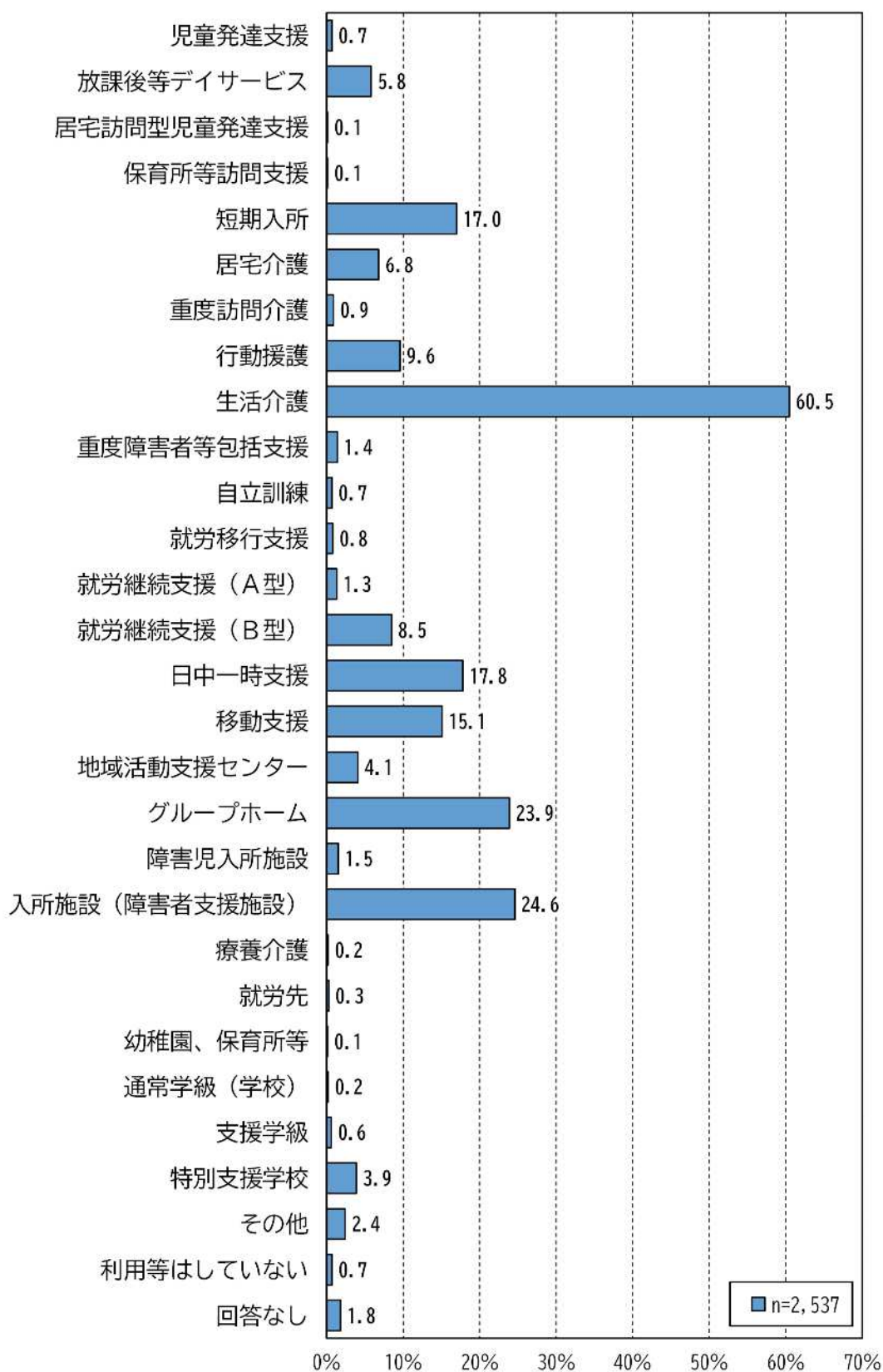
年齢別にみると、また、成人期以降は生活介護の利用が中心となり、30～40代ではグループホームの利用割合が高い水準で推移している。加えて、入所施設（障害者支援施設）の利用割合は、年齢が上がるにつれて増加し、50代以降では半数を超えている。

圏域別にみると、障害福祉サービスおよび日中活動の場の利用状況の圏域別集計では、「生活介護」は、尾張中部を除くすべての圏域において最も利用割合が高いサービスである。他方でグループホーム（23.9%）、入所施設（障害者支援施設）（24.6%）、日中一時支援（17.8%）、短期入所（17.0%）、移動支援（15.1%）など、生活の場や日常生活を支えるサービスについては、圏域によって利用割合に大きな差がみられる。

学齢期に関連するサービスについては、放課後等デイサービス、支援学級、特別支援学校の利用割合が一部の圏域に集中しており、尾張中部および東三河北部では、これらの割合が他圏域と比べて高い水準となっている。

なお、「その他」の具体的な回答では、「相談支援」「シェアハウス」「医療施設に入院中」などが挙げられた。

図表 普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場



【年代別】

表 普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場（年代別）

	n=	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	短期入所	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	重度障害者等包括支援
全体	2,537	18	147	2	3	432	172	24	243	1,534	36
%		0.7	5.8	0.1	0.1	17.0	6.8	0.9	9.6	60.5	1.4
0～9歳	36	5	35	-	2	3	1	-	3	-	-
%		13.9	97.2	-	5.6	8.3	2.8	-	8.3	-	-
10～19歳	196	8	100	1	1	46	14	1	21	82	-
%		4.1	51.0	0.5	0.5	23.5	7.1	0.5	10.7	41.8	-
20～29歳	645	1	6	1	-	205	44	11	89	502	8
%		0.2	0.9	0.2	-	31.8	6.8	1.7	13.8	77.8	1.2
30～39歳	563	1	2	-	-	119	45	7	74	373	15
%		0.2	0.4	-	-	21.1	8.0	1.2	13.1	66.3	2.7
40～49歳	469	1	4	-	-	48	35	3	31	264	8
%		0.2	0.9	-	-	10.2	7.5	0.6	6.6	56.3	1.7
50～59歳	418	2	-	-	-	7	21	1	19	194	4
%		0.5	-	-	-	1.7	5.0	0.2	4.5	46.4	1.0
60歳以上	186	-	-	-	-	4	9	1	4	105	1
%		-	-	-	-	2.2	4.8	0.5	2.2	56.5	0.5

	n=	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援(A型)	就労継続支援(B型)	日中一時支援	移動支援	地域活動支援センター	グループホーム	障害児入所施設	入所施設(障害者支援施設)
全体	2,537	19	20	32	215	451	383	104	607	37	624
%		0.7	0.8	1.3	8.5	17.8	15.1	4.1	23.9	1.5	24.6
0～9歳	36	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
%		-	-	-	-	2.8	-	-	-	-	-
10～19歳	196	-	-	-	8	37	20	4	15	-	4
%		-	-	-	4.1	18.9	10.2	2.0	7.7	-	2.0
20～29歳	645	3	3	6	59	193	132	33	130	2	45
%		0.5	0.5	0.9	9.1	29.9	20.5	5.1	20.2	0.3	7.0
30～39歳	563	7	7	4	64	120	134	28	172	7	82
%		1.2	1.2	0.7	11.4	21.3	23.8	5.0	30.6	1.2	14.6
40～49歳	469	2	6	12	45	58	50	21	139	11	158
%		0.4	1.3	2.6	9.6	12.4	10.7	4.5	29.6	2.3	33.7
50～59歳	418	4	2	10	27	31	35	16	103	12	214
%		1.0	0.5	2.4	6.5	7.4	8.4	3.8	24.6	2.9	51.2
60歳以上	186	2	2	-	9	8	11	2	41	5	114
%		1.1	1.1	-	4.8	4.3	5.9	1.1	22.0	2.7	61.3

	n=	療養介護	就労先	幼稚園、保育所等	通常学級(学校)	支援学級	特別支援学校	その他	利用等はしていない	回答なし
全体	2,537	5	7	2	4	16	98	61	18	45
%		0.2	0.3	0.1	0.2	0.6	3.9	2.4	0.7	1.8
0～9歳	36	-	-	1	1	8	20	1	-	-
%		-	-	2.8	2.8	22.2	55.6	2.8	-	-
10～19歳	196	-	-	-	3	7	74	4	1	1
%		-	-	-	1.5	3.6	37.8	2.0	0.5	0.5
20～29歳	645	1	-	-	-	-	1	23	6	1
%		0.2	-	-	-	-	0.2	3.6	0.9	0.2
30～39歳	563	1	2	-	-	-	-	16	5	11
%		0.2	0.4	-	-	-	-	2.8	0.9	2.0
40～49歳	469	1	3	-	-	1	1	8	4	11
%		0.2	0.6	-	-	0.2	0.2	1.7	0.9	2.3
50～59歳	418	2	2	1	-	-	2	6	2	15
%		0.5	0.5	0.2	-	-	0.5	1.4	0.5	3.6
60歳以上	186	-	-	-	-	-	-	2	-	4
%		-	-	-	-	-	-	1.1	-	2.2

【圏域別】

表 普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場（圏域別）

	n=	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	短期入所	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	重度障害者等包括支援
全体	2,537	18	147	2	3	432	172	24	243	1,534	36
%		0.7	5.8	0.1	0.1	17.0	6.8	0.9	9.6	60.5	1.4
尾張中部	47	3	18	-	-	8	3	-	5	17	1
%		6.4	38.3	-	-	17.0	6.4	-	10.6	36.2	2.1
海部	191	-	14	-	-	17	3	-	10	109	5
%		-	7.3	-	-	8.9	1.6	-	5.2	57.1	2.6
尾張東部	153	2	13	-	-	37	10	2	15	98	2
%		1.3	8.5	-	-	24.2	6.5	1.3	9.8	64.1	1.3
尾張西部	234	3	7	-	-	42	29	3	43	160	5
%		1.3	3.0	-	-	17.9	12.4	1.3	18.4	68.4	2.1
尾張北部	300	-	10	1	-	34	21	3	19	137	8
%		-	3.3	0.3	-	11.3	7.0	1.0	6.3	45.7	2.7
知多半島	368	1	32	-	1	65	38	1	53	247	3
%		0.3	8.7	-	0.3	17.7	10.3	0.3	14.4	67.1	0.8
西三河北部	314	-	6	-	-	64	22	3	14	198	5
%		-	1.9	-	-	20.4	7.0	1.0	4.5	63.1	1.6
西三河南部東	160	1	2	-	-	30	8	-	28	94	-
%		0.6	1.3	-	-	18.8	5.0	-	17.5	58.8	-
西三河南部西	222	6	16	-	1	61	15	6	22	129	2
%		2.7	7.2	-	0.5	27.5	6.8	2.7	9.9	58.1	0.9
東三河北部	38	1	13	-	-	6	2	-	7	19	-
%		2.6	34.2	-	-	15.8	5.3	-	18.4	50.0	-
東三河南部	418	1	16	1	1	67	18	5	19	272	3
%		0.2	3.8	0.2	0.2	16.0	4.3	1.2	4.5	65.1	0.7

	n=	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援（A型）	就労継続支援（B型）	日中一時支援	移動支援	地域活動支援センター	グループホーム	障害児入所施設	入所施設（障害者支援施設）
全体	2,537	19	20	32	215	451	383	104	607	37	624
%		0.7	0.8	1.3	8.5	17.8	15.1	4.1	23.9	1.5	24.6
尾張中部	47	-	-	-	3	8	2	3	9	-	10
%		-	-	-	6.4	17.0	4.3	6.4	19.1	-	21.3
海部	191	-	4	-	26	57	18	8	62	-	47
%		-	2.1	-	13.6	29.8	9.4	4.2	32.5	-	24.6
尾張東部	153	-	-	2	13	41	30	8	34	6	25
%		-	-	1.3	8.5	26.8	19.6	5.2	22.2	3.9	16.3
尾張西部	234	1	4	5	24	45	47	13	74	2	44
%		0.4	1.7	2.1	10.3	19.2	20.1	5.6	31.6	0.9	18.8
尾張北部	300	3	-	6	37	32	31	36	69	6	84
%		1.0	-	2.0	12.3	10.7	10.3	12.0	23.0	2.0	28.0
知多半島	368	5	2	1	29	68	91	10	100	2	73
%		1.4	0.5	0.3	7.9	18.5	24.7	2.7	27.2	0.5	19.8
西三河北部	314	1	3	3	24	31	68	5	46	6	87
%		0.3	1.0	1.0	7.6	9.9	21.7	1.6	14.6	1.9	27.7
西三河南部東	160	2	-	-	12	32	8	2	19	6	63
%		1.3	-	-	7.5	20.0	5.0	1.3	11.9	3.8	39.4
西三河南部西	222	1	2	3	11	78	29	5	39	1	57
%		0.5	0.9	1.4	5.0	35.1	13.1	2.3	17.6	0.5	25.7
東三河北部	38	-	1	-	3	3	6	1	3	-	6
%		-	2.6	-	7.9	7.9	15.8	2.6	7.9	-	15.8
東三河南部	418	4	4	10	21	53	45	10	110	5	101
%		1.0	1.0	2.4	5.0	12.7	10.8	2.4	26.3	1.2	24.2

	n=	療養介護	就労先	幼稚園、 保育所等	通常学級 (学校)	支援学級	特別支援学校	その他	利用等は していない	回答なし
全体	2,537	5	7	2	4	16	98	61	18	45
%		0.2	0.3	0.1	0.2	0.6	3.9	2.4	0.7	1.8
尾張中部	47	-	-	-	3	5	8	-	1	-
%		-	-	-	6.4	10.6	17.0	-	2.1	-
海部	191	-	-	-	-	-	9	2	-	4
%		-	-	-	-	-	4.7	1.0	-	2.1
尾張東部	153	-	1	-	-	2	8	6	1	2
%		-	0.7	-	-	1.3	5.2	3.9	0.7	1.3
尾張西部	234	-	1	-	1	2	5	7	-	7
%		-	0.4	-	0.4	0.9	2.1	3.0	-	3.0
尾張北部	300	1	2	-	-	-	6	11	3	9
%		0.3	0.7	-	-	-	2.0	3.7	1.0	3.0
知多半島	368	-	-	-	-	-	24	9	1	5
%		-	-	-	-	-	6.5	2.4	0.3	1.4
西三河北部	314	2	1	-	-	-	3	5	5	8
%		0.6	0.3	-	-	-	1.0	1.6	1.6	2.5
西三河南部東	160	1	-	-	-	1	1	2	1	1
%		0.6	-	-	-	0.6	0.6	1.3	0.6	0.6
西三河南部西	222	1	-	1	-	2	12	8	1	2
%		0.5	-	0.5	-	0.9	5.4	3.6	0.5	0.9
東三河北部	38	-	-	-	-	1	8	1	-	1
%		-	-	-	-	2.6	21.1	2.6	-	2.6
東三河南部	418	-	1	1	-	3	14	7	4	5
%		-	0.2	0.2	-	0.7	3.3	1.7	1.0	1.2

(21) 同じサービスで複数の事業所を利用しているもの

問 21

利用しているサービスのうち、同じサービスで複数の事業所を利用しているものがあれば教えてください。(生活介護を2ヶ所の事業所で利用している、など) (あてはまるものすべてに○)

利用しているサービスのうち、同じサービスで複数の事業所を利用しているものについては、「複数の事業所等を利用しているものはない」が42.0%と最も高くなっているが、「生活介護」11.6%、「短期入所」6.3%、「日中一時支援」5.6%、「移動支援」4.6%、「放課後等デイサービス」3.9%などのサービスで一定割合が高くなっている。

なお、「その他」の具体的な回答では、「共同生活事業所」「介護サービス包括型グループホーム」などが挙げられた。

図表 同じサービスで複数の事業所を利用しているもの

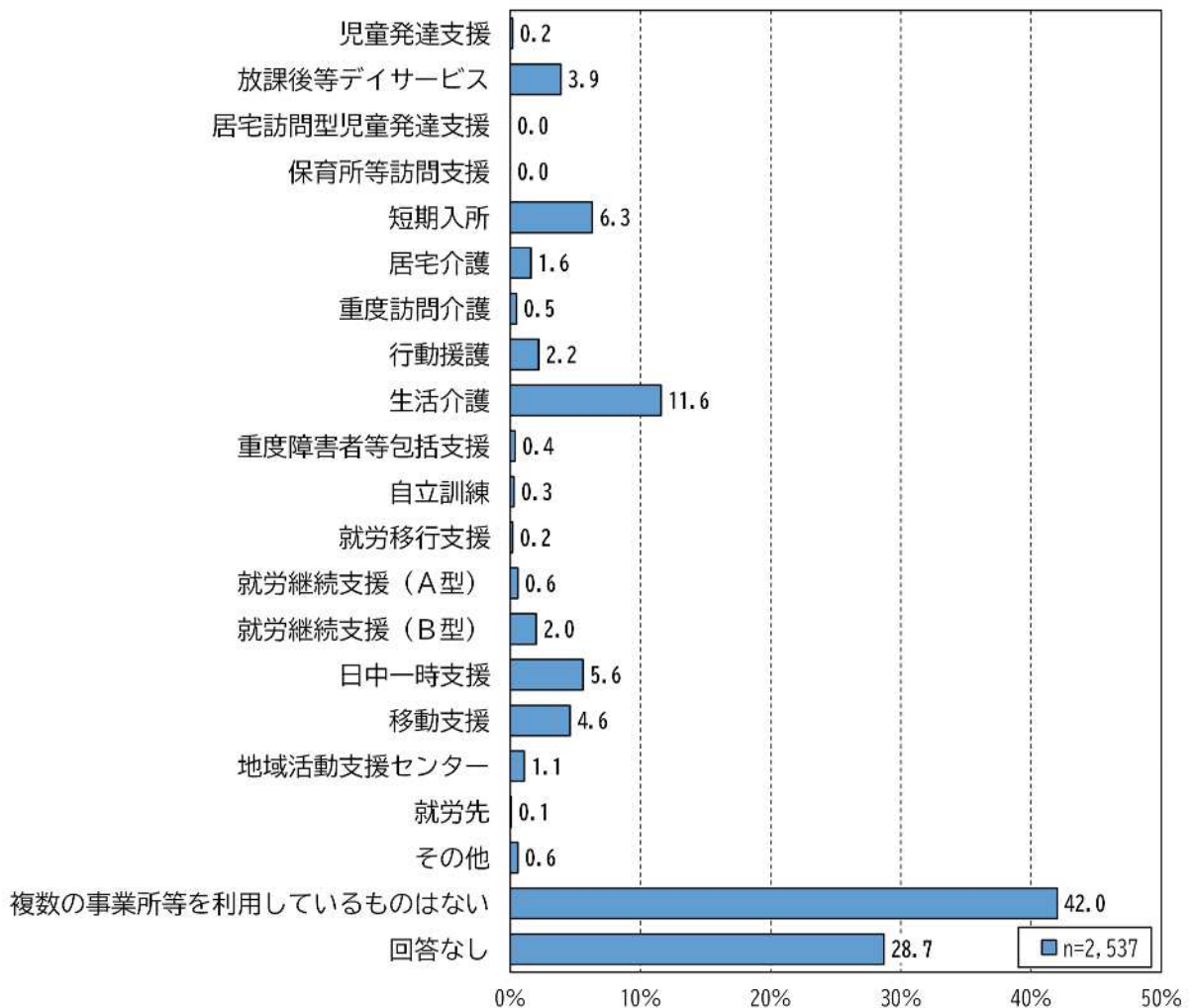


表 同じサービスで複数の事業所を利用しているもの（年代別）

	n=	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	短期入所	居宅介護	重度訪問介護
全体	2,537	6	100	1	-	159	41	12
%		0.2	3.9	0.0	-	6.3	1.6	0.5
0～9歳	36	1	20	-	-	1	-	-
%		2.8	55.6	-	-	2.8	-	-
10～19歳	196	2	75	1	-	15	4	-
%		1.0	38.3	0.5	-	7.7	2.0	-
20～29歳	645	-	3	-	-	64	10	4
%		-	0.5	-	-	9.9	1.6	0.6
30～39歳	563	1	1	-	-	51	11	4
%		0.2	0.2	-	-	9.1	2.0	0.7
40～49歳	469	-	-	-	-	22	7	2
%		-	-	-	-	4.7	1.5	0.4
50～59歳	418	2	1	-	-	5	6	1
%		0.5	0.2	-	-	1.2	1.4	0.2
60歳以上	186	-	-	-	-	1	3	1
%		-	-	-	-	0.5	1.6	0.5

	n=	行動援護	生活介護	重度障害者等包括支援	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援（A型）	就労継続支援（B型）
全体	2,537	56	294	11	7	6	15	50
%		2.2	11.6	0.4	0.3	0.2	0.6	2.0
0～9歳	36	1	-	-	-	-	-	-
%		2.8	-	-	-	-	-	-
10～19歳	196	1	19	1	-	-	-	2
%		0.5	9.7	0.5	-	-	-	1.0
20～29歳	645	17	101	2	1	-	4	7
%		2.6	15.7	0.3	0.2	-	0.6	1.1
30～39歳	563	23	85	3	3	2	2	15
%		4.1	15.1	0.5	0.5	0.4	0.4	2.7
40～49歳	469	7	47	2	1	2	4	14
%		1.5	10.0	0.4	0.2	0.4	0.9	3.0
50～59歳	418	5	28	3	1	2	5	9
%		1.2	6.7	0.7	0.2	0.5	1.2	2.2
60歳以上	186	1	13	-	1	-	-	1
%		0.5	7.0	-	0.5	-	-	0.5

	n=	日中一時支援	移動支援	地域活動支援センター	就労先	その他	複数の事業所等を利用しているものはない	回答なし
全体	2,537	141	117	29	3	15	1,066	727
%		5.6	4.6	1.1	0.1	0.6	42.0	28.7
0～9歳	36	-	-	-	-	-	10	6
%		-	-	-	-	-	27.8	16.7
10～19歳	196	9	4	1	-	-	64	23
%		4.6	2.0	0.5	-	-	32.7	11.7
20～29歳	645	53	27	5	-	3	289	146
%		8.2	4.2	0.8	-	0.5	44.8	22.6
30～39歳	563	39	46	5	1	3	219	149
%		6.9	8.2	0.9	0.2	0.5	38.9	26.5
40～49歳	469	20	25	12	2	3	199	160
%		4.3	5.3	2.6	0.4	0.6	42.4	34.1
50～59歳	418	17	11	5	-	3	184	161
%		4.1	2.6	1.2	-	0.7	44.0	38.5
60歳以上	186	3	4	1	-	2	93	69
%		1.6	2.2	0.5	-	1.1	50.0	37.1

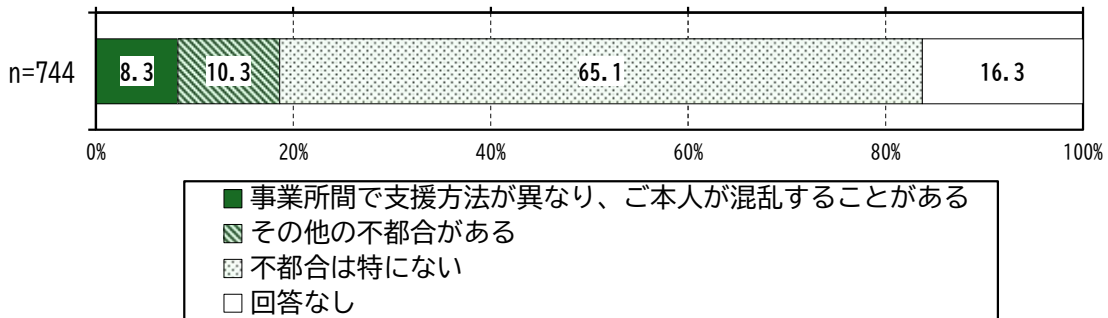
問 21-1

同じサービスで複数の事業所等を利用している場合や、複数の障害福祉サービスを利用する場合に不都合はありますか。(最も近いもの1つだけに○)

問 21 で何かしらの同じサービスを選択した人 (744 件) のうち、複数の事業所等を利用している場合や、複数の障害福祉サービスを利用する場合の不都合については、「不都合は特にない」が 65.1%と最も高くなっている一方で、「事業所間で支援方法が異なり、ご本人が混乱することがある」が 8.3%、「その他の不都合がある」が 10.3%となっている。

なお、「その他の不都合がある」の具体的な回答では、「事業所間で支援方法が異なり、保護者の管理が大変（書類や面談の回数が増えるなど）」「できれば同じ場所で利用したい」「施設間での連携ができていない」などが挙げられた。

図表 同じサービスで複数の事業所・
複数の障害福祉サービスを利用する場合の不都合



(22) 利用したいのに利用できていない福祉サービス

問 22

利用したいのに利用できていない福祉サービスとその理由を教えてください。(あてはまるサービスの番号に○をつけ、利用できない理由を下のA～Gから選んでください。)

利用したいのに利用できていない福祉サービスとしては、短期入所(260件)が最も多く、次いでグループホーム(227件)、移動支援(168件)、入所施設(障害者支援施設)(136件)、日中一時支援(130件)となっており、レスパイトや生活を支える基盤的サービスで件数が多い。

利用できない理由をみると、全体では「空きがなく断られた、待機中」や「事業所の都合で利用できなくなった」が多く、サービス需要に対して供給が追いついていない状況がうかがえる。あわせて、「強度行動障害を理由に断られた」との回答も、短期入所、グループホーム、移動支援、日中一時支援など複数のサービスで一定数みられ、障害特性を理由とした利用の難しさが示されている。

サービス別にみると、短期入所では「強度行動障害を理由に断られた」「空きがなく断られた、待機中」「その他」のいずれも件数が多く、受入体制の課題と量的不足、個別調整の困難さが重なっている状況がうかがえる。

表 利用したいのに利用できていない福祉サービス

	A	B	C	D	E	F	G	
	強度行動障害を理由に断られた	事業所の都合で利用できなくなった	事業所の様子が分からないから不安	通える範囲にない	事業所の送迎がない (家族送迎必要有)	空きがなく断られた、待機中	その他	合計
1. 児童発達支援	4	6	1	3	5	3	10	32
2. 放課後等デイサービス	9	7	0	4	2	6	8	36
3. 居宅訪問型児童発達支援	1	0	0	3	0	0	2	6
4. 保育所等訪問支援	1	0	0	2	0	0	2	5
5. 短期入所	38	31	28	14	17	37	95	260
6. 居宅介護	2	8	2	2	0	5	11	30
7. 重度訪問介護	0	0	2	3	0	0	6	11
8. 行動援護	6	15	8	5	2	10	31	77
9. 生活介護	12	5	4	3	12	4	12	52
10. 重度障害者等包括支援	1	1	2	3	0	0	2	9
11. 自立訓練	1	0	1	5	0	0	5	12
12. 就労移行支援	1	1	3	1	1	0	3	10
13. 就労継続支援 (A型・B型)	7	1	3	4	1	0	9	25
14. 日中一時支援	16	27	7	10	13	18	39	130
15. 移動支援	17	42	8	10	6	28	57	168
16. 地域活動支援センター	4	2	3	4	1	2	5	21
17. グループホーム	24	13	37	18	9	74	52	227
18. 障害児入所施設	1	1	3	3	0	3	6	17
19. 入所施設 (障害者支援施設)	14	4	13	6	1	60	38	136
20. 療養介護	0	0	1	3	0	0	4	8
	159	164	126	106	70	250	397	1272

(件)

(23) 福祉サービスの利用にあたっての希望

問 23

福祉サービスの利用にあたって、希望などありますか。
(具体的にお書きください)

問 23 では、727 件の回答を得られた。記載内容について大きく分類すると、①制度・サービスに関する要望、②事業所・人材に関する要望、③家族負担等の解消にむけた希望等が多く、その他にも、④医療・相談体制に関する要望等、⑤その他・複合的な内容として整理した。

① 制度・サービスに関する要望

(記述回答の一部抜粋)

- 日中一時の日数が減らされている。日中一時とホームの併用も不可で、ヘルパー利用も十分に出来ない。高齢になってくるのに家でみるが多くなっている。
- 短期入所も利用したくても月に 1 回、希望した日を指定できない。そもそも特性に対応できる事業所が限られている。日中一時も送迎者が運転手のみでは不安定になった時に対応できる人がいないので、利用できない。このあたりが改善されると本人、家族の生活がおおきく変わると思う。
- 意思の疎通ができずに大変なのですが、老介護ですので、急に新しい施設で受け入れて下さるのは本人の身体、精神的にも無理である。できるだけ、現利用させていただいている施設への入所がかなえられたらと思う。
- 使いたいときに使えなくて、必要な所に必要な場所がなさすぎる。市によって違いが大きすぎる。
- 送迎の希望。今は、親が GPS で確認して、グループホームから就労継続支援の送迎者が来るところまで、時間に間に合わない時は車で送迎しているが、親亡き後を考えると、送迎のサービスがあると安心できる。
- 利用できる時間が短いのもう少し長く利用できると助かる。現在 9:30~15:30→理想 9:00~16:00。

② 事業所・人材に関する要望

(記述回答の一部抜粋)

- 行動障害のある人に対応できる生活の場(グループホームなど)がもっとたくさん出来てほしい。支援者の数が足りないのもっと増えてほしい。
- 強度行動障害に理解のある職員を増やしてほしい。家族の休養のため、短期入所の枠を広げてほしい。緊急時に利用出来る受け入れ先を増やしてほしい。
- 以前にショートステイを 2ヶ所チャレンジしたことがあるが、本人の叫び声や手出しがある為、断られた。放課後デイなど軽度の方が利用する場は増えているが、強度行動障害の人を預けられる場がない。

③家族負担・生活面の困りごと

(記述回答の一部抜粋)

- グループホームは多くできますが親亡き後も安心できる入所施設が少なく待機状況である。重度障害や老人障害者も入所できる施設の増設を切にお願いしたい。
- 将来的にはグループホームと思っているが、グループホームの数が全然足りていない。これから高齢になっていくと介護の問題も出てくると思うので、どの選択をすべきか悩むことがある。障害福祉か、介護か。
- 親亡き後を考え、できるだけ近くに入所施設がほしい。
- 親亡き後の行き先が無い。
- 親が高齢になり、体調も長期的なストレスで悪化する中、即、利用できる、受け入れてもらえる施設がなく、不安ばかりだ。本人に合う事業所を見つけることは難しく、親の負担が増すばかりだ。

④医療・相談体制に関する要望

(記述回答の一部抜粋)

- 身体に不調があった際、医療サービスを受けたい。
- 健康診断(定期健診、がん検診等)受けさせたいのだが、なかなか一般病院への受診は難しい。障害者でも気楽に受診できるよう、障害者受診デイなど設けていただくか、指定病院があるとありがたい。
- 外出できず医療が受けられないので訪問医療を充実させてほしい。
- 歯科治療ができません。歯磨き程度です。入院治療になると思います。体の異常についての訴えがないので心配である。
- 重度心身障害者を医療と介護を総括的に行える入所施設。

⑤その他・複合的な内容

(記述回答の一部抜粋)

- いろいろな情報があまりわからないので本人にどのようなものが合っているのか良くわかっていない。
- 生活の場が欲しいです。精神病院 隔離部屋での生活から前進できない。日中だけでも自由に行動させてあげたい 運動や好きなことをさせてあげたい。(夜間は隔離でも仕方ないと思う)・・・職員や他者に迷惑がかかるため 日中も迷惑かけますが。
- 自分で調べないとどんな福祉サービスがあるかわからないので、療育手帳や受給者証を取得したタイミングなどで、サービスの内容の一覧や説明をしてほしい。
- 入所施設でお世話になっています。本人との会話ができいないので本当に本人に合っている施設なのかどうかはつきりわからない状態です。
- 現在は自治体・事業所共良く支援をしていただいている。

5. 医療・関係機関との連携状況

(24) 支援に関係する人との行動問題の状況に関する情報共有

問 24

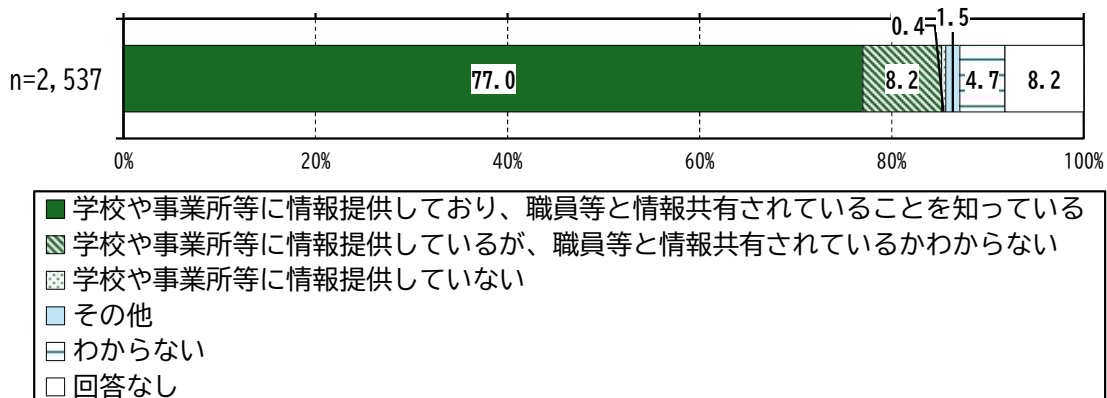
ご本人の行動問題の状況に関する情報について、支援に関係する人（学校や事業所の職員等）と共有していますか。（最も近いもの1つだけに○）

学校や事業所の職員等の支援に関係する人との行動問題の状況に関する情報共有については、「学校や事業所等に情報提供しており、職員等と情報共有されていることを知っている」が77.0%と最も高くなっている。

他方で、「学校や事業所等に情報提供しているが、職員等と情報共有されているかわからない」8.2%、「学校や事業所等に情報提供していない」0.4%となっている。

なお、「その他」の具体的な回答では、「相談員・相談事業所と共有している」「利用している施設によって異なる」「職員全体で共有されているかは分からない」などが挙げられた。

図表 支援に関係する人との行動問題の状況に関する情報共有



(25) 支援に関係する人との適切な支援方法の共有

問 25

ご本人への適切な支援の方法について、支援に関係する人（学校や事業所の職員等）と共有していますか。（最も近いもの1つだけに○）

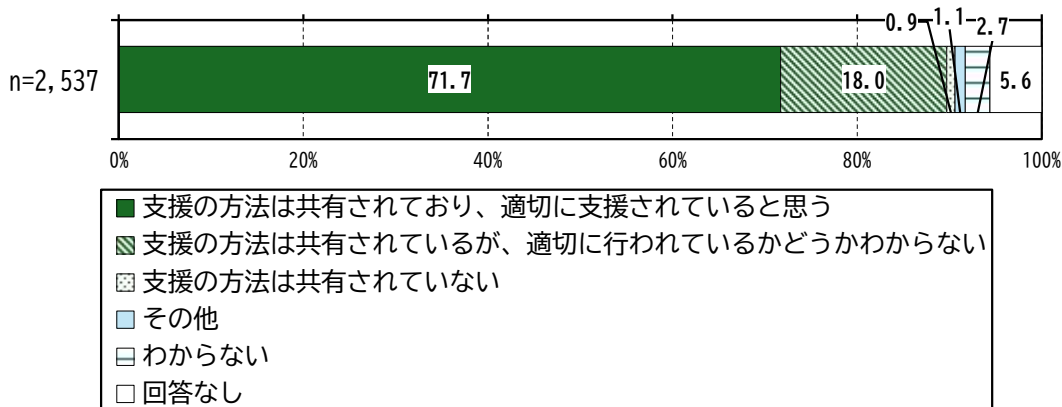
学校や事業所の職員等の支援に関係する人とのご本人への適切な支援方法の共有については、「支援の方法は共有されており、適切に支援されていると思う」が71.7%と最も高くなっている。

他方で、「支援の方法は共有されているが、適切に行われているかどうか分からない」18.0%、「支援の方法は共有されていない」0.9%となっている。

年代別でみると、「支援の方法は共有されているが、適切に行われているかどうか分からない」との回答は、0～29歳では25%前後であるのに対し、30歳代以降は1割台に低下し、60歳以上では7.5%と1割未満となっている。

なお、「その他」の具体的な回答では、「支援の方法は共有されているが、支援が適切に行われていない」「支援の方法は共有されているが、職員が不足していて専門的な支援ができていない」などが挙げられた。

図表 支援に関係する人との適切な支援方法の共有



【年代別】

表 支援に関係する人との適切な支援方法の共有（年代別）

	n=	支援の方法は共有されており、適切に支援されていると思う	支援の方法は共有されているが、適切に行われているかどうか分からない	支援の方法は共有されていない	その他	わからない	回答なし
全体	2,537	1,820	457	22	27	68	143
%		71.7	18.0	0.9	1.1	2.7	5.6
0～9歳	36	24	10	-	2	-	-
%		66.7	27.8	-	5.6	-	-
10～19歳	196	133	50	2	1	2	8
%		67.9	25.5	1.0	0.5	1.0	4.1
20～29歳	645	436	163	6	8	19	13
%		67.6	25.3	0.9	1.2	2.9	2.0
30～39歳	563	413	95	7	4	19	25
%		73.4	16.9	1.2	0.7	3.4	4.4
40～49歳	469	339	72	4	6	11	37
%		72.3	15.4	0.9	1.3	2.3	7.9
50～59歳	418	310	52	2	6	9	39
%		74.2	12.4	0.5	1.4	2.2	9.3
60歳以上	186	151	14	1	-	7	13
%		81.2	7.5	0.5	-	3.8	7.0

【ご本人が普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場（問20）別】

	n=	支援の方法は共有されており、適切に支援されていると思う	支援の方法は共有されているが、適切に行われているかどうかわからない	支援の方法は共有されていない	その他	わからない	回答なし
全体	2,537	1,820	457	22	27	68	143
%		71.7	18.0	0.9	1.1	2.7	5.6
児童発達支援	18	11	5	-	1	-	1
%		61.1	27.8	-	5.6	-	5.6
放課後等デイサービス	147	99	37	2	3	1	5
%		67.3	25.2	1.4	2.0	0.7	3.4
居宅訪問型児童発達支援	2	2	-	-	-	-	-
%		100.0	-	-	-	-	-
保育所等訪問支援	3	-	2	-	1	-	-
%		-	66.7	-	33.3	-	-
短期入所	432	293	108	7	8	9	7
%		67.8	25.0	1.6	1.9	2.1	1.6
居宅介護	172	115	43	2	3	2	7
%		66.9	25.0	1.2	1.7	1.2	4.1
重度訪問介護	24	13	10	-	-	-	1
%		54.2	41.7	-	-	-	4.2
行動援護	243	165	69	3	2	2	2
%		67.9	28.4	1.2	0.8	0.8	0.8
生活介護	1,534	1,144	292	14	17	21	46
%		74.6	19.0	0.9	1.1	1.4	3.0
重度障害者等包括支援	36	23	9	-	1	1	2
%		63.9	25.0	-	2.8	2.8	5.6
自立訓練	19	12	5	-	-	-	2
%		63.2	26.3	-	-	-	10.5
就労移行支援	20	13	7	-	-	-	-
%		65.0	35.0	-	-	-	-
就労継続支援（A型）	32	26	4	-	-	1	1
%		81.3	12.5	-	-	3.1	3.1
就労継続支援（B型）	215	146	41	3	2	12	11
%		67.9	19.1	1.4	0.9	5.6	5.1
日中一時支援	451	319	102	4	5	8	13
%		70.7	22.6	0.9	1.1	1.8	2.9
移動支援	383	269	88	5	7	9	5
%		70.2	23.0	1.3	1.8	2.3	1.3
地域活動支援センター	104	71	21	1	3	3	5
%		68.3	20.2	1.0	2.9	2.9	4.8
グループホーム	607	435	118	6	3	15	30
%		71.7	19.4	1.0	0.5	2.5	4.9
障害児入所施設	37	26	5	-	1	1	4
%		70.3	13.5	-	2.7	2.7	10.8
入所施設（障害者支援施設）	624	494	64	1	6	14	45
%		79.2	10.3	0.2	1.0	2.2	7.2
療養介護	5	4	-	-	-	-	1
%		80.0	-	-	-	-	20.0
就労先	7	5	1	1	-	-	-
%		71.4	14.3	14.3	-	-	-
幼稚園、保育所等	2	2	-	-	-	-	-
%		100.0	-	-	-	-	-
通常学級（学校）	4	2	1	-	-	-	1
%		50.0	25.0	-	-	-	25.0
支援学級	16	7	7	-	1	-	1
%		43.8	43.8	-	6.3	-	6.3
特別支援学校	98	69	22	2	1	1	3
%		70.4	22.4	2.0	1.0	1.0	3.1
その他	61	35	17	1	2	5	1
%		57.4	27.9	1.6	3.3	8.2	1.6
利用等はしていない	18	6	3	1	1	3	4
%		33.3	16.7	5.6	5.6	16.7	22.2

(26) 通院状況

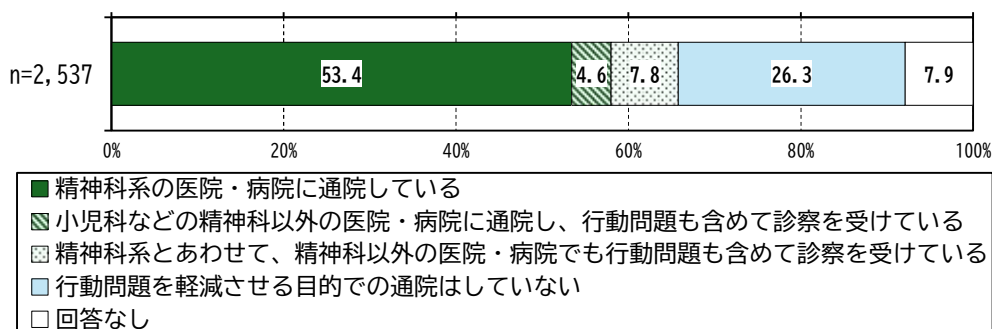
問 26

行動問題を軽減させることを目的に、現在、ご本人は定期的に通院していますか。(あてはまるもの1つだけに○)

行動問題を軽減させることを目的とした通院状況については、「精神科系の医院・病院に通院している」が53.4%と最も高く、「行動問題を軽減させる目的での通院はしていない」が26.3%、「精神科系とあわせて、精神科以外の医院・病院でも行動問題も含めて診察を受けている」が7.8%、「小児科などの精神科以外の医院・病院に通院し、行動問題も含めて診察を受けている」4.6%となっている。

年代別では、「精神科系の医院・病院に通院している」は20代で最も多く、60%を超える一方、40代以降では「通院していない」割合は約3割に達し、60歳以上では4割近くに上っている。

図表 行動問題を軽減させることを目的とした通院状況



【年代別】

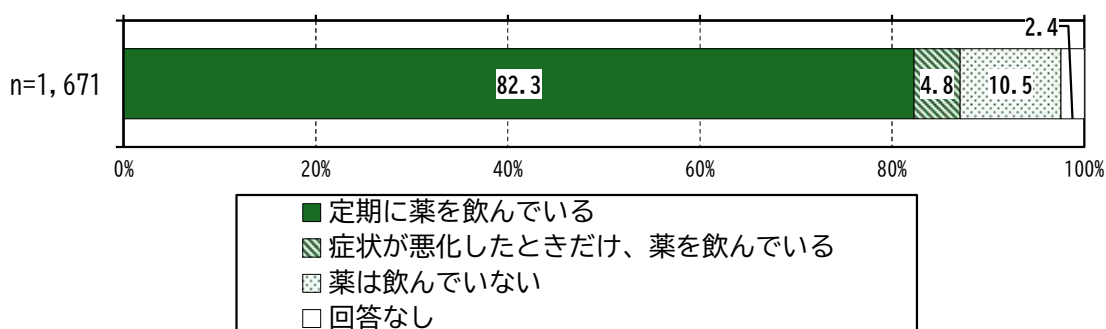
表 行動問題を軽減させることを目的とした通院状況 (年代別)

	n=	精神科系の 医院・病院 に通院して いる	小児科など の精神科以 外の医院・ 病院に通院 し、行動問 題も含めて 診察を受け ている	精神科系と あわせて、 精神科以外 の医院・病 院でも行動 問題も含め て診察を受 けている	行動問題を 軽減させる 目的での通 院はしてい ない	回答なし
全体	2,537	1,356	117	198	666	200
%		53.4	4.6	7.8	26.3	7.9
0～9歳	36	15	7	2	10	2
%		41.7	19.4	5.6	27.8	5.6
10～19歳	196	110	27	13	36	10
%		56.1	13.8	6.6	18.4	5.1
20～29歳	645	414	22	55	132	22
%		64.2	3.4	8.5	20.5	3.4
30～39歳	563	309	27	37	152	38
%		54.9	4.8	6.6	27.0	6.7
40～49歳	469	226	19	40	139	45
%		48.2	4.1	8.5	29.6	9.6
50～59歳	418	186	8	40	124	60
%		44.5	1.9	9.6	29.7	14.4
60歳以上	186	86	7	11	70	12
%		46.2	3.8	5.9	37.6	6.5

①通院している場合、行動問題を軽減させるために処方された薬を飲んでいますか。(あてはまるもの1つだけに○)。

問26で、通院している・診察を受けていると回答した人(1,671件)のうち、服薬の有無については、「定期的に薬を飲んでいる」が82.3%、「薬は飲んでいない」が10.5%、「症状が悪化したときだけ、薬を飲んでいる」が4.8%となっている。
年代別では、「定期的に薬を飲んでいる」は年齢とともに増加傾向にある。

図表 行動問題を軽減させることを目的とした服薬の状況



【年代別】

表 行動問題を軽減させることを目的とした服薬の状況 (年代別)

	n=	定期的に薬を 飲んでいる	症状が悪化 したときだ け、薬を飲 んでいる	薬は飲んで いない	回答なし
全体	1,671	1,375	80	176	40
%		82.3	4.8	10.5	2.4
0～9歳	24	14	-	10	-
%		58.3	-	41.7	-
10～19歳	150	108	5	34	3
%		72.0	3.3	22.7	2.0
20～29歳	491	391	25	69	6
%		79.6	5.1	14.1	1.2
30～39歳	373	310	23	34	6
%		83.1	6.2	9.1	1.6
40～49歳	285	251	12	14	8
%		88.1	4.2	4.9	2.8
50～59歳	234	208	9	7	10
%		88.9	3.8	3.0	4.3
60歳以上	104	87	6	6	5
%		83.7	5.8	5.8	4.8

(27) 精神科病院への入院経験

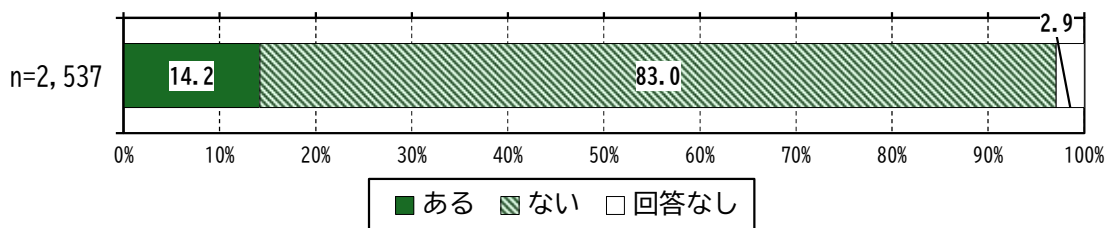
問 27

ご本人は精神科病院に入院したことはありますか。(あてはまるもの1つだけに○)

精神科病院への入院経験については、「ある」が14.2%、「ない」が83.0%となっている。

年代別では、0歳代、10歳代では1割未満で、20歳代以降は1割台で推移し、50代でやや高くなっている。

図表 精神科病院への入院経験



【年代別】

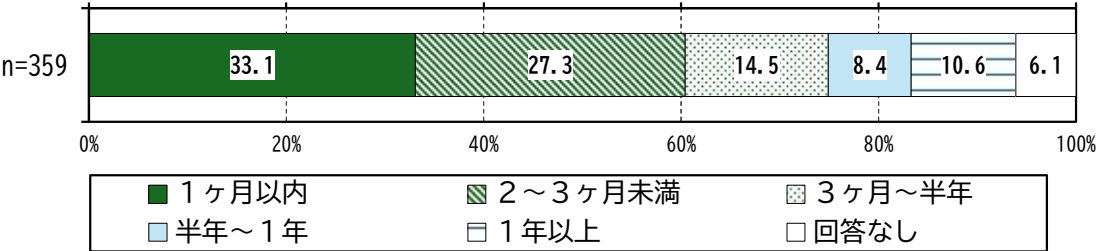
表 精神科病院への入院経験（年代別）

	n=	ある	ない	回答なし
全体	2,537	359	2,105	73
%		14.2	83.0	2.9
0～9歳	36	1	34	1
%		2.8	94.4	2.8
10～19歳	196	16	175	5
%		8.2	89.3	2.6
20～29歳	645	94	543	8
%		14.6	84.2	1.2
30～39歳	563	80	469	14
%		14.2	83.3	2.5
40～49歳	469	67	386	16
%		14.3	82.3	3.4
50～59歳	418	73	329	16
%		17.5	78.7	3.8
60歳以上	186	24	151	11
%		12.9	81.2	5.9

①入院したことがある場合、これまでのおよその平均入院期間を教えてください。
(最も近いもの1つだけに○)

問 27 で精神科病院への入院経験を「ある」と回答した人 (359 件) のうち、およその平均入院期間は、「1 ヶ月以内」が最も高く 33.1%、続いて、「2～3 ヶ月未満」が 27.3%、「3 ヶ月～半年」が 14.5%となっている。

図表 平均入院期間



(28) 医療機関や歯科等を受診できなかった経験の有無

問 28

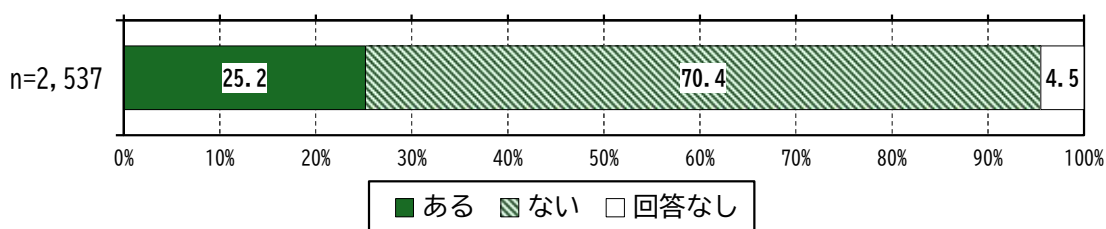
精神科系以外の医療機関や歯科を受診したいのに、できなかったことはありますか。(あてはまるもの1つだけに○)

精神科系以外の医療機関や歯科を受診したいのに、できなかった経験の有無について、「ある」が25.2%、「ない」が70.4%となっている。

年代別では、精神科系以外の医療機関や歯科を受診できなかった経験は、0～30代では2～4割前後に上る一方、40代以降では1割台にとどまっている。

圏域別では、受診したいのにできなかったことが「ある」と回答した割合は、西三河南部西(34.2%)、知多半島(32.3%)、尾張西部(29.1%)、西三河北部(28.0%)、尾張東部(27.5%)で割合が高く、尾張中部(14.9%)、海部(18.3%)、尾張北部(19.7%)、東三河南部(19.4%)では低い水準となっている。圏域によって、「受診したいのにできなかったことがある」とする割合に差がみられる。

図表 医療機関や歯科等を受診できなかった経験の有無



【年代別】

表 医療機関や歯科等を受診できなかった経験の有無（年代別）

	n=	ある	ない	回答なし
全体	2,537	639	1,785	113
%		25.2	70.4	4.5
0～9歳	36	15	19	2
%		41.7	52.8	5.6
10～19歳	196	85	105	6
%		43.4	53.6	3.1
20～29歳	645	218	411	16
%		33.8	63.7	2.5
30～39歳	563	148	397	18
%		26.3	70.5	3.2
40～49歳	469	87	353	29
%		18.6	75.3	6.2
50～59歳	418	55	335	28
%		13.2	80.1	6.7
60歳以上	186	25	150	11
%		13.4	80.6	5.9

【圏域別】

表 医療機関や歯科等を受診できなかった経験の有無（圏域別）

	n=	ある	ない	回答なし
全体	2,537	639	1,785	113
%		25.2	70.4	4.5
尾張中部	47	7	38	2
%		14.9	80.9	4.3
海部	191	35	145	11
%		18.3	75.9	5.8
尾張東部	153	42	106	5
%		27.5	69.3	3.3
尾張西部	234	68	154	12
%		29.1	65.8	5.1
尾張北部	300	59	224	17
%		19.7	74.7	5.7
知多半島	368	119	238	11
%		32.3	64.7	3.0
西三河北部	314	88	215	11
%		28.0	68.5	3.5
西三河南部東	160	34	121	5
%		21.3	75.6	3.1
西三河南部西	222	76	138	8
%		34.2	62.2	3.6
東三河北部	38	10	26	2
%		26.3	68.4	5.3
東三河南部	418	81	314	23
%		19.4	75.1	5.5

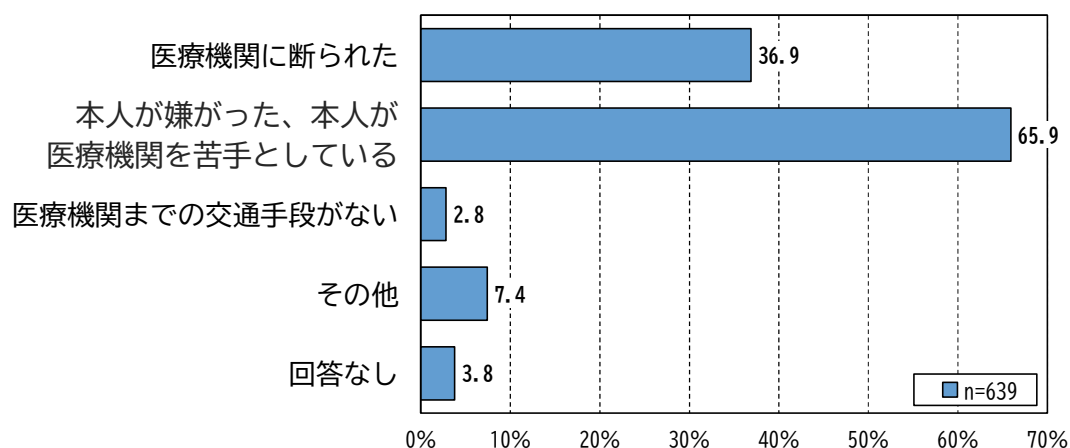
①受診できなかったことがある場合、その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

問 28 で「ある」と回答した人 (639 件) のうち、その理由については、「本人が嫌がった、本人が医療機関を苦手としている」が 65.9%、「医療機関に断られた」が 36.9%、「医療機関までの交通手段がない」が 2.8%となっている。

年代別では、「医療機関に断られた」の回答は、0～9歳で最も高く (66.7%)、10～30代では4割前後となり、40代以降では1～2割台に低下しているなど、年齢が上がるにつれて概ね低下する傾向がみられる。

なお、「その他」の具体的な回答では、「特に歯医者や耳鼻科の受診・治療が難しかった」、「周りに迷惑がかかると思い受診できなかった」、「付き添い・介助者がいないため」などが挙げられた。

図表 医療機関や歯科等を受診できなかった理由



【年代別】

表 医療機関や歯科等を受診できなかった理由（年代別）

	n=	医療機関に断られた	本人が嫌がった、本人が医療機関を苦手としている	医療機関までの交通手段がない	その他	回答なし
全体	639	236	421	18	47	24
%		36.9	65.9	2.8	7.4	3.8
0～9歳	15	10	10	-	-	1
%		66.7	66.7	-	-	6.7
10～19歳	85	36	55	-	8	1
%		42.4	64.7	-	9.4	1.2
20～29歳	218	86	147	5	15	7
%		39.4	67.4	2.3	6.9	3.2
30～39歳	148	62	87	6	11	7
%		41.9	58.8	4.1	7.4	4.7
40～49歳	87	23	63	3	3	3
%		26.4	72.4	3.4	3.4	3.4
50～59歳	55	10	37	3	7	3
%		18.2	67.3	5.5	12.7	5.5
60歳以上	25	7	18	1	3	1
%		28.0	72.0	4.0	12.0	4.0

【圏域別】

表 医療機関や歯科等を受診できなかった理由（圏域別）

	n=	医療機関に断られた	本人が嫌がった、本人が医療機関を苦手としている	医療機関までの交通手段がない	その他	回答なし
全体	639	236	421	18	47	24
%		36.9	65.9	2.8	7.4	3.8
尾張中部	7	4	3	1	1	1
%		57.1	42.9	14.3	14.3	14.3
海部	35	13	20	1	4	1
%		37.1	57.1	2.9	11.4	2.9
尾張東部	42	17	29	2	3	1
%		40.5	69.0	4.8	7.1	2.4
尾張西部	68	25	45	1	5	3
%		36.8	66.2	1.5	7.4	4.4
尾張北部	59	26	37	2	2	2
%		44.1	62.7	3.4	3.4	3.4
知多半島	119	45	78	1	9	2
%		37.8	65.5	0.8	7.6	1.7
西三河北部	88	33	62	3	5	2
%		37.5	70.5	3.4	5.7	2.3
西三河南部東	34	10	26	1	3	1
%		29.4	76.5	2.9	8.8	2.9
西三河南部西	76	28	52	5	4	2
%		36.8	68.4	6.6	5.3	2.6
東三河北部	10	4	7	1	-	0
%		40.0	70.0	10.0	-	-
東三河南部	81	26	48	-	10	8
%		32.1	59.3	-	12.3	9.9

6. 困りごとや必要な支援

(29) ご家族が相談できる人の有無

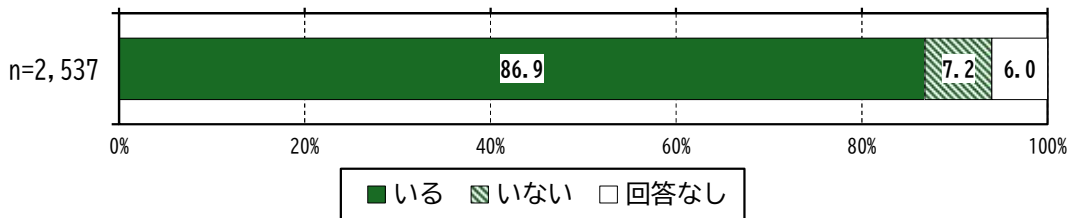
問 29

行動問題や支援についての困りごとや不安などがあったときに、ご家族が相談できる人はいますか。(あてはまるもの1つだけに○)

行動問題や支援についての困りごとや不安などがあったときの、ご家族が相談できる人の有無については、「いる」が86.9%と大半を占めている。一方で、「いない」が7.2%となっており、1割弱の方が、相談できる人がいない状況がうかがえる。

年代別では、ご家族が相談できる人の有無について、「いる」との回答は、0～20代では9割を超える一方、年齢が上がるにつれて低下し、60歳以上では8割を下回っている。

図表 ご家族が相談できる人の有無



【年代別】

表 ご家族が相談できる人の有無（年代別）

	n=	いる	いない	回答なし
全体	2,537	2,204	182	151
%		86.9	7.2	6.0
0～9歳	36	33	3	-
%		91.7	8.3	-
10～19歳	196	179	14	3
%		91.3	7.1	1.5
20～29歳	645	587	49	9
%		91.0	7.6	1.4
30～39歳	563	497	43	23
%		88.3	7.6	4.1
40～49歳	469	404	31	34
%		86.1	6.6	7.2
50～59歳	418	342	31	45
%		81.8	7.4	10.8
60歳以上	186	145	10	31
%		78.0	5.4	16.7

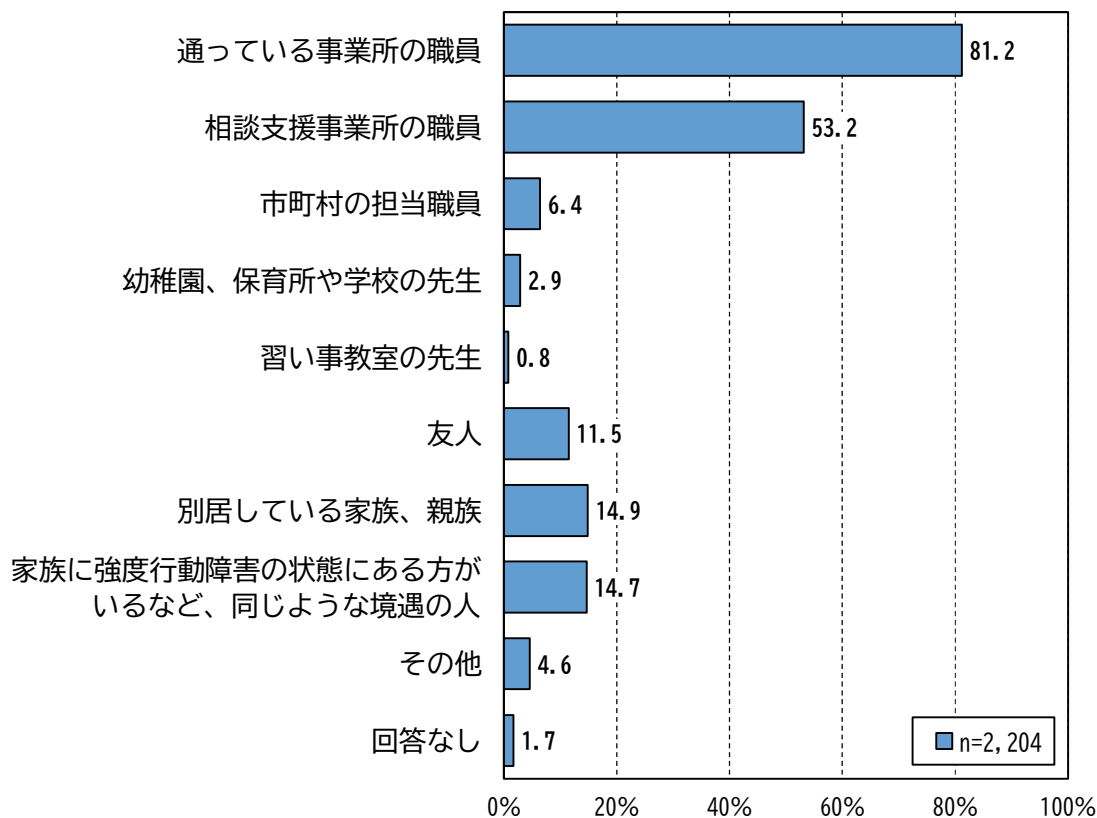
①相談できる人がいる場合、その人はどのような人ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

問 29 で、相談できる人が「いる」と回答した人 (2,204 件) のうち、相談できる人の属性については、「通っている事業所の職員」が最も高く 81.2%、続いて、「相談支援事業所の職員」が 53.2%、「別居している家族、親族」が 14.9%、「家族に強度行動障害の状態にある方がいるなど、同じような境遇の人」が 14.7%、「友人」が 11.5%となっている。

年代別では、全年代を通じて、最も主要な相談先は「通っている事業所の職員」であるが、0歳代や10歳代では、「幼稚園、保育園や学校の先生」が高くなっている。また、年齢が上がるにつれて、「相談支援事業所の職員」や「同じような境遇の人」といった複数の相談先をもつ割合が低下していることから、高年齢層では、「通っている事業所の職員」への依存度が高い状況となっている可能性が示唆される。

なお、「その他 (100 件)」の具体的な回答では、「病院・医師」「看護師」など医療関係が 63 件と大半を占め、他に「後見人」「当事者の家族やグループ」などが挙げられた。

図表 ご家族が相談できる人の属性



【年代別】

表 ご家族が相談できる人の属性（年代別）

	n=	通っている 事業所の職員	相談支援事 業所の職員	市町村の担 当職員	幼稚園、保 育所や学校 の先生	習い事教室 の先生	友人	別居してい る家族、親 族	家族に強度 行動障害の 状態にある 方がいるな ど、同じよ うな境遇の 人	その他	回答なし
全体	2,204	1,789	1,173	141	65	18	253	329	325	102	37
%		81.2	53.2	6.4	2.9	0.8	11.5	14.9	14.7	4.6	1.7
0～9歳	33	24	22	4	19	-	3	10	8	5	-
%		72.7	66.7	12.1	57.6	-	9.1	30.3	24.2	15.2	-
10～19歳	179	133	113	13	40	3	43	33	37	11	2
%		74.3	63.1	7.3	22.3	1.7	24.0	18.4	20.7	6.1	1.1
20～29歳	587	473	394	41	2	9	106	92	136	41	3
%		80.6	67.1	7.0	0.3	1.5	18.1	15.7	23.2	7.0	0.5
30～39歳	497	417	263	27	2	4	56	69	94	19	7
%		83.9	52.9	5.4	0.4	0.8	11.3	13.9	18.9	3.8	1.4
40～49歳	404	338	179	29	-	1	27	44	34	12	13
%		83.7	44.3	7.2	-	0.2	6.7	10.9	8.4	3.0	3.2
50～59歳	342	275	128	18	2	1	15	59	11	10	7
%		80.4	37.4	5.3	0.6	0.3	4.4	17.3	3.2	2.9	2.0
60歳以上	145	116	67	8	-	-	2	20	4	4	5
%		80.0	46.2	5.5	-	-	1.4	13.8	2.8	2.8	3.4

【行動関連項目点数（18歳以上）・強度行動障害判定基準（18歳未満）別】

表 ご家族が相談できる人の属性（行動関連項目点数（18歳以上）別）

	n=	いる	いない	回答なし
全体	2,375	2057	174	144
%		86.6	7.3	6.1
20点以上	73	69	4	-
%		94.5	5.5	-
18～19点	50	45	5	-
%		90.0	10.0	-
15～17点	102	90	5	7
%		88.2	4.9	6.9
10～14点	295	257	24	14
%		87.1	8.1	4.7
0～9点	1855	1596	136	123
%		86.0	7.3	6.6

表 ご家族が相談できる人の属性（強度行動障害判定基準（18歳未満）別）

	n=	いる	いない	回答なし
全体	138	130	7	1
%		94.2	5.1	0.7
20点以上	12	10	2	-
%		83.3	16.7	-
18～19点	6	5	1	-
%		83.3	16.7	-
15～17点	11	11	-	-
%		100.0	-	-
10～14点	30	28	2	-
%		93.3	6.7	-
0～9点	79	76	2	1
%		96.2	2.5	1.3

（※補足）

上記「行動関連項目点数（18歳以上）及び強度行動障害判定基準（18歳未満）」については問7、問16の回答を用いて独自の基準で点数化したものである。

(30) 臨時的にかかるお金

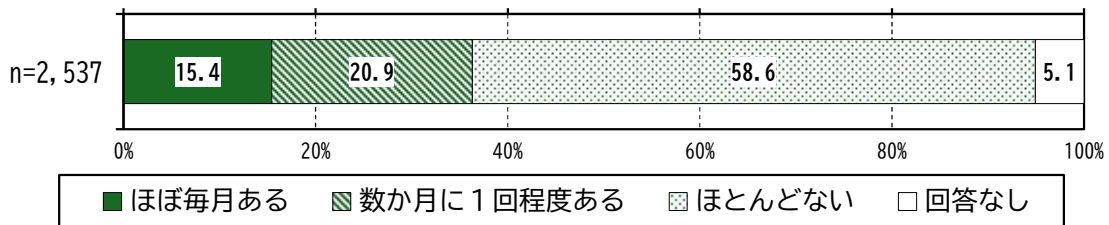
問 30

ご本人の行動障害（物を壊す、こだわりからの行動で買い物をする回数が増えた等）のために、臨時的にお金がかかることがありますか。（最も近いもの1つだけに○）

ご本人の行動障害（物を壊す、こだわりからの行動で買い物をする回数が増えた等）のために、臨時的にお金がかかることについては、「ほとんどない」が58.6%となっている。他方で、「数か月に1回程度ある」が20.9%、「ほぼ毎月ある」が15.4%となっている。

年代別では、行動障害により臨時的な出費が生じる割合は若年層ほど高く、10～19歳では6割を超える一方、年齢が上がるにつれて低下し、60歳以上では1割強にとどまっている。

図表 臨時的にかかるお金



【年代別】

表 臨時的にかかるお金（年代別）

	n=	ほぼ毎月ある	数か月に1回程度ある	ほとんどない	回答なし
全体	2,537	390	531	1,487	129
%		15.4	20.9	58.6	5.1
0～9歳	36	9	11	16	-
%		25.0	30.6	44.4	-
10～19歳	196	62	67	64	3
%		31.6	34.2	32.7	1.5
20～29歳	645	155	189	286	15
%		24.0	29.3	44.3	2.3
30～39歳	563	84	114	337	28
%		14.9	20.2	59.9	5.0
40～49歳	469	39	74	320	36
%		8.3	15.8	68.2	7.7
50～59歳	418	32	54	297	35
%		7.7	12.9	71.1	8.4
60歳以上	186	6	17	155	8
%		3.2	9.1	83.3	4.3

(31) ライフステージ別の困りごとや不安、ほしい支援やサービス

問 31

ご本人及びご家族にとっての困りごとや不安について、ご本人のライフステージ（人生の段階）ごとに教えてください。また、その困りごとや不安に対して、どのような支援やサービスがあればよいか教えてください。（それぞれ、具体的にお書きください）

※これまでのこと、現在のこと、今後のことについて、できるだけお書きください。

（主な意見については、参考資料に掲載）

① ライフステージ別の困りごとや不安について

1. 乳幼児期について

807 件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「発達の遅れ」「診断・支援につながらない」「多動・落ち着きのなさ」「相談先がない」などに関するものが多くあげられた。

2. 小学生期について

832 件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「不登校・学校不適應」「行動問題」「居場所不足」「家族の負担・限界」「送迎・移動の負担」に関するものが多くあげられた。

3. 中学生期について

794 件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「不登校・学校不適應」「思春期の変化・対応」「行動問題」「医療受診・精神症状」「家族の負担・限界」「送迎・移動の負担」等に関するものが多くあげられた。

4. 高校生期について

779 件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「行動問題」「学校生活」「卒業後の進路不安」「家族の負担・限界」「送迎・移動の負担」「医療受診・精神症状」等が多くあげられた。

5. 現在について

1,390 件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「行動問題」「施設・事業所に関すること」「家族の負担・高齢化」「制度・サービス不足」「住まい・生活の困難」などが多くあげられた。

6. 将来について

1,365 件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「家族の負担・高齢化」「行動問題」「施設・事業所に関すること」「住まい・生活の困難」「医療・介護不安」等に関するものが多くあげられた。

② あればよいと思う支援やサービスについて

1. 乳幼児期について

597件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「安心して過ごせる居場所の確保」「ネットワーク・仲間づくり」「相談支援・継続的な伴走」「療育・児童発達支援」「保育園・幼稚園等での受け入れ体制」「レスパイト・ショートステイ」「早期相談・早期診断につながる支援」に関することなどが多くあげられた。

2. 小学生期について

601件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「安心して過ごせる居場所の確保（日中一時支援）」「送迎・移動支援」「相談支援・継続的な伴走」「サービスの拡充」「レスパイト・ショートステイ」「学校での支援体制」「地域・周囲の理解」に関することなどが多くあげられた。

3. 中学生期について

507件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「安心して過ごせる居場所の確保」「レスパイト・ショートステイ」「送迎・移動支援」「サービスの拡充」「家族への支援」「相談支援・継続的な伴走」「ネットワーク・仲間づくり」「学校での支援体制」に関することなどが多くあげられた。

4. 高校生期について

496件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「レスパイト・ショートステイ」「安心して過ごせる居場所の確保（日中一時支援）」「送迎・移動支援」「サービスの拡充」「家族への支援」「相談支援・継続的な伴走」「卒業後の受け皿確保」「成人後・18歳以降のサポート」に関することなどが多くあげられた。

5. 現在について

901件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「生活の場・住まいの確保」「日中活動の充実」「余暇の充実」「レスパイト・ショートステイ」「送迎・移動支援」「人材・事業所の拡充」「サービスの拡充」「家族への支援」「相談支援・継続的な伴走」に関することなどが多くあげられた。

6. 将来について

943件の回答が得られた。主なキーワードとしては、「生活の場・住まいの確保」「医療・介護の体制」「親亡き後の支援」「送迎・移動支援」「サービスの拡充」「家族への支援」「相談支援・継続的な伴走」に関することなどが多くあげられた。

Ⅲ 地域分布図

(再掲) (圏域別市町村一覧)



尾張中部	清須市
	北名古屋市
	豊山町
海部	津島市
	愛西市
	弥富市
	あま市
	大治町
	蟹江町
	飛島村
尾張東部	瀬戸市
	尾張旭市
	豊明市
	日進市
	長久手市
	東郷町
尾張西部	一宮市
	稲沢市
尾張北部	春日井市
	犬山市
	江南市
	小牧市
	岩倉市
	大口町
扶桑町	

知多半島	半田市
	常滑市
	東海市
	大府市
	知多市
	阿久比町
	東浦町
	南知多町
	美浜町
武豊町	
西三河北部	豊田市
	みよし市
西三河南部東	岡崎市
	幸田町
西三河南部西	碧南市
	刈谷市
	安城市
	西尾市
	知立市
	高浜市
東三河北部	新城市
	設楽町
	東栄町
	豊根村
東三河南部	豊橋市
	豊川市
	蒲郡市
	田原市

① 行動障害の状態がより強い強度行動障害児者数（推計）の地域分布（名古屋市を除く）

行動障害の状態がより強い強度行動障害児者数（推計）を圏域別に整理し、地域分布として可視化した。対象は、18歳以上で行動関連項目18点以上の者および18歳未満で強度行動障害判定基準表30点以上の児とした。

人数規模の違いが直感的に把握できるよう、人数に応じて5段階（20人未満、20～49人、50～99人、100～149人、150人以上）で色分けを行った。

①行動障害の状態がより強い強度行動障害者の数（推計）の地域分布
 ※18歳以上・行動関連項目18点以上の者



②行動障害の状態がより強い強度行動障害児の数（推計）の地域分布
 ※18歳未満・強度行動障害判定基準表30点以上の児



③行動障害の状態がより強い強度行動障害児者数（推計）の地域分布

※18歳以上・行動関連項目18点以上の者

※18歳未満・強度行動障害判定基準表30点以上の児



(参考)

強度行動障害児者数（推計）の地域分布

※18歳以上・行動関連項目10点以上の者

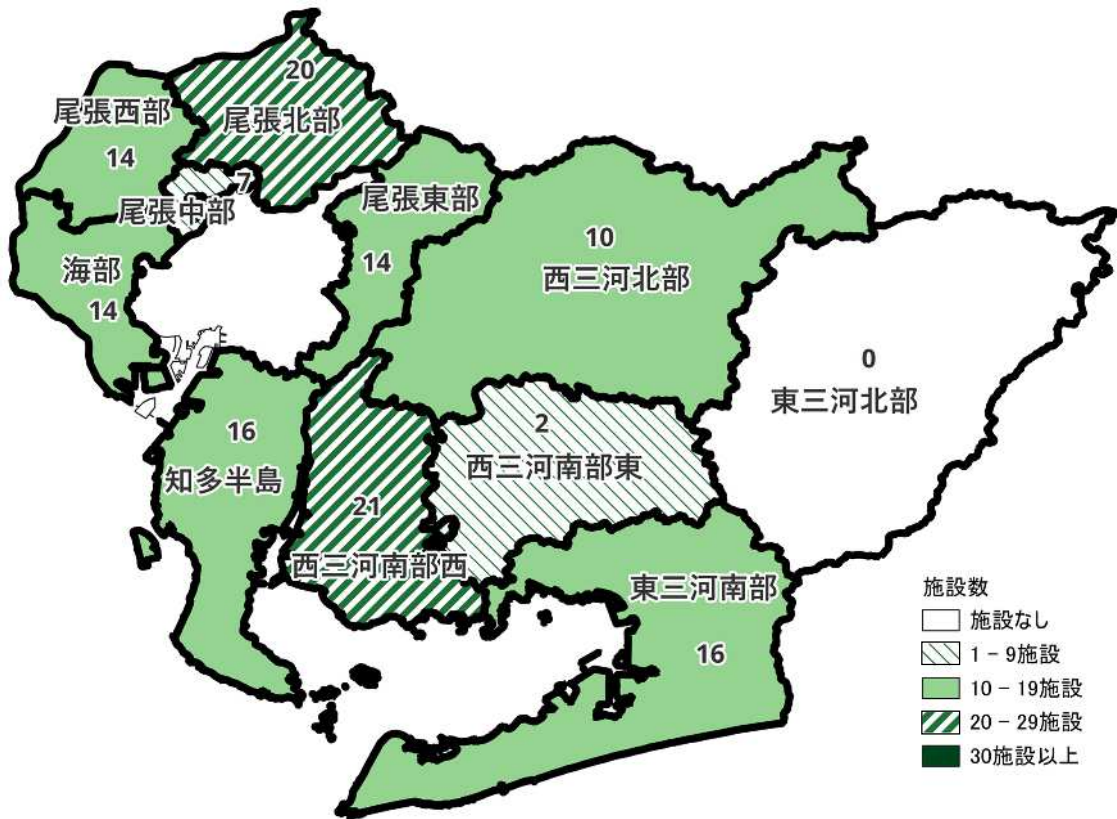
※18歳未満・強度行動障害判定基準表20点以上の児



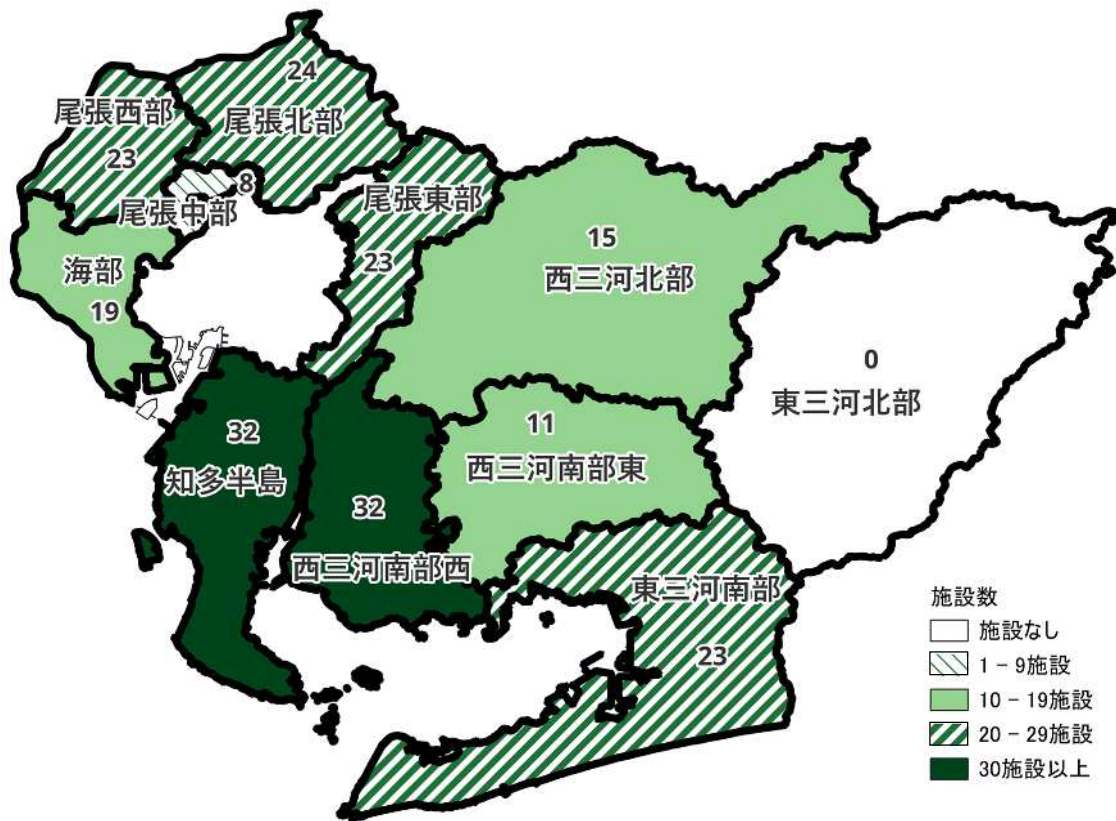
② 強度行動障害の支援加算を算定している事業所の地域分布

令和7年4月1日現在、強度行動障害児支援加算もしくは重度障害者支援加算を算定している事業所数を、事業所の種別・圏域別に整理し、地域分布として可視化した。事業所数の多寡が直感的に把握できるよう、施設数に応じて5段階（施設なし、1～9施設、10～19施設、20～29施設、30施設以上）で色分けを行った。

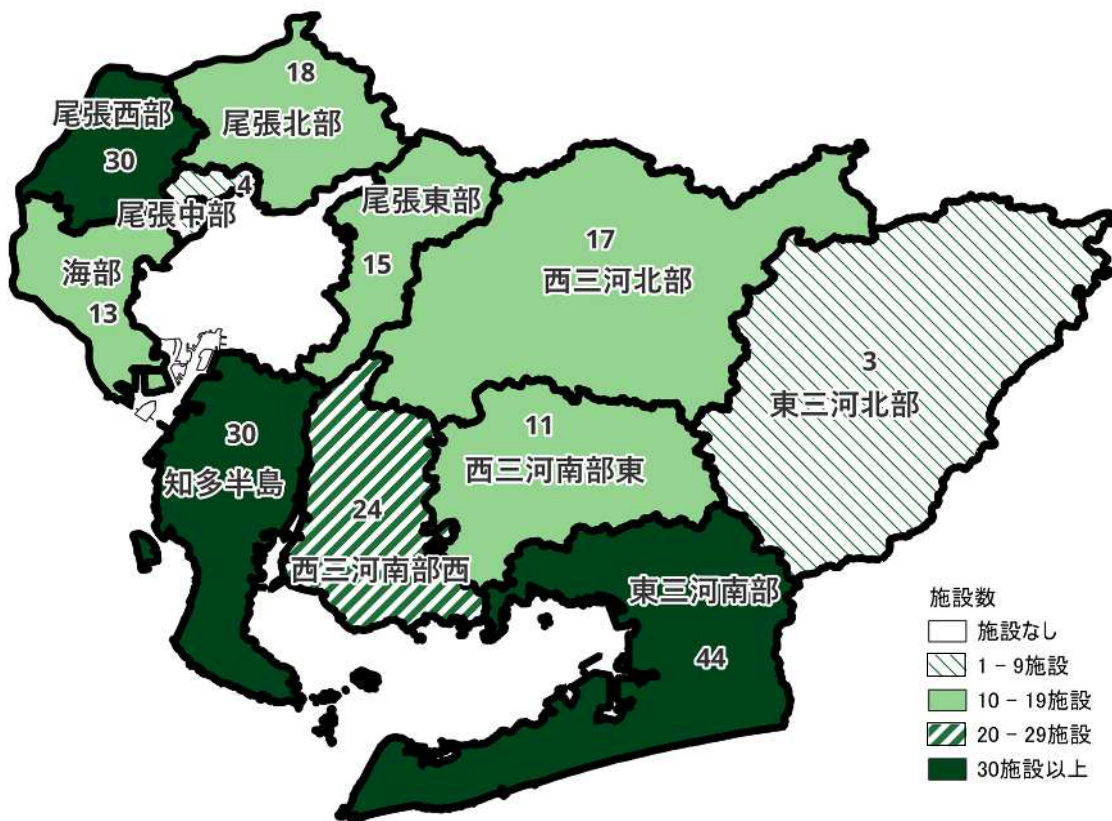
① 児童発達支援



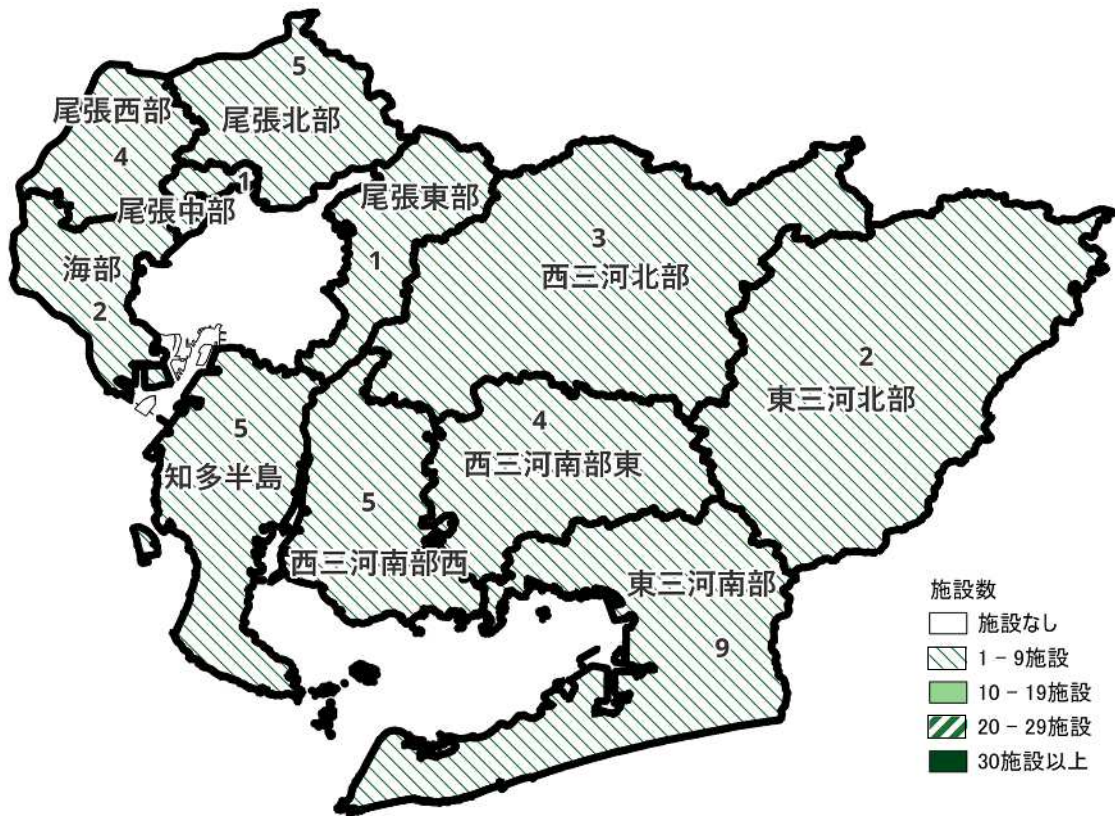
② 放課後等デイサービス



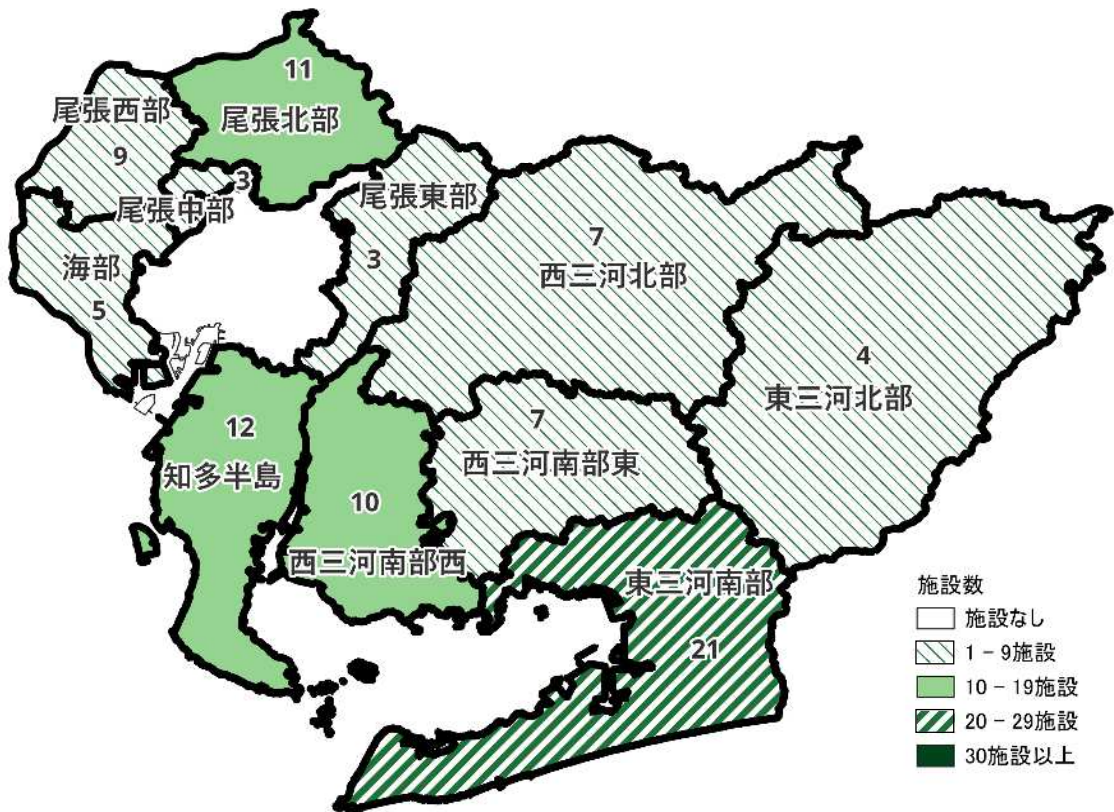
③ 生活介護



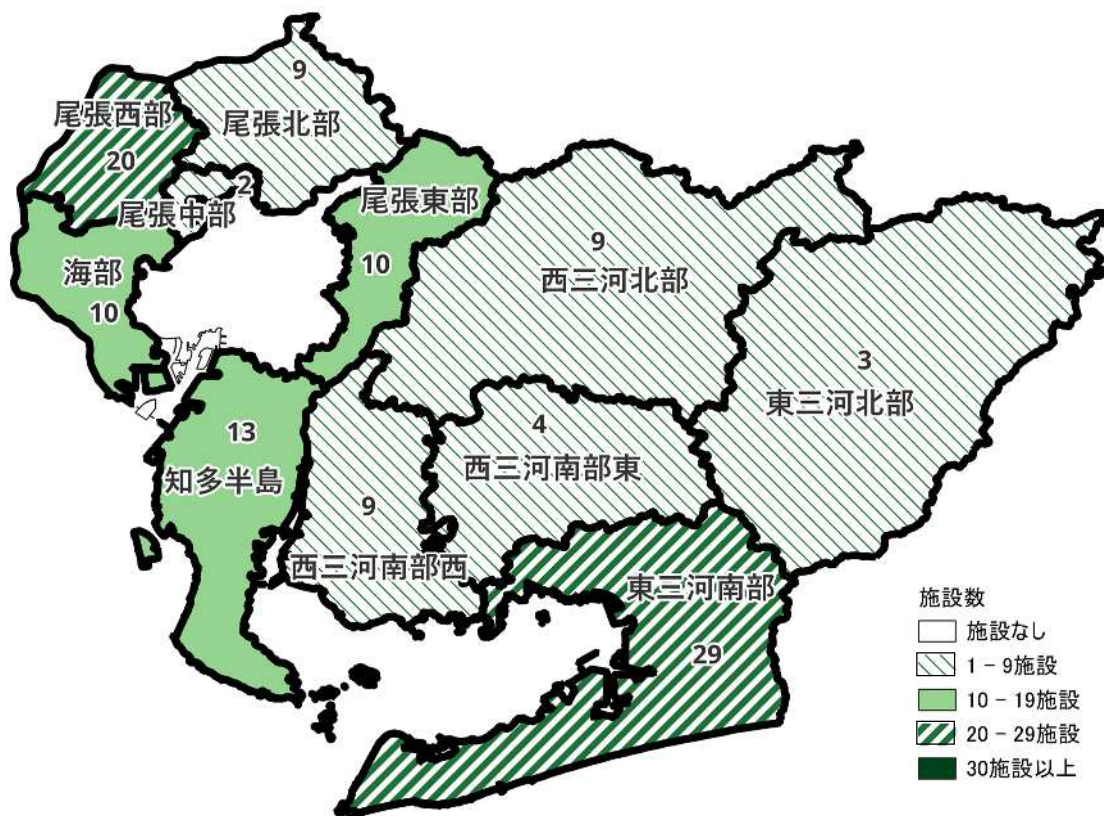
④ 施設入所支援



⑤ 短期入所



⑥ 共同生活援助（グループホーム）



IV 総括

(1) 本調査から読み取れる特徴

- 愛知県内（名古屋市を除く）における強度行動障害の状態にある児者の人口比は、約0.086%（約1,160人に1人）であった。
- 本調査に回答した強度行動障害の状態にある児者の男女比は、約2対1であった。
- 強度行動障害の症状が出始めた時期については、全体の50%以上が「小学生までに始まった」と回答しており、早期の始まりがうかがえる。

(2) 愛知県における強度行動障害児者を取り巻く現状

（調査概要・回収数について）

- 本調査は、愛知県内（名古屋市を除く）に在住の強度行動障害の状態にある児者を対象に、生活実態や支援状況、困りごと・支援ニーズを把握することを目的として実施したものである。回収数は2,537件と多く、量的データに加え、自由記述による具体的な経験や生の声が数多く寄せられた。

（回答者について）

- 回答者は、「ご家族」が73.9%、「事業所職員」が23.3%、「ご本人」は1.1%にとどまり、ご家族や事業所職員が大半を占めている。これは、強度行動障害の状態にある本人が自ら調査に回答することが難しい場合が多いという実態を反映したものであり、同時に、日常生活や支援の現場において、本人を支える家族や支援者が強度行動障害と向き合っている状況が本調査結果に色濃く表れていることを意味している。
- そのため、本調査で把握された困りごとや不安、支援ニーズは、本人の状態そのものに加え、生活を共にする家族の負担や支援体制のあり方、サービス利用のしづらさといった視点を含んだ実態として捉える必要がある。自由記述において多く寄せられた具体的なエピソードや切実な声は、数値データだけでは捉えきれない、強度行動障害の状態にある児者を取り巻く生活の現場の状況を補完するものとなっている。

（強度行動障害の症状・頻度・ピークについて）

- ご本人の状況をみると、強度行動障害の症状は小学校入学前から出現しているケースが多く、10歳代にピークを迎える例が一定数みられる一方で、「現在も続いている」と回答する人も少なくない。
- 行動の内容としては、「大声・奇声」「激しいこだわり」「不適切な対人行動」「興奮・パニック」など日常生活や集団生活との摩擦が生じやすい行動が高頻度で見られる。
- 頻度の面では、「週に1回以上」と回答する割合が比較的高い行動が複数存在し、本人・家族・支援者にとって継続的な負担となりうる実態がうかがえる。
- 一方で、本調査結果からは、強度行動障害の状態が一様ではなく、行動の種類や頻度、

生活への影響の現れ方に大きな幅があることも確認された。行動問題が「週に 1 回以上」みられる人が一定数存在する一方で、「ない」「まれにある」とする回答もみられ、強度行動障害の状態は固定的なものではなく、状況や環境、支援のあり方によって変化しうることがうかがえる。

- 実際に、行動問題のピークについて「ピークがあった」と回答した人の中には、現在は症状が落ち着いているとする人も一定数存在する。ピーク年齢は「15～19 歳」が最も高く、次いで「20～24 歳」「10～14 歳」「25～29 歳」などが続いており、10 歳代を中心に思春期前後でピークを迎えるケースが多いことがうかがえる。
- 落ち着いた理由としては、「適切な支援や対応の効果があった」「薬の効果があった」などが多く挙げられており、行動障害の状態が、支援や環境調整によって軽減・安定する可能性があることが示されている。一方で、「現在も落ち着いていない」とする回答も同程度存在しており、支援の効果が現れるかどうかは、個人差や置かれた環境条件に左右されている実態もうかがえる。

(家族の暮らし・生活)

- 生活の場については、現在も約半数が家族と同居しており、主な支援者は母親であるケースが大半を占めている。主に支援を担う家族の年齢は 50～60 歳代が中心であり、家族介護の長期化と支援者の高齢化が同時に進行している実態が明らかとなった。
- 加えて、同居家族の中にご本人以外にも介護や見守りを必要とする人がいる世帯も一定数存在しており、家庭内で複数のケア課題を抱えている状況がうかがえる。

(福祉サービスの利用状況)

- 福祉サービスの利用状況をみると、生活介護や入所施設（障害者支援施設）、グループホーム等については一定程度利用が進んでいる一方で、短期入所、日中一時支援、行動援護、移動支援などについては、「利用したいが利用できていない」とする回答が多くみられた。
- 利用できない理由としては、強度行動障害を理由に断られた、空きがない、事業所の都合で利用できなくなった点が多く挙げられており、制度やサービスが存在していることと、実際に必要な人が使えることとの間に乖離がある状況が浮かび上がっている。
- また、グループホームについては、利用している人が一定数いる一方で、「空きがなく断られた」とする回答も多くみられた。加えて、「事業所の支援体制や日常の様子が分からず不安」といった声も自由記述で多く確認されており、入居ニーズが存在する一方で、受け入れ状況や情報の分かりにくさが、利用に踏み切れない要因となっている状況が浮かび上がっている。

(支援者との情報共有)

- 支援に関する情報共有（問 24）や支援方法の共有（問 25）については、「共有されていることを知っている」「共有され、適切に支援されていると思う」と回答する人が

多数を占めており、関係者間で一定程度の情報共有が行われている状況が確認された。

- 一方、自由記述からは、「情報は共有されているが、それが本人にとって本当に適切な支援につながっているのか分からない」「本人が意思疎通を十分に行えないため、支援の妥当性を確認しづらい」といった不安も多く寄せられており、情報共有の有無と支援の質の確保とは必ずしも一致していない実態もうかがえる。
- 医療面（問 28）では、精神科以外の医療機関や歯科を受診したいにもかかわらず、受診できなかった経験を持つ人が一定数存在している。その理由としては、本人が医療機関を強く苦手としていることに加え、医療機関側に断られたとする回答も多く、医療へのアクセスの難しさが、強度行動障害の状態にある本人と家族の不安を一層強めている状況がうかがえる。
- また、圏域別に福祉サービスの利用状況をみると、居住地域によって利用されている福祉サービスの種類や利用状況に差がみられる。短期入所、日中一時支援、行動援護、移動支援などでは、圏域によって利用率に違いが確認されており、同じ県内であっても、居住地域により利用可能な支援の状況が異なっている実態が示されている。こうした圏域間の差は、日常生活における支援の受けやすさや家族の負担感にも影響している可能性がある。

(3) ライフステージを通じてみた課題の特徴

- 本調査では、自由記述（問 31）を通じて、乳幼児期から将来に至るまでの困りごと・不安、および必要とされる支援の内容が多数示された。
- 回答結果からは、強度行動障害の状態にある児者とその家族が直面する困難には、年齢や時期にかかわらず共通して続く困りごとや不安がある一方で、乳幼児期、学齢期、卒業前後、将来といったライフステージごとに、困りごとの内容や求められる支援が異なる側面があることがうかがえた。

① ライフステージを問わず共通してみられる困難

- 自由記述を通じて、ライフステージを問わず共通して語られている困難としては、日常生活全般における見守りや対応の負担の大きさ、突発的な行動への対応に伴う緊張や不安、外出や社会参加の制約、周囲の理解の得にくさなどが挙げられる。また、本人の意思疎通が難しい場合には、支援や対応が本人にとって適切であるかを確認しづらく、家族や支援者が常に試行錯誤を求められる状況も共通して指摘されている。
- これらの困難は、特定の時期に限られるものではなく、生活の場や所属先が変化しても形を変えながら継続しており、強度行動障害の状態にある人とその家族の生活全体に影響を及ぼしている実態がうかがえる。

② ライフステージごとにみられる困りごと・支援ニーズの特徴

- 一方で、困りごとや支援ニーズの内容には、ライフステージごとの特徴がみられる。
- 乳幼児期には、発達の遅れや行動の特徴に気づいても、相談先や診断・支援につながらないことへの戸惑いや不安・孤独感が多く回答されている。
- 学齢期（小・中・高）には、学校生活への適応の難しさや行動問題の顕在化、送迎や付き添いを含む家族負担の増大、放課後や長期休暇中の居場所不足が前面化する。
- 卒業前後から成人期にかけては、日中活動や生活の場の選択肢が限られること、短期入所や日中一時支援の利用の難しさなど、生活を支える基盤に関する課題が多く挙げられている。
- さらに将来については、親亡き後の生活の場や支援の継続、医療・介護との接続への懸念、重度化や高齢化に伴う受け入れ先への不安など、長期的な見通しに関わる課題が繰り返し示されている。
- このように、本調査からは、強度行動障害の状態にあるとその家族が直面する困難には、ライフステージを問わず共通して続く負担や不安が存在する一方で、乳幼児期、学齢期、卒業前後、将来といった各ライフステージにおいて、困りごとの内容や求められる支援の性質が異なっていることが確認された。
- そのため、支援の在り方については、単に「切れ目のない支援」を確保するという観点にとどまらず、各ライフステージ固有の困りごとやニーズを踏まえ、適切な支援内容を適切なタイミングで提供できているかという視点から検討していく必要がある。

(4) 今後検討すべき主な論点

これまで整理してきた調査結果から、今後、愛知県における支援の在り方を検討していくうえで、検討が求められる主な論点を整理した。

① 支援の整備状況と利用状況に関する実態の把握

- 福祉サービスについては、制度上は多様なサービスが整備されている一方で、「利用したいが利用できていない」「空きがない」「断られた」といった声が多く確認された。
- このことから、今後はサービスの量的整備だけでなく、強度行動障害の状態があることを前提とした受け入れ体制や運営の在り方、支援体制の整備、人材配置や支援方法の工夫など、「必要な人が実際に利用できるか」という観点からの検討が重要となる。
- なお、本調査は利用者側の実態把握を中心としたものであることから、今後は、事業所側の受け入れ体制や運営上の状況についても把握した上で検討していく必要がある。

② 家族支援・レスパイトの位置づけの再整理

- 主な支援者が母親であるケースが多く、家族介護の長期化や支援者の高齢化が進んでいる実態が明らかとなった。
- 強度行動障害の状態にある人の生活は、家族の支えによって成り立っている側面が大きく、今後は、本人支援と切り離すことなく、家族支援やレスパイトの位置づけをどの

ように整理するかが重要な論点となる。

③ 相談支援・当事者同士のネットワークの役割

- 自由記述からは、支援制度やサービスが分かりにくいことへの戸惑いや、将来に対する不安を一人で抱え込んでいる様子も多く語られている。こうした状況を踏まえると、制度やサービスの提供に加えて、相談支援の充実や、当事者・家族同士がつながるネットワーク、仲間づくりの場の役割についても検討の余地がある。
- 同じ立場の人同士が経験や工夫を共有できることや、孤立感を軽減できることは、支援を継続していくうえで重要な意味を持つ可能性があると考えられる。

④ 医療・福祉・相談支援の連携の在り方

- 医療機関へのアクセスの難しさは、本人の健康管理のみならず、家族の不安や生活全体に影響を及ぼしている。強度行動障害の状態にある人が必要な医療につながり続けるためには、医療機関単体での対応に委ねるのではなく、福祉や相談支援との連携を含めた支援体制の在り方を検討することが求められる。

⑤ ライフステージを通じて「見通し」を持てる支援の構築

- 本調査からは、ライフステージを問わず共通して続く困難が存在する一方で、各ライフステージにおける困りごとや支援ニーズの質が異なる実態がうかがえた。そのため、今後は「切れ目のない支援」という枠組みに加え、各ライフステージ固有の困りごとやニーズを踏まえ、適切な支援が適切なタイミングで提供されているかという視点から支援の在り方を検討していく必要があると考える。

(参考資料)

■ライフステージ別の困りごとや不安、ほしい支援やサービス（一部抜粋）

問 31	<p>ご本人及びご家族にとっての困りごとや不安について、ご本人のライフステージ（人生の段階）ごとに教えてください。</p> <p>また、その困りごとや不安に対して、どのような支援やサービスがあればよいか教えてください。（それぞれ、具体的にお書きください）</p> <p>※これまでのこと、現在のこと、今後のことについて、できるだけお書きください。</p>
------	---

①ライフステージ別の困りごとや不安について

1. 乳幼児期について

807 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「発達の遅れ」「診断・支援につながらない」「多動・落ち着きのなさ」「相談先がない」などに関するものが多くあげられた。

困りごと（主なキーワード）	主な意見
発達の遅れ	<ul style="list-style-type: none">▪ 1才6カ月すぎてもなかなか歩かなかった。▪ 自発的な言葉もなく、関わりを持つのが難しかった。▪ 言葉が遅かった。変わった行動をすること。
診断・支援につながらない	<ul style="list-style-type: none">▪ 初めての子供だったので 発達の遅れが分かりにくかった。▪ 初めての子で障害に気づけていなかった。一歳半で発語がなかったので保健所の教室には通ったが、市民病院の小児科では「まだ診断つかないので3歳まで様子を見てください」と言われた。療育手帳の存在も知らなかった。二歳違いで二人目の子が生まれて健常児との違いを思い知った。何もかもが違った。▪ 情報が無く、発達遅延としか言われてこなかった。
多動・落ち着きのなさ	<ul style="list-style-type: none">▪ とても不安な時期でした。病院の受診の予約待ちが長く、診断を受けられない。▪ 常に動き回り、目を離すとイタズラをしていて、一時も気が休まるときがなく疲れ、苦しかった。▪ 非常に多動で、ちょっと目を離した時に行方不明になったことが何回もあった。
相談先がない	<ul style="list-style-type: none">▪ 気楽な相談をできる場所がない。▪ 乳幼児期にどうしたらよいか相談する人が少なく悩んだ。▪ 同じような境遇の人に会うまでは自分の不安な気持ちを心に溜め込んでいた。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ どんな事を困りごととして相談していいものかもわからず、右往左往するしかなかった。
--	--

2. 小学生期について

832 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「不登校・学校不適應」「行動問題」「居場所不足」「家族の負担・限界」「送迎・移動の負担」に関するものが多くあげられた。

困りごと (主なキーワード)	主な意見
不登校・学校不適應	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学習について。学校生活について家での様子と違うのでわかりにくい。 ▪ 友人等（先生も含む）からのいじめ。 ▪ 学校で何か起こっても、その時にちょうど先生は見えていなくて、原因がわからないと言われることがほとんどで、対処のしようがなかったのが困った。学年が変わるたびに担任に一から子供の特徴を説明しないといけないのが不満で、引き継ぎがないというのは不安でもあった。
行動問題	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 身体がどんどん成長していくにつれ親より力も強くなり、行動の制御ができなくなった。暴れると手に負えない。 ▪ 大人数の行事や式典が苦手で大声が出てしまうのが辛かった。一応通学団に所属していたが、同じペースで動けないのも辛かった。 ▪ 日々の成長に合わせて体格もよくなりパニック時などの突発的な行動を制限するのが大変。大声で叫ぶためご近所さんの目が気になる。
居場所の不足	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 長期の休みの時の居場所。 ▪ 放課後等デイサービスが定員いっぱいでは利用できなかった。 ▪ うちの子の時代は家族以外に預けられる人がおらず、働くこともろくにできなかった。兄弟の子のことも気になったがほったらかしになってしまった。
家族の負担・限界	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 何がというより生活すべて大変。 ▪ 特に親が寝不足による疲労感があった。本人は自傷他害が多く、常に監視が必要で精神的にも肉体的にも疲労していた。 ▪ 本人の世話をしながら生活費のため働き（働ける時間が短い、預け先がない）また、世話…。介護者が休める時間や、治療や通院できる時間もお金もない。

送迎・移動の負担	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 障害者が普通の小学校に通うため親（母）の送迎の負担が多い。 ▪ 毎日、支援学校のバスまで送迎していたが、親の体調が悪い時は助けてほしかった。 ▪ 片道 40 分の支援学校への送迎が、幼い弟がいたこともあり大変だった。自宅を売却し、学校近くへ引っ越した。 ▪ 付き添い登校に困った。支援学級に通わせるため転居した。支援学校になってから付き添いはない。
----------	---

3. 中学生期について

794 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「不登校・学校不適應」「思春期の変化・対応」「行動問題」「医療受診・精神症状」「家族の負担・限界」「送迎・移動の負担」等に関するものが多くあげられた。

困りごと（主なキーワード）	主な意見
不登校・学校不適應	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校の教員が行動障害に対する知識、支援方法が乏しすぎる。叱ることしかできない。 ▪ 不登校になり、1 人にすることが出来ないので、常に母が家に居る必要があった。 ▪ 場面転換が苦手、学校まで遠かったので、スクールバスに乗る・降りるが大変だった。 ▪ 同級生とのトラブルが多く、よく学校に呼び出されることがあった。不登校になった。
思春期の変化・対応	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 一般的に思春期にあたるが、障害のある子でも少なからず思春期はあったので色々大変だった。 ▪ 元々の行動障害に加えて 思春期の不安定さもあり 困りごとは多すぎて書ききれない。 ▪ 多動、偏食、突発性行動、コミュニケーションを取りにくい、こだわりが強い、薬が服用できない。
行動問題	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 頭突きでガラスを割る。ドアをへこます。パニックで走り回ったり、大声を出したり、身体を打ち付ける。自傷で顔や顎を叩いて出血。物を投げる、倒す、破く。 ▪ こだわりが強くなり外出するのが難しくなった。 ▪ 体も大きくなり暴れ方もひどく、私一人では抑えられなくなった。
医療受診・精神症状	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 病院への受診時、暴れることが多く、体も大きく、力も強くなっていくため、母一人での付き添いでは対応できなくなってきた。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 病院等、慣れない場所等への強い拒否。隙をみて外出、行方不明。 ▪ てんかんの発作が起きるようになって、そばに誰もいない時に発作が起きたらと不安だった。
家族の負担・限界	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 介護する側のすべての時間が介護するものに費やされて疲れてしまった。 ▪ 長期休みは、親はひとときも休めなかった。兄弟も付き合わざるを得なかった。 ▪ 家族のみで本人を支えなければならない時代であった。
送迎・移動の負担	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 障害者が普通の小学校に通うため親（母）の送迎の負担が多い。 ▪ 片道 40 分ほどかかる学校まで、毎日自家用車で送迎していた。 ▪ 支援学校へ行っていたので大きな不安はなかった。バス通学だったので、バス停までの往復が大変だったのと、バスに乗っている時間が長かった為、本人が疲れやすかったように思う。思春期が重なったせいかパニックをおこすようになり、大声を出すようになった。

4. 高校生期について

779 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「行動問題」「学校生活」「卒業後の進路不安」「家族の負担・限界」「送迎・移動の負担」「医療受診・精神症状」等が多くあげられた。

困りごと（主なキーワード）	主な意見
行動問題	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 小・中・高を通じて毎日のパターン化されている行動はいいのだが、運動会とかの行事になると本人が不安になるのか夜寝なかつたり、パニックがあった。 ▪ こだわりが非常に強く、他人の行動にこだわり、みんなに嫌がられる。 ▪ 衣服を脱いでしまうことが多くなった。オムツもすぐに破ってしまい、ところかまわず尿を出していた。思春期も重なり大声を出して家の窓、部屋を叩いて壊した。常に怒っている状態だった。
学校生活	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 不登校だった。思い通りにならないと不穏になる。自傷行為が出る。 ▪ カリキュラムが小中とかわるのは仕方がないとわかっているが、教科担任制は環境の変化に不安を感じる子

	<p>どもたちにとっては不安で安心できない。我が子はこれで凄く不安になり荒れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校生活はみんなと仲よくでき、学校生活が送れた。ただし、怒り出すと1～2時間はずっと怒っている。 ▪ 同じ学校に通わせた時の兄弟のことが不安だった（兄弟の気持ち、兄弟の友達への影響）。近所・地域の人たちの理解も不安だった。地域の学校に通えず支援学校に通っていたので地域と切れてしまった感覚があった。
卒業後の進路不安	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 高等部、将来を決めなさいと、1年生から動いているが、何が自分の子に合うのか判断も難しく、選択も少ない。 ▪ 中学の特別支援学級の先生は特別な知識はなくあまり障害児について将来の進路を分かっておられなかったと思う。見本の寄宿は職業訓練学校へと言われ親は従った。環境の大きな変化が本人のストレスとなり統合失調発症となる。 ▪ 卒業後の進路、作業、実習で本人も不安で一番荒れた時期だった。母の自分も精神的不安定になりがちだった。 ▪ 卒業後の行き先が無いこと。精神面で不安定になる事が多くなり大変。
家族の負担・限界	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 目が離せず必ず家族の誰かが付いていないといけないストレスがある。年齢が上がるにつれて使えるサービスも増えてきたが、サービスとサービスの間時間も人の目がないと過ごせないなので、気軽に使えるサービスがあると良かったと思う。 ▪ 長期休みは、親はひとときも休めなかった。兄弟も付き合わざるを得なかった。 ▪ 母親への暴力が始まり対応に苦慮した。 ▪ 土日祝日に対応できる支援機関が少ない。
送迎・移動の負担	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 特別支援高等部、市内にはなく、市外までバスの乗り継ぎ2時間かかった。事業所体験可能施設を親が探し対応。親の負担大。 ▪ 強度行動障害対応のグループホームに入所するが、送迎などの関係で高等部には進学できず、日中は生活介護を利用する。 ▪ スクールバスに乗れず親が送迎していた。

医療受診・精神症状	<ul style="list-style-type: none"> 卒業が近づき、卒業後の施設選びに悩んだ。産まれてからずっと小児総合病院に通っていたのが、高校後半になると段々病院も卒業を言われる！慣れた病院をこの歳で変わらなければならない！病院は何処へ行けばいいのか！一からの経緯説明と病院の変更は大変。
-----------	---

5. 現在について

1,390 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「行動問題」「施設・事業所に関すること」「家族の負担・高齢化」「制度・サービス不足」「住まい・生活の困難」などが多くあげられた。

困りごと（主なキーワード）	主な意見
行動問題	<ul style="list-style-type: none"> 機能低下しており、怪我多く、階段があがれなくなった。階段を上がらなくてもいい一階で過ごしている。 先の見通しが立たない。激しい他害が母一人の時に起こると防ぎきれず、かなりのケガ（母）をしてしまう。離れているときは他害行動を起こさないか、一緒にいるときもいつスイッチが入るか、いつも不安で過ごさなければならない。本人も今年は3回ガラスを割り、大きなけがをしている。これ以上けがをさせたくない。 母以外に対応できる人がいないため、万が一の時に不安。暴れてしまうことで移動支援や行動援護を断られ、どこにも行けない。友達がおらず、孤独。
施設・事業所に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 9年近く同じところでお世話になっており、職員の人も対応に慣れて本人も落ち着いているが、時々環境が変わったり、職員が変わったりすると不安定になる。 極度の聴覚過敏により、地元の通所施設に通えない。また、ややマンモスの集合住宅で爆泣きが多発で夜勤の人に迷惑をかける。 若いうちにグループホームの体験だけでもさせたかったが、満員で入所はおろか体験もできない。 入所希望しても断られる。
家族の負担・高齢化	<ul style="list-style-type: none"> 高齢になり、親も亡くなり、兄弟に施設での役員を求められ対応に困っている。自分たちの病気等で世話ができない。 自分も体力がなくなってきているので介護が辛い。そろそろ入所を考えている。 平日は入所のところから生活介護に通っている。土日は家に帰り過ごしている。親も60代になり、このまま生活が

	いつまでできるか。同じ市内だが遠いので送迎できなくなった時不安。
制度・サービス不足	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 平日の月～金は生活介護施設に通っているが、毎日送迎していて、時間が短いので用事が済ませられないときがある。 ▪ 日中一時やショートステイを利用したいが、本人がなじまない、施設の人手不足があり利用できていない。 ▪ 本人の余暇の充実。睡眠が短く、夜数時間起きている。支援者の親が高齢化。将来への不安。 ▪ グループホームから週末は預かれないと言われており、平日仕事をしている自分には自分の時間がほとんどない。旅行などほとんど行けない。自分が倒れたら週末は誰が支援してくれるのか？
住まい・生活の困難	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 生活介護を利用させていただいて同じ施設に11年間通所している。ここ1年間ほどでようやく生活リズムが整って、短期入所も1泊なら使えるようになった。ただ、以前の荒れていた時の記憶もあるので常に心配である。 ▪ 災害が起きた時、避難所での集団生活は困難に思える。 ▪ 将来、グループホームなどで生活するために、ショートステイから練習して、慣らしていきたいが、ショートステイ先が少ない。 ▪ 他者への傷つける行為。集団生活への不適應。 ▪ 家以外での生活になれてほしい。

6. 将来について

1,365件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「家族の負担・高齢化」「行動問題」「施設・事業所に関すること」「住まい・生活の困難」「医療・介護不安」等に関するものが多くあげられた。

困りごと（主なキーワード）	主な意見
家族の負担・高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 高齢、病気等で介護できなくなった時の預け先が見つかるか。 ▪ 親亡き後の心配はずっとある。自立は望めないののでいつかはグループホームに入れたいが今は定員もいっぱいこの先どうになってしまうのか。自分の老後も含めて不安。 ▪ 私たち、親亡き後はどうなるのか心配。兄弟も2人いるがなるべく負担はかけたくないと思う。 ▪ 親亡き後で、どのように扱われるのか不安がある。現在は職員の皆様は優しくして下さっているのは分かっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 経済的なこと。強度行動障害等により、親亡き後虐待に合うのではないかと不安になる。(行政等により監督を充実させてほしい)
行動問題	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 今年になりやっと短期入所ができる施設を利用できるようになったものの(週1回利用)そこでも問題行動が多く利用回数を増やしていけない。先々入所先が見つかるのかすごく不安。今までも散々断られ続けてきた。 ▪ ことば以外、手での合図などでも使用して暮らしていけるか。本人は、ひらがなで名前を教えながらしか書けない。興奮すると落ち着かなく眠らない。物を壊す、破る、口に入れる、移動させてしまう。夕方から朝まで続いて起きているので、昼間に行動ができない。 ▪ 強度行動障害により今後利用したいサービスが使えない可能性があるのではないかと不安。
施設・事業所に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 母子家庭のため母親が突然倒れた時適切に 子供を守ってくれるのか 良いところに入所させてくれるのか不安。 ▪ 利用できる生活介護施設やグループホームがない、もしくは少ない。また、成人施設では学校+放課後等デイサービスに比べて利用時間が少なくなるため、仕事が今まで通りできず、転職せざるを得ないし世帯収入も減る。また兄弟児の習い事や病院受診などできる時間も減るためますます家族の負担が増える。 ▪ 現在入所施設にいるが、高齢者になって、今後、介護が必要になった時に、引き続き施設で生活できるのか。
住まい・生活の困難	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 今の共同生活援助先でずっと見ることが可能なのか…。過去に日中支援型のグループホームで見られないと断られている。ほとんどのグループホームで断られている。 ▪ 親が元気なうちはいいが、その先の生活が心配。 ▪ 本人が何を思っているのか分からないことが多いので、本人の希望をさぐりながら一番いい、将来を目指して、日々本人の生活、家族の生活を両立しながら、暮らしていくのがいいのかなと思う。
医療・介護不安	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 医療的ケアが必要になった時に受け入れてもらえる場所があるかどうか不安。 ▪ こだわりが強い中で、医療的ケアが必要になった時に利用できる事業所や高齢者施設、病院などがあるか心配。 ▪ 医療行為が必要な状況になっていくのが不安。 ▪ 親が高齢、病気等にかかった時に本人の通院や面倒を見てもらえるかが心配。

② あればよいと思う支援やサービスについて

1. 乳幼児期について

597 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「安心して過ごせる居場所の確保」「ネットワーク・仲間づくり」「相談支援・継続的な伴走」「療育・児童発達支援」「保育園・幼稚園等での受け入れ体制」「レスパイト・ショートステイ」「早期相談・早期診断につながる支援」に関することなどが多くあげられた。

あればよいと思う支援やサービス（主なキーワード）	主な意見
安心して過ごせる居場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 安心して遊ばせたり、生活できる所があればよいと思う。 ▪ 子供が小さい時は何の支援もなかったが、安心して子供を預けるところがあると、親も少し休息できると思う。 ▪ 保育園同等の支援をしてくれる（時間や質）児童発達支援があるといいと思う。場所が狭かったり、子どもの特性もあるが、長い時間預けられなかった。 ▪ 他人の目を気にせずに子供を遊ばせられるようなスペースや公園のような場所の提供。 ▪ 相談員、保育士がいる、自由に行ける遊び場（兄弟も自由に遊べる所）。ルールが少ない所。
ネットワーク・仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 同じ病気の方が集まる場所や親同士の交流が取れる場があると良い。 ▪ 療育と気軽に教えてもらえる支援や相談の場。子育ての仲間と話せる機会。専門家もいて預かってもらえたりするとよい。 ▪ 同じ悩みを持つ人達との交流会。
相談支援・継続的な伴走	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 子どもを連れていくのが難しい場合があるので電話相談や実際にオンラインで子どもの様子を見てもらってどうしたらいいか、一緒に考えてくれる相談窓口。療育の受け皿を増やす。 ▪ 気づいたとき、とにかく不安だったので、日中、2歳児と0歳児と自分の3人で過ごすのがつらかった。私の場合は、家に来てもらって話を聞いてほしいと思っていた。 ▪ 親のケアなど何でも気軽に話を聞いてもらえる場所があったら良かった。
療育・児童発達支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 日中預かってくれる場所。療育施設。 ▪ 療育施設。感覚統合施設。リハビリ施設、言語療法施設等をもっと増やしてほしい。 ▪ ケースワーカー充実。療育通園施設の充実。

<p>保育園・幼稚園等での受け入れ体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 障害児専門の保育園やこども園があればいいと思います。 ▪ 専門の保育園がない、専門の保育士がいない。 ▪ きょうだい児へのサポート。母親へのサポート。きょうだい児に対して保育園や保育士さんがサポートをしてくれてありがたかった。母子通園施設で分離保育をしてもらえたことで母親は休息ができたし、きょうだい児と関わる時間も持てた。
<p>レスパイト・ショートステイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 障害児の預かり保育のようなサービス（1泊は無理でも、数時間ぐらい）。 ▪ レスパイト（子どもと離れる時間がほしい）。 ▪ 自分たちの時は実費でレスパイトサービスを受けたので、1回5,000～10,000円はかかるので、公的サービスがあれば良かった。
<p>早期相談・早期診断につながる支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 今は違うのかも知れませんが、できるだけ早く診断して欲しかった。見る人が見ればわかるのだから早くに療育に繋げて欲しい。 ▪ 2歳で診断されたので、早い段階で言語訓練など受けたかったが「訓練しても話せるようにならない」と言われ、受けさせてもらえなかった。 ▪ 乳幼児期に早く診断できる専門家や医師がいる病院があるといいと思う。

2. 小学生期について

601件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「安心して過ごせる居場所の確保（日中一時支援）」「送迎・移動支援」「相談支援・継続的な伴走」「サービスの拡充」「レスパイト・ショートステイ」「学校での支援体制」「地域・周囲の理解」に関することなどが多くあげられた。

<p>あればよいと思う支援やサービス（主なキーワード）</p>	<p>主な意見</p>
<p>安心して過ごせる居場所の確保（日中一時支援）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 早朝から一時預かりしてくれる場所。 ▪ 日中一時、放課後等デイサービス。 ▪ 学校以外の通所施設が欲しかった。 ▪ 室内で遊べるアスレチック系の遊具が設置された施設。 ▪ 子の急な体調不良、休校などに対応してもらえる居宅サービス、施設。 ▪ 見守り支援、預かり支援。

送迎・移動支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 始まったばかりの移動支援を使って、支援学校のバスに乗せる、迎えに行く（毎日は無理なので）をやってもらっていた。 ▪ 移動支援があり本人が家族以外の人と出かけられるという経験をしてとてもリフレッシュできていたと思う。 ▪ 移動支援などで、展望台のある公園、いろいろ散歩に出掛けていた。 ▪ 移動支援で地域の方との交流する事が高学年のころからできており、脱走した時に協力してもらえたから移動支援はよかった。 ▪ 自宅から自宅までの移動支援サービスがあると良かった。
相談支援・継続的な伴走	<ul style="list-style-type: none"> ▪ その子の能力に合った生活、学習方法などについて。相談員によるサービス。 ▪ どこに相談していいかわからなかった。相談する場所があるのを知らなかったため、知っていたら違っていたかも。 ▪ 疎外感ばかりでは日々の育児も辛くなるし、担当コーディネーター的なもう少し個々に寄り添って道筋を示してくれる人がいてくれたらよかった。 ▪ 様々な事例とその対応例を閲覧できるツールがあると、先生も親も助かる。
サービスの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 夏休みに特に困りました、デイサービスに行く以外の朝・夕の時間に見守って欲しい。 ▪ 緊急な時、予約なしでもすぐに預けられる場所がほしい。本人が病気でも、数時間なら預けていられる病児病後保育所の大人バージョンがあれば、兄弟に我慢させることがない。 ▪ 兄弟の支援。レスパイト。親が一息つける支援。
レスパイト・ショートステイ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ショートステイも遠い。学校等がない時すぐ対応してくれる支援があるといい。 ▪ ショートステイを誰でも使えるようにしてほしい。デイサービスの利用日数上限が23日では足りない。家で過ごさせることが難しいので、土日でもデイサービスを利用したいが23日では週5しか利用できない。 ▪ 支援するサービスはあったが、レスパイト利用しかなかったのでお金がかかった。 ▪ 母（私）がうつ病になり、一時預かり施設があるとよかった。
学校での支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校の先生にもう少し障害児に対する知識を持ってほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校の教師全員が支援児と関わる機会を作り、理解を深め、定型発達の子たちへの理解、接する機会を増やす支援があればいい。 ▪ 支援級の拡大。1クラスに生徒が多すぎる。支援する先生を増やしてほしい。 ▪ 義務教育のカリキュラムにとらわれない、障害に合った支援学校であって欲しい。
地域・周囲の理解	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 障害児（者）を知らない人が多い、知るための勉強をする機会を作り対応してほしい。 ▪ 学校や同じ地域に住んでいる人への理解を求める何か。

3. 中学生期について

507件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「安心して過ごせる居場所の確保」「レスパイト・ショートステイ」「送迎・移動支援」「サービスの拡充」「家族への支援」「相談支援・継続的な伴走」「ネットワーク・仲間づくり」「学校での支援体制」に関することなどが多くあげられた。

あればよいと思う支援やサービス（主なキーワード）	主な意見
安心して過ごせる居場所の確保（日中一時支援）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 放課後支援、放課後デイサービスの充実。 ▪ 中学生になり身体が大きくなってくると、子ども用の遊具で楽しむことができなくなり、居場所が無く途方に暮れていた。居場所がほしい。 ▪ 放課後デイサービスの支援も利用できたので、充実していました。ただ事業所によっては、夏休み、冬休みなど始まる時間帯などが午後からであったりしたので、午前中からサービスが受けられる事業所が増えてほしい。 ▪ 放課後デイサービスは助かった。自宅でのイタズラやパニックも多いのでショートステイがあれば利用したかった。
レスパイト・ショートステイ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 母のうつ病も悪化し、家庭環境が悪くなり、少しでも預かる施設があると良かった。 ▪ 春・夏・冬休みと長期連休時に預かって頂ける所がほとんどなかったのが安心して預けられる施設があればと思った。 ▪ レスパイト（子どもと離れる時間がほしい。休日の移動支援）。

送迎・移動支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校終了後預かってくれる場所、送迎場所の変更、サポートしてくれる人、特に早朝の送迎サポート・移動サポート。 ▪ 家から学校までの往復の送迎サービス。 ▪ 朝の送迎が働いているとできない状況になる。うちの場合は父親が仕事を辞めて自宅でできるように協力してくれたからなんとか乗り切れたが、こんな家庭ばかりではないのでなんとかならないか。
サービスの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 力が強くなり、親（母）だけでは扱い切れないため、異性ということもあり移動支援、行動援護の利用できる時間が増やせれたらとても助かる。 ▪ 障害児入所施設の空きがなさすぎる。なぜ作らない。家族が高熱等のときは、ヘルパーなり代わりに送迎を頼める人がほしい。 ▪ 自閉症、その他の知的障害を理解した先生、スタッフの人数を充実してもらえれば助かる。 ▪ 障害を持った子どもでも受け入れる習い事を充実させて欲しい。
家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 母親が仕事に行けるような支援がほしい。 ▪ 移動支援で1人の支援者で障害者兄弟を支援して欲しいです。 ▪ 不安、不安定な時に親と子が距離をおいて互いに回復できる支援者、場所。 ▪ 特別支援学校を通勤と両立しやすい場所につくってほしい。
相談支援・継続的な伴走	<ul style="list-style-type: none"> ▪ どこに相談していいかわからなかった。相談する場所があるのを知らなかったため、知っていたら違ったかも。 ▪ 本人や保護者に対してのカウンセラー(相談できる人)がいればよいと思う。 ▪ 生まれた時からずっと伴走し、相談できるといいと思う。
ネットワーク・仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 母は疲弊している。母を救えるのは同じ立場の母だと思っている。悩みは解決しなくても、「だよね～」と言い合えるくらい笑い話に出来る仲間が大切。特に先輩お母さんは頼りになる。そういう場が必要。 ▪ 当事者家族や近い年齢で、支援者が指導するなか、活動、学び、宿泊を通じて、悩みや打開方法など学ぶ施設。家族が本人を理解出来る場。 ▪ 先輩のお母さん、親の話を聞く機会。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校の先生や支援センターの方などに相談した。母親も精神的に疲れ、同じ障害を持つ親の皆さんに話を聞いてもらい、癒された。
学校での支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 夏休みや放課後の支援は本当に助かった。中学部時代の先生が「高等部卒業後」を考える先生で、また進路の先生もライフステージを見据えた話をよくしてくれていたため、早くからいろいろと考えられた。 ▪ 特別支援学級などで行動障害対応のアドバイスが欲しかった。 ▪ 特別支援学級では同じ担任で3年間いてほしい。集団行動は本人の無理な参加はさせないように話し合いは担任とはよくすべき。

4. 高校生期について

496 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「レスパイト・ショートステイ」「安心して過ごせる居場所の確保（日中一時支援）」「送迎・移動支援」「サービスの拡充」「家族への支援」「相談支援・継続的な伴走」「卒業後の受け皿確保」「成人後・18歳以降のサポート」に関することなどが多くあげられた。

あればよいと思う支援やサービス（主なキーワード）	主な意見
レスパイト・ショートステイ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 春・夏・冬休みと長期連休時に預かって頂ける所がほとんどなかったため安心して預けられる施設があればと思った。 ▪ 週一回でもレスパイトサービスを使えて、お風呂・食事を済ませて家に帰ってくる日があると、家族も休める。本人も楽しみ（外出）ができる。泊りもありがたい。 ▪ ショートも受け入れてくれるところはなかった。親が休める支援があると良い。 ▪ 地域で通所、短期入所サービスが通えない。事業所の人手不足や経験不足などで断られる。 ▪ 緊急で見てもらえる施設があればいいと思う。 ▪ 家族の休息のためショートステイの拡充。
安心して過ごせる居場所の確保（日中一時支援）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ デイサービス。夏休みなどの長期休みに、多動だと一日預りが難しく、親が仕事だと調整するのに困ったことがあるので重度でも利用できる施設があったらよい。
送迎・移動支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 送迎に来てくれるサービスがあったらと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 移動支援は、公共交通機関ではなく、送迎利用可にしてほしい。 ▪ 学校からデイサービスへの送迎サービス（デイがやらない時の移動支援）。
サービスの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 子の急な体調不良、休校などに対応してもらえる居宅サービス、施設。 ▪ 同年代が集まって定期的に社会スキルを学習できる施設。 ▪ グループホームに入所しながらでも18歳未満は高校へ通えるようにしてほしい。学生時代の3年間はとても成長が大きなものだと考える。
家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 親に対するカウンセリングがあると助かった。まわりに自分程ひどい子はいなかった。 ▪ このころは本当に親もしんどかった。精神的にサポートしてもらえる（親が）サービスがあるとよかった。 ▪ 家族のみが支援者になるのではなく、強度行動障害に対する専門的な知識経験を積まれた方が対応される施設やサービスがあると良い。
相談支援・継続的な伴走	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 相談窓口に行ったことで、様々な施設の存在を知り、行政に頼ることができた。自分の精神状態も落ち着いた。 ▪ 相談支援事業所が人手不足で機能していない。一カ月に一回くらいはコンタクトできるようにしてほしい。 ▪ 自閉症に対しての細かい相談支援。
卒業後の受け皿確保	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 卒業後の進路を相談できる窓口。 ▪ このころは相談窓口が学校の先生だけで、ちょっと不安。学年の母たちが相談に乗ってくれていたのが、そのまま中学・高校と続き、現在もそれぞれが違う作業所、グループホームに通っていますが、年に3～4回全員で会うとこれはどう思うという相談大会になります。 ▪ 就労先の選択肢が増えること。 ▪ 卒業後の頑張っている先輩の姿が励みだったようです。就労実習など受け入れ先は限られていたのもっと多いと良いと思いました。 ▪ 教諭からは可能性なども踏まえた懇談会での意見も聞かせてもらえるが、就労の事業者からも意見が聞かせてもらえると希望が膨らむので、そのような機会も欲しい。
成人後・18歳以降のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 児童の時から精神科を受診している人は、成人しても児童精神科の受診ができるようにしてほしい。 ▪ 18歳以上のハンデのある人を受け入れてくれる施設が十分にほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 自立支援等は 18 才未満で終わるサービスなので、相談ぐらいいはできる機関が充実してほしい。 ▪ 成人するまでに準備すべきことの勉強会、生活の場によって必要なお金を試算できるシミュレーション。
--	---

5. 現在について

901 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「生活の場・住まいの確保」「日中活動の充実」「余暇の充実」「レスパイト・ショートステイ」「送迎・移動支援」「人材・事業所の拡充」「サービスの拡充」「家族への支援」「相談支援・継続的な伴走」に関することなどが多くあげられた。

あればよいと思う支援やサービス (主なキーワード)	主な意見
生活の場・住まいの確保	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 重度障害者向けのグループホームのショートステイを月 1 回利用しているが入所までは困難。待機組 200 名。 ▪ 本当は入所施設に入れたかったのですが、入る施設が無かったので (100 人まちと言われた) 入所施設がもう少しあればいいと思った。 ▪ 本人に合った施設がない。 ▪ 生活環境をできるだけ変えずに長時間 (8 時間) 支援を受けられる環境。 ▪ 天候、気温によって外は厳しいので室内で体を動かせる場所を作ってほしい。 ▪ 運動不足になりがちな障害児が優先的に遊べる場所。
日中活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ▪ B 型作業所ショート (2 時間) が気楽にできるといいと思う。 ▪ 児童デイサービスと同じように日中支援がたくさんできるようにしてほしい。 ▪ 日中一時支援の施設とグループホームを増やして欲しい。 ▪ 生活介護の先がなかなか見つからなかった。どこも人がいないから受け入れできないと言われたので、人員を増やしてほしい。
余暇の充実	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 余暇支援について移動支援が利用できないため、施設職員が対応している。実費でのレスパイト支援として、居宅介護事業所と契約はしているが慣れた支援者でないと対応が難しいことと費用面から、利用には至っていない。余暇の充実が図れる支援があるとよい。 ▪ 障害者の趣味や楽しみのための活動の場をさらに充実させて欲しい。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 安全を確保し、落ち着くまで見守ってほしい。暴れても受け入れてくれる入所施設、就労施設。障害がある人も通えるスポーツ講座など。 ▪ 障害児のみ使用できる体育施設。トランポリンや跳び箱など重度知的障害者も利用できるサービス。
レスパイト・ショートステイ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 受け入れ可能な宿泊施設。食事形態にも対応が欲しい。 ▪ 本人が生活できる環境。病児保育のように病気でも預かってくれる事業、サービス。
送迎・移動支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 無理かもしれないが、移動支援等で病院の付き添いのサービスがあると良い。 ▪ 移動支援がたくさん使えるとよい（いろいろなところで使えるように）。
人材・事業所の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ▪ グループホームにもう少し女性の支援員がいて欲しい。 ▪ グループホーム内に信頼できる人がいればと思う。本人がやりたいこと、行きたいと思うとことに付き添ってくれる人がいい。パニックになった時、それがなぜかを理解し対応してくれるスタッフが外にいてくれるといいと思う。 ▪ 高齢の知的障害の方に適した施設など。
サービスの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 土日祝日でもデイサービス、ショートステイがあると助かる。 ▪ 生活介護の後の預け先が欲しい。日曜日にも預けられる場所。緊急時の預け先が欲しい。 ▪ 特別養護老人ホームのような充実した障害者入所施設。 ▪ 週末などにお泊り体験できる場所を作ってほしい。 ▪ 対応事例を収集し、公開してほしい。 ▪ 興奮状態を避けるために落ち着いた環境での支援が必要。視覚支援にも配慮した環境整備ができるとよい。 ▪ 刺激の少ない環境での支援が望ましい。クールダウン可能な場所の確保ができるとよい。 ▪ 本人の気持ちに寄り添う支援者が家族以外にいと良いと思う
家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 介護をしている家族はほんとに大変。我が子は夜全く寝ず、母親にも一緒に起きていることを強要し、母はほぼ寝ずに日々を過ごし、ヘルパーの自己負担金も月15万を超えていました。市役所、病院、施設に相談しても、両親が揃っていて収入もある家族を支援する制度はない、とのことで八方塞がりになりました。介護する家族に対する支援を欲している。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 家族全員がコロナになった時は、本当に預かってほしかった。保健所に相談したら、赤ちゃんを見ているお母さんだっているよと言われたが、赤ちゃんは動き回らない。 ▪ 家族が送迎に間に合わない時に送迎してくれる支援。食事にこだわりがあるのに施設がなかなか支援してくれなかったので、支援してくれるサービス。継続的な活動。 ▪ 家族の休息のためショートステイの拡充。 ▪ 同居家族に何かあったら即座に入所できる施設。
相談支援・継続的な伴走	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 周りに同じ人がいなく、相談もできず、親も作業所の施設の人も対応が難しく、支援相談所があれば。病院等看護師がいる短期入所があると嬉しい。複合的に支援してくれる病院の窓口がほしい。 ▪ 家族での生活のことや対応の仕方など、的確なアドバイスをできる機関。それが公的な所ならなおよいが、そういう人や団体に繋げられる様な支援があればよいと思う。

6. 将来について

943 件の回答が得られた。

主なキーワードとしては、「生活の場・住まいの確保」「医療・介護の体制」「親亡き後の支援」「送迎・移動支援」「サービスの拡充」「家族への支援」「相談支援・継続的な伴走」に関する内容が多くあげられた。

あればよいと思う支援やサービス (主なキーワード)	主な意見
生活の場・住まいの確保	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 住んでいる周辺に利用できる入所施設があまりない。 ▪ 安心して預けられる施設。 ▪ 本人に合ったサービスができるグループホーム。 ▪ 安心して生涯任せられる施設の入所。 ▪ 一刻も早く入所させたい。地域、県外、どこでもいい。我々に将来という言葉はない。 ▪ 余暇や健康も気にかけてくれるグループホーム。 ▪ グループホームが増えてくれるといいなと思います。近隣のホームは満員である。
医療・介護の体制	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 障害福祉サービスから介護保険サービスへのスムーズな移行のシステム。介護保険への切り替え時期がわかるようなシステム。 ▪ このまま認知症が進んでいくと、相応の介護施設等へのサービスの切り替えも必要と感じている。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 障害者専用の病院。病院は、癩癩など起きる可能性もあり入ることもできず、何かあっても、かかることが出来ない。 ▪ 医療行為が必要になった時に、強度行動障害があっても受け入れてもらえるような施設。
親亡き後の支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 親亡き後の全てを託せるサービス。 ▪ 親亡き後も、本人がずっと変わりなく安心して生活できる支援をお願いしたい。 ▪ 成年後見人制度がもっと簡単に安価に利用できる様になって欲しい。 ▪ 将来親に代わって本人を世話する兄弟人のサポート。成年後見人の確かな人選・後見人を増やす。
送迎・移動支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 移動支援など市内で利用できたら良いと思う。 ▪ 親が動けなくなったり、亡くなった後でも、本人が希望する場合は移動支援が使えると良い(現在は、日中支援型のグループホームの為、不安がある)。
サービスの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 言葉のない子の意思を十分にくみ取り対応して頂ける環境がほしい。暴れたら薬で抑えるとかでなく、なぜ暴れるのかを考え、対応していただきたい。 ▪ ひとりの人間として大切にされて過ごしてほしい。決して管理されることのないように、福祉サービスに携わる人が安心して、長く働ける状況になるといい。 ▪ 生活の質を上げるサービス。金銭管理、本人の病気や死亡時に必要となる支援。 ▪ 本人のペースで楽しく生活してほしい。見守ってくれる人・理解者が増えると良い。
家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> ▪ シングルの親が障害の子を育てるのに安心できるよう、柔軟なサービスの利用ができると良い。親が介護で疲れ果てた時、ショートを1ヶ月など利用できるとか、親が帰宅するまで預けられる等。ショートステイの送迎も必須。 ▪ 将来への不安が大きい。障害者本人のために家族がどのような心構えや準備ができるか勉強する機会や場が欲しい。 ▪ お金のことも含めた支援やフォロー(もし、家族が先に死んだ場合)。
相談支援・継続的な伴走	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 障害者と家族が相談出来るところ。 ▪ 助けてほしいときに、相談に乗ってくれて、助けてくれるところがあると良い。 ▪ 年離れた父母が相談に乗ってくれるところ。

■ 調査票

令和7年度 愛知県強度行動障害児者実態調査への御協力をお願い

各位

日頃から、愛知県の障害福祉行政に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

愛知県では、強度行動障害により特別な配慮や支援の必要な方やそのご家族が地域で安心して暮らせるようにするために支援体制を充実させることが必要と考え、皆様の状況やニーズを知るために匿名のアンケート調査を実施することいたしました。

調査結果は、愛知県発達障害者支援体制整備推進協議会において検討を重ねながら、地域における支援体制の整備のための施策・計画の基礎資料とするほか、市町村にも還元し、地域の支援体制構築に活用してまいります。

お忙しいこととは思いますが、調査に御協力くださいますよう、お願いいたします。

令和7年8月 愛知県福祉局長

- この調査票は愛知県が作成し、障害福祉サービスの申請時などに聞き取った内容を踏まえて、お住まいの市町村からお配りします。
- 調査結果は行政資料として公表します。なお、公開するものは統計処理を行い、個人を特定することはありませんのでご安心ください。また、調査結果を目的以外に使用することはありません。
- 集計データは、障害福祉施策の基礎資料とするためにお住まいの市町村に提供させていただきます。
- 記入が終わりましたら、**9月30日(火)まで**に同封の返信用封筒にて、切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。
- WEB 回答もできます。以下の二次元コードもしくは URL から調査専用サイトにアクセスして回答してください。

<日本語版>



URL: <https://forms.office.com/r/LeBQJbEibk>

<English Version>



URL: <https://forms.office.com/r/WBOCeNAERO>

【御記入にあたってのお願い】

- 強度行動障害をお持ちのご本人の状況に一番詳しい方が回答してください。(施設スタッフの方が御回答いただいても構いません。)
- 調査票の質問で「ご本人」と書かれている箇所は、強度行動障害の状態にある方を指します。

【強度行動障害とは】

以下のような行動が1つ以上当てはまり、ご自身や周りの人の暮らしに影響のある行動が何回も繰り返し起こるため、特別に配慮された支援が必要な状態をいいます。

- ・激しい自傷行為(叩く、抜毛、頭突き、打撲、骨折等)
- ・激しい他害行為(殴打、ひっかき、つねり、頭突き、押し倒す等)
- ・破壊的行動(ガラス・壁・テレビを壊す、服を破る等)
- ・不潔行動(便いじり、放尿、唾吐き等)
- ・不適切行動(大声奇声、抱きつく、騒音を出す、服を脱ぐ、激しいこだわり等)
- ・落ち着かせるのが困難なほどの多動、興奮、パニック
- ・事故につながる危険な行動(道路への飛び出し等)
- ・体に異常をきたすほどの偏食、過食、異食 など

配慮された環境で落ち着いて過ごせており、設問にあるような状態がみられない場合は、調査票に記載の行動や状況があったときのことをお答えください。

アンケートに関するお問い合わせ先

愛知県福祉局福祉部障害福祉課

強度行動障害児者実態調査担当

〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

TEL 052-954-6293 FAX 052-954-6920

Email shogai@pref.aichi.lg.jp

ご本人の状況について教えてください。

問1 ご本人がお住まいの市町村を教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

【東三河】	【西三河】	【知多】	【尾張】		【海部】
1. 豊橋市	9. 岡崎市	19. 半田市	29. 一宮市	39. 日進市	47. 津島市
2. 豊川市	10. 碧南市	20. 常滑市	30. 瀬戸市	40. 清須市	48. 愛西市
3. 蒲郡市	11. 刈谷市	21. 東海市	31. 春日井市	41. 北名古屋市	49. 弥富市
4. 新城市	12. 豊田市	22. 大府市	32. 犬山市	42. 長久手市	50. あま市
5. 田原市	13. 安城市	23. 知多市	33. 江南市	43. 東郷町	51. 大治町
6. 設楽町	14. 西尾市	24. 阿久比町	34. 小牧市	44. 豊山町	52. 蟹江町
7. 東栄町	15. 知立市	25. 東浦町	35. 尾張旭市	45. 大口町	53. 飛島村
8. 豊根村	16. 高浜市	26. 南知多町	36. 稲沢市	46. 扶桑町	54. その他 (市町村名をお 書きください _____)
	17. みよし市	27. 美浜町	37. 岩倉市		
	18. 幸田町	28. 武豊町	38. 豊明市		

問2 このアンケートに回答しているのはどなたですか。(あてはまるもの1つだけに○)

1. ご本人 2. ご家族 3. 事業所職員
4. その他 (ご本人との関係を具体的にお書きください_____)

問3 ご本人の性別を教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)

1. 男性 2. 女性 3. 当てはまるものがない 4. 答えなし

問4 ご本人の年齢(令和7年4月1日現在)を教えてください。(数字を記入)

歳

問5 強度行動障害の症状が出始めたのはいつ頃からですか。(あてはまるもの1つだけに○)

1. 小学校入学前	2. 小学生	3. 中学生
4. 中学卒業後19歳まで	5. 20~24歳	6. 25~29歳
7. 30~34歳	8. 35~39歳	9. 40~44歳
10. 45~49歳	11. 50~54歳	12. 55~59歳
13. 60歳以降	14. わからない	

問6 ご本人が持っている各種の手帳の等級、障害支援区分などを教えてください。

① 療育手帳（あてはまるもの1つだけに○）

1. A判定 2. B判定 3. C判定 4. 持っていない

② 愛護手帳（あてはまるもの1つだけに○）

1. 1度 2. 2度 3. 3度 4. 4度 5. 持っていない

③ 精神障害者保健福祉手帳（あてはまるもの1つだけに○）

1. 1級 2. 2級 3. 3級 4. 持っていない

④ 身体障害者手帳（あてはまるもの1つだけに○）

1. 1級 2. 2級 3. 3級 4. 4級
5. 5級 6. 6級 7. 持っていない

※身体障害者手帳をお持ちの場合は障害部位を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1. 肢体不自由 2. 視覚障害 3. 聴覚障害
4. その他（具体的にお書きください_____）

⑤ 障害支援区分（あてはまるもの1つだけに○） ※受給者証を確認してお書きください

1. 区分1 2. 区分2 3. 区分3 4. 区分4
5. 区分5 6. 区分6 7. わからない

問7 ご本人とのコミュニケーション、説明に対する理解について教えてください。

① コミュニケーション（意思の疎通）の状況（最も近いもの1つだけに○）

1. 日常生活に支障ない程度にコミュニケーションが可能
2. 特定の人に対してのみコミュニケーションできる
3. 会話以外の方法、独自の方法によりコミュニケーションできる
4. ほとんどコミュニケーションできない

② 説明に対する理解の状況（最も近いもの1つだけに○）

1. 概ね理解できている
2. 理解できていない
3. 理解できているか判断できない

問8 ご本人に、次にあてはまる症状や状況はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 知的障害(知的発達症)の原因となる疾患(ダウン症、ウィリアムズ症候群など)

※原因となる具体的な疾患や診断名を教えてください。

2. 自閉症(自閉スペクトラム症・アスペルガー症候群・広汎性発達障害を含む)

3. 注意欠如・多動症(ADHD)

4. 学習障害・学習症

5. てんかん

6. 精神障害の原因となる疾患(統合失調症、躁うつ病など)

※原因となる具体的な疾患や診断名を教えてください。

問9 ご本人に、感覚過敏や感覚鈍麻などはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 視覚過敏(しかくかびん)

(例:日光や室内光などの光がとてまぶしく感じ、苦痛に感じる。特定の色や柄が苦手)

2. 聴覚過敏(ちょうかくかびん)

(例:大きな音、突然の音、時計の秒針の音やエアコンの動作音などの小さな生活音が苦手)

3. 触覚過敏(しょっかくかびん)

(例:特定の感触が苦手、衣服のタグや着心地・素材などが気になる、人に触れられることが苦手)

4. 味覚過敏(みかくかびん)

(例:特定または独特の食感が苦手、または味を強く感じる。匂いや味が混ざった食べ物が苦手)

5. 嗅覚過敏(きゅうかくかびん)

(例:特定の匂いが苦手、動物園や化粧品売り場など匂いを強く感じるため苦手な場所がある)

6. 感覚鈍麻(かんかくどんま)

(温度の変化に無頓着、音が聞き取りにくい、人に呼ばれても気が付かないことがある
痛みがあっても気がつきにくいなど、刺激に対して他の人と同じような反応がおこらない)

問10 ご本人が通学していた学校などを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 幼稚園

2. 保育所、認定こども園

3. 託児所等

4. 児童発達支援(通園施設含む)

5. 小学校(通常学級)

6. 小学校(支援学級)

7. 特別支援学校小学部

8. 中学校(通常学級)

9. 中学校(支援学級)

10. 特別支援学校中学部

11. 高等学校

12. 特別支援学校高等部

13. 通信制の学校

14. 専修学校

15. 大学・大学院

16. その他(具体的にお書きください_____)

ご本人の生活の場や同居家族の状況について教えてください。

問 11 ご本人の現在の主な生活の場を教えてください。(最も近いもの1つだけに○)
※入院期間が3ヶ月未満の方は入院前の主な生活の場を回答してください。

- | | | |
|--------------------------|--------------------|----------------|
| 1. 家族と同居 | ⇒問12から問15を回答してください | } ⇒問16に進んでください |
| 2. 入所施設(障害者支援施設) | | |
| 3. グループホーム | | |
| 4. グループホーム以外の共同住居 | | |
| 5. 入院中(3ヶ月以上) | | |
| 6. その他(具体的にお書きください_____) | | |

※問12から問15は、「1. 家族と同居」を選んだ方のみ回答してください。

問 12 同居している方の続柄と人数(ご本人も含む)を教えてください。

① 同居している方のご本人との続柄(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|----------------------------------|------|---------|--------|
| 1. 父 | 2. 母 | 3. 兄弟姉妹 | 4. 祖父母 |
| 5. その他の親せき(続柄をお書きください_____) | | | |
| 6. 親せき以外の人(ご本人との関係をお書きください_____) | | | |

② 同居している人数(ご本人も含む)(数字を記入)

人

問 13 同居家族のうち、主に(一番長く)ご本人の身の回りの支援をしている方について教えてください。

① 主に支援している方のご本人との続柄(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|----------------------------------|------|---------|--------|
| 1. 父 | 2. 母 | 3. 兄弟姉妹 | 4. 祖父母 |
| 5. その他の親せき(続柄をお書きください_____) | | | |
| 6. 親せき以外の人(ご本人との関係をお書きください_____) | | | |

② 主に支援している方の年齢(令和7年4月1日現在)(あてはまるもの1つだけに○)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 19歳以下 | 2. 20~29歳 | 3. 30~39歳 | 4. 40~49歳 |
| 5. 50~59歳 | 6. 60~69歳 | 7. 70~79歳 | 8. 80歳以上 |

問 14 他の同居家族は、ご本人の支援に対して協力的ですか。(最も近いもの1つだけに○)

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1. 非常に協力的 | 2. まあまあ協力的 |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり協力的ではない |
| 5. まったく協力的でない | 6. ご本人と主に支援する方の二人暮らしである |

問 15 ご本人の他に、介護や見守り等の支援が必要な同居家族はいますか。
(あてはまるもの1つだけに○)

- | | |
|--------------------|--------|
| 1. いる (人数 _____ 人) | 2. いない |
|--------------------|--------|

※「いる」場合は、必要な方のご本人との属性を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| 1. ご本人の祖父または祖母 | 2. ご本人の父または母 |
| 3. ご本人の兄弟姉妹 | |
| 4. その他の親せき (続柄をお書きください _____) | |

ご本人の行動障害の状態について教えてください。

問 16 適切な支援や対応がなされないときに起きる、強度行動障害の内容と頻度を教えてください。(それぞれの項目について、最も近いもの1つだけに○)

① 自らを傷つける行為、激しい自傷行為

(肉が見えたり、頭部が変形に至るほど叩く、爪をはぐ、抜毛、頭突き、打撲、骨折など)

- | | | |
|-----------|-----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日 (週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

② 他人を傷つける行為、激しい他害行為

(噛みつき、蹴る、なぐる、髪引き、ひっかけ、つねり、頭突き、押し倒すなど)

- | | | |
|-----------|-----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日 (週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

③ 激しいもの壊し、破壊的行動

(ガラス、家具、壁、ドア、テレビ、茶碗、椅子、眼鏡などを壊し、その結果危害が本人にも周りにも大きいものや、服を何としてでも破ってしまうなど)

- | | | |
|-----------|-----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日 (週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

④ 排泄に関する著しい問題

(便を手でこねたり・投げたり・壁面になすりつける、放尿、強迫的に排尿排便行動を繰り返すなど)

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日(週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

⑤ 大声・奇声をだす、騒音を出す、通常とちがう声を上げるなど、著しい騒がしさ

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日(週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

⑥ 不適切な対人行動、不潔な行動(抱きつく、服を脱ぐ、唾吐きなど)

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日(週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

⑦ 激しいこだわり

(強く指示してもどうしても服を脱ぐ、外出を拒みとおす、何百メートルも離れた場所に戻り取りに行くなどの行為で止めても止めきれないもの)

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日(週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

⑧ 著しい多動、突発的な行動

(身体・生命の危険につながる飛び出しをする、目を離すと一時も座れず走り回る、ベランダの上など高く危険なところに上る、など)

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日(週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

⑨ 行動停止

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日(週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

⑩ 落ち着かせるのが困難なほどの興奮、パニック

(一度パニックが出ると、周囲が止めても体力的に収められず、付きあっていかれない状態を呈する)

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日(週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

⑪ 異食行動(便や釘、石など体に異常をきたすことのある異食)

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日(週5日以上) | 6. 一日に1回以上 |

⑫ 身体に異常をきたすほどの偏食・拒食・過食、反すう等の食事に関する行動

- | | | |
|-----------|----------------|------------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日（週5日以上） | 6. 一日に1回以上 |

⑬ 睡眠の大きな乱れ

（昼夜が逆転してしまっている、ベッドにいられずに人や物に危害を加えるなど）

- | | | |
|-----------|----------------|-----------|
| 1. ない | 2. まれにある | 3. 月に1回以上 |
| 4. 週に1回以上 | 5. ほぼ毎日（週5日以上） | |

問 17 ご本人の状況が悪化したとき、どのような症状がより激しくなりましたか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-----------------------------|-------------------|-------------|
| 1. 自らを傷つける行為 | 2. 他人を傷つける行為 | 3. 激しいものこわし |
| 4. 排泄に関する行動 | 5. 大声・奇声を出す | 6. 激しいこだわり |
| 7. 不適切な対人行動・不潔な行動 | | 8. 著しい多動 |
| 9. 行動停止 | 10. 興奮・パニック | 11. 異食 |
| 12. 偏食・過食・反すう等 | 13. 睡眠の乱れ | |
| 14. その他の症状（症状をお書きください_____） | | |
| 15. わからない | 16. 症状が激しくなることはない | |

問 18 状況が悪化して激しくなった症状は、どのようにして落ち着きましたか。
（あてはまるものすべてに○）

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 静かな場所へ連れていき、落ち着くのを待った |
| 2. ご本人から距離を取り、落ち着くのを待った |
| 3. ご本人が落ち着くために、好きなものを渡した |
| 4. ご本人の苦手な音などの刺激を止めた |
| 5. 症状悪化に対応する頓服薬を服用した |
| 6. やむを得ずご本人の要求を受け入れた |
| 7. 安全のため、やむを得ずご本人の身体を抑えて落ち着くのを待った |
| 8. 精神科病院に緊急入院した |
| 9. その他（対応等を具体的にお書きください_____） |

問 19 ご本人の行動問題の症状や状態のピーク頃の状況を教えてください。

① 行動問題の症状や状態のピークは何歳でしたか。（数字を記入）

	歳
--	---

② ピークの頃の症状や状態は落ち着きましたか。(最も近いもの1つだけに○)

1. 落ち着いた(年齢を記入) ⇒③と④の質問に回答してください

歳頃に落ち着いた

2. 現在も落ち着いていない ⇒問20に進んでください

※③と④の質問は、「1. 落ち着いた」を選んだ方のみ回答してください。

③ 軽快したとすれば、この調査に回答する現在までどのくらいの期間、落ち着いた状態が続いていますか。(最も近いもの1つだけに○)

1. 約1か月

2. 約3か月

3. 約6か月

4. 約1年

5. 約2年

6. 3年以上

④ 落ち着いた状態になった理由として考えられることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 適切な支援や対応の効果があつた

2. 薬の効果があつた

3. ご本人の要求を受け入れた

4. その他(具体的にお書きください_____)

※適切な支援や対応の効果があつた場合、どのような支援の効果があつたか具体的にお書きください。

障害福祉サービスや日中活動の状況について教えてください。

問 20 現在、ご本人が普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|--------------------|-------------------|----------------|
| 1. 児童発達支援 | 2. 放課後等デイサービス | 3. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 4. 保育所等訪問支援 | 5. 短期入所 | 6. 居宅介護 |
| 7. 重度訪問介護 | 8. 行動援護 | 9. 生活介護 |
| 10. 重度障害者等包括支援 | 11. 自立訓練 | 12. 就労移行支援 |
| 13. 就労継続支援（A型） | 14. 就労継続支援（B型） | 15. 日中一時支援 |
| 16. 移動支援 | 17. 地域活動支援センター | 18. グループホーム |
| 19. 障害児入所施設 | 20. 入所施設（障害者支援施設） | 21. 療養介護 |
| 22. 就労先 | 23. 幼稚園、保育所等 | 24. 通常学級（学校） |
| 25. 支援学級 | 26. 特別支援学校 | |
| 27. その他（具体的に_____） | | |
| 28. 利用等はしていない | | |

問 21 利用しているサービスのうち、同じサービスで複数の事業所を利用しているものがあれば教えてください。（生活介護を2ヶ所の事業所で利用している、など）
(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|
| 1. 児童発達支援 | 2. 放課後等デイサービス | 3. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 4. 保育所等訪問支援 | 5. 短期入所 | 6. 居宅介護 |
| 7. 重度訪問介護 | 8. 行動援護 | 9. 生活介護 |
| 10. 重度障害者等包括支援 | 11. 自立訓練 | 12. 就労移行支援 |
| 13. 就労継続支援（A型） | 14. 就労継続支援（B型） | 15. 日中一時支援 |
| 16. 移動支援 | 17. 地域活動支援センター | 18. 就労先 |
| 19. その他（具体的に_____） | | |
| 20. 複数の事業所等を利用しているものはない | | |

※同じサービスで複数の事業所等を利用している場合や、複数の障害福祉サービスを利用する場合に不都合はありますか。（最も近いもの1つだけに○）

- | |
|--------------------------------|
| 1. 事業所間で支援方法が異なり、ご本人が混乱することがある |
| 2. その他の不都合がある（具体的に_____） |
| 3. 不都合は特にない |

問 22 利用したいのに利用できていない福祉サービスとその理由を教えてください。
(あてはまるサービスの番号に○をつけ、利用できない理由を下のA～Gから選んでください。)

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1. 児童発達支援【理由_____】 | 2. 放課後等デイサービス【理由_____】 |
| 3. 居宅訪問型児童発達支援【理由_____】 | 4. 保育所等訪問支援【理由_____】 |
| 5. 短期入所【理由_____】 | 6. 居宅介護【理由_____】 |
| 7. 重度訪問介護【理由_____】 | 8. 行動援護【理由_____】 |
| 9. 生活介護【理由_____】 | 10. 重度障害者等包括支援【理由_____】 |
| 11. 自立訓練【理由_____】 | 12. 就労移行支援【理由_____】 |
| 13. 就労継続支援（A型・B型）【理由_____】 | 14. 日中一時支援【理由_____】 |
| 15. 移動支援【理由_____】 | 16. 地域活動支援センター【理由_____】 |
| 17. グループホーム【理由_____】 | 18. 障害児入所施設【理由_____】 |
| 19. 入所施設（障害者支援施設）【理由_____】 | 20. 療養介護【理由_____】 |
| 21. その他（具体的サービス_____）【理由_____】 | |
| 22. 利用できないサービスはない | |

<利用できない理由> ※A～Gから選んで、サービスの横にご記入ください。

- A. 申し込んだが、強度行動障害を理由に断られた
- B. 利用していたが、事業所の都合で利用できなくなった
- C. 事業所の様子が分からないから不安
- D. 通える範囲にない
- E. 事業所の送迎がない（家族が送迎する必要がある）
- F. 申し込んだが空きがなく断られた、待機中
- G. その他（具体的に_____）

※利用できないサービスがある場合、利用できないことで困ったことを具体的にお書きください。

問 23 福祉サービスの利用にあたって、希望などはありますか。（具体的にお書きください）

関係機関等との連携の状況について教えてください。

問 24 ご本人の行動問題の状況に関する情報について、支援に関係する人（学校や事業所の職員等）と共有していますか。（最も近いもの1だけに○）

1. 学校や事業所等に情報提供しており、職員等と情報共有されていることを知っている
2. 学校や事業所等に情報提供しているが、職員等と情報共有されているかわからない
3. 学校や事業所等に情報提供していない
4. その他（具体的に_____）
5. わからない

問 25 ご本人への適切な支援の方法について、支援に関係する人（学校や事業所の職員等）と共有していますか。（最も近いもの1だけに○）

1. 支援の方法は共有されており、適切に支援されていると思う
2. 支援の方法は共有されているが、適切に行われているかどうかわからない
3. 支援の方法は共有されていない
4. その他（具体的に_____）
5. わからない

問 26 行動問題を軽減させることを目的に、現在、ご本人は定期的に通院していますか。（あてはまるもの1だけに○）

1. 精神科系の医院・病院に通院している
2. 小児科などの精神科以外の医院・病院に通院し、行動問題も含めて診察を受けている
3. 精神科系とあわせて、精神科以外の医院・病院でも行動問題も含めて診察を受けている
4. 行動問題を軽減させる目的での通院はしていない

※通院している場合、行動問題を軽減させるために処方された薬を飲んでいますか。（あてはまるもの1だけに○）

1. 定期的に薬を飲んでいる
2. 症状が悪化したときだけ、薬を飲んでいる
3. 薬は飲んでいない

問 30 ご本人の行動障害（物を壊す、こだわりからの行動で買い物をする回数が増えた等）のために、臨時的にお金がかかることがありますか。（最も近いもの1つだけに○）

1. ほぼ毎月ある 2. 数か月に1回程度ある 3. ほとんどない

※臨時的にお金がかかった場合、1回につきおおよそどのくらいの費用がかかりましたか。（おおよその金額について数字を記入）

問 31 ご本人及びご家族にとっての困りごとや不安について、ご本人のライフステージ（人生の段階）ごとに教えてください。

また、その困りごとや不安に対して、どのような支援やサービスがあればよいか教えてください。（それぞれ、具体的にお書きください）

※これまでのこと、現在のこと、今後のことについて、できるだけお書きください。

ライフステージ	困りごと、不安	あればよいと思う支援やサービス
乳幼児期		
学齢期 (小学生)		
学齢期 (中学生)		
学齢期 (高校生)		
現在		
将来		

問 32 現在、ご本人が利用している障害福祉サービスの事業所を教えてください。
(利用している事業所の名称と所在市町村をお書きください)

事業所の名称	所在する市町村

問 33 現在、ご本人が通院している医院・病院を教えてください。
(利用している医院・病院の名称と所在市町村をお書きください)

医院・病院の名称	所在する市町村

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。
この紙に回答いただいた方は、返信用封筒に入れてポストに投函してください。

ご回答いただいた内容は、統計処理を行い
個人を特定することはありませんのでご安心ください。

**愛知県強度行動障害児者実態調査
報告書**

令和8年3月

発行：愛知県

編集：愛知県福祉局福祉部障害福祉課

〒460-8501

愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

TEL：052-954-6293